

令和 5 ・ 6 年度

国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

図面番号	図 面 名 称	縮 尺 (A2)
A-00	表紙・図面リスト	N. S
A-01	特記仕様書(共通事項・仮設工事)	N. S
A-02	特記仕様書(その1)	N. S
A-03	特記仕様書(その2)	N. S
A-04	特記仕様書(その3)	N. S
	特記仕様書(その4)	
A-05	特記仕様書(その5)	N. S
A-06	特記仕様書(その6)	N. S
	特記仕様書(その7)	
A-07	特記仕様書(その8)	N. S
A-08	特記仕様書(その9)	N. S
A-09	附近見取図・配置図	1:150
A-10	仕上表	N. S
A-11	敷地求積図	1:150
A-12	建物求積図	1:150
A-13	1階平面図	1:100
A-14	2階平面図	1:100
A-15	屋上平面図	1:100
A-16	立面図 1	1:100
A-17	立面図 2	1:100
A-18	断面図	1:100
A-19	1 階平面詳細図A	1:50
A-20	1 階平面詳細図B	1:50
A-21	2 階平面詳細図A	1:50
A-22	2 階平面詳細図B	1:50
A-23	屋上平面詳細図A	1:50
A-24	屋上階平面詳細図B	1:50
A-25	断面詳細図	
A-26	矩計詳細図	
A-27	部分詳細図	1:50
A-28	建具表・避難シューター参考図	1:50
A-29	鋼製階段手摺詳細図	1:10・1:20・1/30・1/50
A-30	外構図	1:20・1/30・1/100
A-31	進入口整備工事 1	1:100
A-32	進入口整備工事 2	1:50
A-33	概略工程表	N. S
K-01	仮 設 計 画 図 1	1:150
K-02	仮 設 計 画 図 2	1:50
K-03	仮 設 計 画 図 2	1:50
K-04	準備工事配置図	1:150

[illegible][illegible][illegible]

章	項 目	特 記 事 項	④ 地 業 工 事	① 支持地盤等		3 場所打ちコンクリート杭地業	③ 砂利地業																																																																																																																															
③	土工事	<div>①埋戻し及び盛土(3.2.3) 表3.2.1による種別 ・A種 適用場所 () ・B種 適用場所 (基礎、地中梁) ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 (細粒分(75μm以下)の含有率(重量百分率)の上限を50%未満とする) 適用場所 () ・材料及び工法 材料 () 工法 () ②建設発生土の処理(3.2.5) ※「建設発生土情報交換システム」を活用し近隣の受入先を調査の上、搬出距離、受入条件等が確認できる資料を監督職員に提出し、協議により搬出先を決定する。搬出後、監督職員へ搬出先の受入を確認できる資料を提出する。なお、次の運搬に相当する経費を見込んでいる。 搬出距離 () D1D区間 () 仮置場 () ・場外指定場所に搬出する。搬出後、監督職員へ搬出先の受入を確認できる資料を提出する。 搬出場所 () 受入条件 () 仮置場 () ・場内指定場所に敷き均し () ・場内指定場所に堆積 ③場外搬出適切処理(3.3.3) 鋼矢板等の抜き後の処理 ※直ちに砂等で充填する 山留めの存置 〇行う (存置範囲 〇図示) ④建設汚泥の処理 処理対象 〇図示 処理方法 〇再生資源化施設へ搬出 「建設汚泥の再利用に関するガイドライン(平成18年6月12日国土交通省)」により建設汚泥の発生量の抑制に努めること。 ⑤現場透水試験 現場透水試験 (〇 行う ・行わない) 〇 現場透水試験結果を、山留工事に活用する。</div>	④ 地 業 工 事	① 支持地盤等	②既製コンクリート杭地業	③ 鋼杭地業	③ 場所打ちコンクリート杭地業	③ 砂利地業																																																																																																																														
				<div>(3.2.1)(4.2.4)(4.3.4、5)(4.4.4)(4.5.5、6)</div> <div>〇杭基礎 支持層の位置及び土質 (基礎ぐいの先端位置含む) 〇図示による (S-09) ・直接基礎 支持地盤の位置及び土質 (基礎底盤の位置含む) ・図示による () 試験掘り (根切り底の状態の確認等) ・行わない ・行う 位置等 〇図示による () ・地盤の載荷試験 載荷試験の方法 〇地盤工学会基準 JGS 1521による 試験の位置、載荷荷重 〇図示による () (4.2.2)(4.3.1、3～6、8)</div> <div>種類等 ・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭) ・プレストレスト鉄筋コンクリート杭(PRC杭) 〇外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭) SC杭の鋼管材料 〇SKK400 〇SKK490 寸法、継手、性能等 (種別：種類、性能及び曲げ強度区分)</div> <table><tr><th></th><th></th><th>種 類</th><th>コンクリート 強度(N/mm2)</th><th>杭 径 (mm)</th><th>厚 さ (mm)</th><th>杭 長 (mm)</th><th>継手数</th><th>セ ッ ト 数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>試 験 杭</td><td>上杭 中杭 下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>本 杭</td><td></td><td></td><td></td><td>500</td><td>80</td><td>5000</td><td></td><td>36</td><td>750</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>杭先端部形状 〇開放形 ・半開放形 ・閉そく形 工法 〇セメントミルク工法 試験杭 試験杭の位置 〇図示による (S-10) 掘削深さ 〇図示による (S-09) 杭の支持層への根入深さ 〇図示による (S-09) 杭の精度 水平方向の位置ずれ 〇杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 〇1/100以内 ・特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α=()、β=()、γ=() 工法 〇プレボーリング拡大根固め工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・杭周固定液 〇使用する ・使用しない 試験杭 試験杭の位置 〇図示による () 杭の支持層への根入深さ 〇図示による () 杭の精度 水平方向の位置ずれ 〇杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 〇1/100以内 杭の継手の工法 ・アーク溶接継手 溶接材料 〇標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 〇認定等を受けた工法 検査 〇認定等により定められた項目 施工 〇認定をされた施工管理基準による 杭頭の処理等 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) 〇図示による () 杭頭の中詰め材料 〇基礎のコンクリートと同調合のもの (4.2.2)(4.3.8)(4.4.3～6)</div> <div>鋼杭の材料 ・ 寸法、継手等</div> <table><tr><th></th><th>種 類</th><th>杭 径 (mm)</th><th>板 厚 (mm)</th><th>杭 長 (mm)</th><th>継 手 数</th><th>セ ッ ト 数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>試 験 杭</td><td>上杭 中杭 下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>本 杭</td><td>上杭 中杭 下杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>工法 ・特定埋込杭工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法 ・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式のうちα、β、γが以下の値を採用できる工法 α=()、β=()、γ=() 工法 ・中掘り拡大根固め工法 ・ 試験杭 試験杭の位置 〇図示による () 杭の支持層への根入深さ 〇図示による () 杭の精度 水平方向の位置ずれ 〇杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 〇1/100以内 ・</div>						種 類	コンクリート 強度(N/mm2)	杭 径 (mm)	厚 さ (mm)	杭 長 (mm)	継手数	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	試 験 杭	上杭 中杭 下杭										本 杭				500	80	5000		36	750														種 類	杭 径 (mm)	板 厚 (mm)	杭 長 (mm)	継 手 数	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	試 験 杭	上杭 中杭 下杭								本 杭	上杭 中杭 下杭																	<div>杭の継手の工法 ・溶接継手 形状 〇JIS A 5525による 溶接材料 〇標準仕様書7.2.5(1)(2)による ・無溶接継手 (継手部に接続金具を用いた方式のもの) 工法 〇認定等を受けた工法 検査 〇認定等により定められた項目 施工 〇認定をされた施工管理基準による 杭頭の処理等 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断にともなう補強方法含む) 〇図示による () 杭頭の中詰め材料 ・基礎のコンクリートと同調合のもの (4.2.2)(4.5.1、4～6)</div> <div>工法 ・アースドリル工法(安定液 ※使用する ・使用しない) ・リバース工法 ・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない) 併用する工法 ・場所打ち鋼管コンクリート杭工法 鋼管巻き材料 〇SKK400 〇SKK490 ・拡底杭工法(安定液 ・使用する ・使用しない) 寸法等</div> <table><tr><th></th><th>軸 径 (mm)</th><th>拡 底 径 (mm)</th><th>杭 長 (mm)</th><th>セ ッ ト 数</th><th>長期設計支持力 (kN/本)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>試 験 杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>本 杭</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>試験杭 試験杭の位置 〇図示による () 孔壁の保持状況 (孔壁測定) 測定箇所 〇試験杭 () 箇所及び本杭 () 箇所 杭の支持層への根入深さ 〇図示による () 杭の精度 水平方向の位置ずれ 〇杭径の1/4かつ100mm以下 杭の傾斜 〇1/100以内 鉄筋の種類</div> <table><tr><th>種類の記号</th><th>呼び径 (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・SD295A</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・SD345</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> <div>帯筋 〇図示による () 鉄筋の最小かぶり厚さ 〇100mm 鉄筋がこの補強 ・杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50～75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと主筋との接触部を溶接する ・ 組み立てた鉄筋の節ごとの継手 ※重ね継手 重ね継手の長さ 〇図示による () ・ 主筋の基礎底盤への定着長さ 〇図示による () セメントの種類 ※高炉セメントB種 コンクリートの設計基準強 〇図示による () コンクリートの種別 〇A種 〇B種 〇認定等の内容による スランプ 〇※18cm 構造体強度補正 ※3N/mm2 〇図示による () 〇評定等の内容による (4.6.2、3)</div> <div>材料 〇再生クラッシュラン(RC-0～40) 〇切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ 〇60mm 〇100mm 適用範囲 〇基礎下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下 ・図示による ()</div>					軸 径 (mm)	拡 底 径 (mm)	杭 長 (mm)	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考	試 験 杭							本 杭														種類の記号	呼び径 (mm)	備 考	・SD295A			・SD345								
		種 類	コンクリート 強度(N/mm2)	杭 径 (mm)	厚 さ (mm)	杭 長 (mm)	継手数	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																																																																																																																												
試 験 杭	上杭 中杭 下杭																																																																																																																																					
本 杭				500	80	5000		36	750																																																																																																																													
	種 類	杭 径 (mm)	板 厚 (mm)	杭 長 (mm)	継 手 数	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																																																																																																																														
試 験 杭	上杭 中杭 下杭																																																																																																																																					
本 杭	上杭 中杭 下杭																																																																																																																																					
	軸 径 (mm)	拡 底 径 (mm)	杭 長 (mm)	セ ッ ト 数	長期設計支持力 (kN/本)	備 考																																																																																																																																
試 験 杭																																																																																																																																						
本 杭																																																																																																																																						
種類の記号	呼び径 (mm)	備 考																																																																																																																																				
・SD295A																																																																																																																																						
・SD345																																																																																																																																						

[illegible]

7

閉止め塗装

(7.8.2、4) (18.3.2)

20

耐火被覆

(7.9.2～8)

21

アンカーボルトの設置等

(7.10.3)

22

軽量鋼構造

(7.11.2)

⑧

コンクリートブロック・ALCパネル 押出成形セメント板工事

1

補強コンクリートブロック造

(8.2.2、3、5、7、8)

2

コンクリートブロック 壁壁及び隅

(8.3.2～4)

3

ALCパネル

(8.4.2～5)

⑨

防水工事

(8.5.2～5)

2

改質アスファルトシート防水

(9.3.2、3) (表 9.3.1～3)

5

ケイ酸系塗布防水

(9.6.4) (表9.6.1)

⑩

シーリング

(9.7.2、3、5) (表 9.7.1)

塗料の範囲

耐火被覆材の接着する面の塗装範囲

・図示による（ ）

耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲

・図示による（ ）

塗料の種類

鉄鋼面の閉止め塗料の種類

屋外 ・A種

屋内 ・A種

亜鉛めっき鋼面の閉止め塗料の種類

塗料種類

鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内側の閉止め

塗料の種類

※A種

耐火被覆材が接着する面の塗料の種類

・

種類、材料、工法等

種 別	材料・工法	性能 (耐火時間)	適用箇所 (部位・部分)
耐火材 吹付け	乾式吹付けロックウール		
	半乾式吹付けロックウール		
	湿式ロックウール		
耐火板 張り	繊維混入けい酸カルシウム板		
耐火材 巻付け	高断熱ロックウール		
ラス張り	＝		
モルタル塗り			
耐火塗料			

構造用アンカーボルトの形状及び寸法

図示による（ S-21 ）

構造用アンカーフレームの形状及び寸法

・図示による（ ）

建方用アンカーボルトの形状及び寸法

・図示による（ ）

建方用アンカーボルトの保持及び埋込み工法

種類 ・A種 ・B種

柱底均しモルタルの厚さ及び工法の種類

厚さ 30mm

種類 ※A

ボルトの接合方法 ・普通ボルト接合 ・

ブロックの種類等

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	呼び寸法 (mm)	長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
					・無 ・有		
					・無 ・有		

モルタルの調合（容積比）

※表8.2.11による

・セメント（ ）：砂（ ）

各部の配筋 ※図示

目地仕上げ ・押し目地仕上げ

化粧目地仕上げ

まぐさを受ける開口部両端のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲

(8.3.2～4)

ブロックの種類

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ (mm)	呼び寸法 (mm)	長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1) 以外の適用箇所	備考
・空洞ブロックC (16)					・無 ・有		
・型枠状ブロック 20					・無 ・有		
・					・無 ・有		

塀に用いるブロックの正味厚さ (mm)

2m以下 120mm

2m超え 150mm

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状

※図示

モルタルの調合（容積比）

※表8.2.11による

・セメント（ ）：砂（ ）

ALCパネルの区分等

パネルの区分	単位荷重 (N/m2)	厚さ (mm)	長さ・幅 (mm)	耐火性能	表面加工	構法の種類
・外壁パネル	正荷重 負荷重	・100	図示	・1時間	・平 ・意匠	・A種 ・B種
・間仕切壁パネル		・100	図示	・1時間	・平 ・意匠	・C種 ・D種
・屋根パネル		・100	図示	・0.5時間	・平 ・意匠	・E種
・床パネル		・100	図示	・1時間	－	F種

パネルの相互の接合部に挿入する耐火目地材

・外壁、屋根パネルの工法

1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能

外壁パネル構法及び間仕切り壁パネル構法における耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合

・図示による

目地幅 (mm)

パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取合い部の目地幅 (mm)

※10～20

外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填

・適用する ・適用しない

ECPの種類等

パネルの種類	形状	厚さ (mm)	幅 (mm)	工法の種類	備考
外壁パネル	F	・50 ・60		A種 B種	
	D	・50 ・60	600		
	T	60			
	間仕切壁パネル	F	・50 ・60		
D	・50 ・60	600			
T	60				

注) F：フラットパネル D：デザインパネル T：タイルベースパネル

外壁パネルの工法における耐風圧性能

1章 適用区分による風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能

外壁パネルの工法及び間仕切り壁パネル構法における耐震性能

建築基準法に基づき定まる（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合

・あり

パネル相互の目地幅 (mm)

・長辺（ ）

・短辺（ ）

・出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅 (mm)

※15程度

耐火構法以外の目地及び隙間の処理

※パネル製造所の仕様

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。

	開口の大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに開口を設ける場合	短辺	・図示
	長辺	・図示
パネルを切り欠く場合	短辺	・図示
	長辺	・図示

屋根保護防水

防水層の種類

種 別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護
・A-1		種類：※JIS A 9521に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種b A（スモン層付き）	※フットパッキン厚さ0.15mm以上	・乾式保護材 ・コンクリート押さえ
・A-2				
・A-3				
・B-1				
・B-2				
・B-3				
・A1-1				
・A1-2				
・A1-3				
・B1-1				
・B1-2				
・B1-3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.3から9.2.4による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.5から9.2.6までによる

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ ※水下 80mm以上

床タイル張り ※水下 60mm以上

・乾式保護材

・窯業系パネルⅠ類（寒冷地仕様） 厚さ（ ）mm 幅（ ）mm

・窯業系パネルⅡ類（一般地仕様） 厚さ（ ）mm 幅（ ）mm

窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したもの

・金属複合板 厚さ（ ）mm 幅（ ）mm

金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの

品質・性能 建築材料等品質性能表による

試験方法 建築材料等品質性能表による

屋根排水溝 ※図示

屋根露出防水

防水層の種類

種 別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	高日射反射率
・D-1		種類（9.2.2(9)）	種類 使用量	防水の適用
・D-2			・7Aフラットルーフing類の製造所の仕様	・適用する
・D-3			・7Aフラットルーフing類の製造所の仕様	・適用する
・D-4			・7Aフラットルーフing類の製造所の仕様	・適用する
・D1-1			・7Aフラットルーフing類の製造所の仕様	・適用する
・D1-2				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.8による

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.7から9.2.8までによる

屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレンド回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※図示

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

設置数量 ※アスファルトルーフィング類の製造所の指定

個

押え金物の材質、形状、寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋内防水

防水層の種類

防水層の種類	施工箇所	防水層の種類	施工箇所
・E-1		・E-2	

保護層 ・設ける（※図示 ） ・設けない

防水層の下地の立上り

※コンクリート打放し仕上げ 標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げ欄]のB種

防水層の下地のモルタル塗り

・適用する（施工範囲 ※図示 ） ・適用しない

防水層の種類（9.3.3）

種 別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料	高日射反射率
・AS-T1		種類（9.3.2(3) (ウ）	・設ける（※図示） （※図示） （※図示） （※図示） （※図示）	・改質7Aフラットシート製造所の仕様	高日射反射率防水の適用
・AS-T2					
・AS-T3					
・AS-T4					
・AS-J1					
・AS1-T1					
・AS1-J1		厚さ (mm)	・25 ・50		

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3までによる

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3までによる

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3までによる

押え金物の材質、形状、寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度

屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定

設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定

個

防水層の種類

種 別	施工箇所	仕上塗料	保護層	高日射反射率
防水層の種類		種類 使用量		防水の適用
・X-1		・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様	・適用する
・X-2	R階、2階の床、立上	・主材料の製造所の仕様	・主材料の製造所の仕様	・適用する
・Y-1	※地下外壁防水			
・Y-2	※屋内防水			

ウレタンゴム系塗膜防水X-1（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量

種類 ※主材料の製造所の仕様

設置数量 ※主材料の製造所の仕様

（ ） 個

ゴムアスファルト系塗膜防水Y-1、Y-2の工程数及び各工程の使用量

※主材料の製造所の仕様

防水層の下地

壁 ※コンクリート打放し仕上げ (表6.2.4 B種)

天井部 ※コンクリート打放し仕上げ (表6.2.4 B種)

下地処理

コンクリートの打継ぎ箇所の処理

※打継ぎ部分に対し、幅30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の撤去後水洗い清掃し、防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。

・図示

標準仕様書9.6.4(2)の(イ)、(ウ)以外の下地処理

・図示

シーリング

(9.7.2、3、5) (表 9.7.1)

下表以外は標準仕様書表 9.7.11による。ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは11章、カーテンウォール目地の場合のシーリングは17章による。

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
コンクリート打継ぎ	PS-2
押出成形セメント板取合い	MS-2

シーリング材の目地寸法 ※標準仕様書 9.7.3(1) (ア)～(イ)による

・図示

接着性試験 ※簡易接着性試験 ⑩引張接着性試験

16

建具工事

1 防火戸

(16. 1. 3)

※建具表による

2 見本の製作等

(16. 1. 4)

建具見本の製作
・行う (建具符号：
・行わない
建具見本の程度
・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組
・行う (建具符号：
・行わない

3 防犯建物部品

(16. 1. 6)

・適用する (・建具表による
・適用しない

4 アルミニウム製建具

(16. 2. 2、4、5) (表14. 2. 1) (表16. 2. 1)

性能値等
性能 外部に面する建具の種別
・A種 (建具符号：・建具表による
・B種 (建具符号：・建具表による
・C種 (建具符号：・建具表による
・D種 (建具符号：・建具表による
・E種 (建具符号：・建具表による
・防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ((建具符号：・建具表による
・断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ((建具符号：・建具表による
・耐震ドア 面内変形追随性の等級 ((建具符号：・建具表による
ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1
枠の見込み寸法 建具表による
表面処理 (標準仕様書表14. 2. 1)
外部に面する建具 種別 ・B B－1種 ・B B－2種
着色 ・ステンカラー ・ブロンズ ・ブラック系
屋内の建具 種別 ・B C－1種 ・B C－2種
着色 ・ステンカラー ・ブロンズ ・ブラック系
結露水の処理方法 ※図示
水切り板、ぜん板 ※図示

5 網戸等

(16. 2. 3)

種 類	材 質	線 径	網 目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製	※0. 25mm以上	※16～18メッシュ
・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1. 5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具

(16. 2. 5) (16. 3. 2～5) (表16. 3. 1)

性能値等
性能 外部に面する建具の種別
・A種 (建具符号：・建具表による
・B種 (建具符号：・建具表による
・C種 (建具符号：・建具表による
・D種 (建具符号：・建具表による
・E種 (建具符号：・建具表による
・防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・T-1 ・T-2) (建具符号：・建具表による
・断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・H-4 ・H-5 ・H-6) (建具符号：・建具表による
枠の見込み寸法 ・建具表による
表面色 ・標準色
水切り板、ぜん板 ※図示
ガラス ※複層ガラス

7 鋼製建具

(16. 2. 2) (16. 4. 2～4) (表16. 4. 2)

性能値等
簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号：・建具表による
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号：・建具表による
・S-5 (建具符号：・建具表による
・S-6 (建具符号：・建具表による
・防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ((建具符号：・建具表による
・断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ((建具符号：・建具表による
・耐震ドア 面内変形追随性の等級 ((建具符号：・建具表による
ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1
鋼板類の厚さ ※標準仕様書 表16. 4. 2による

8 鋼製軽量建具

(16. 2. 2) (16. 5. 2～4)

性能値等
・簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号：・建具表による
・適用しない
・防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ((建具符号：・建具表による
・断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ((建具符号：・建具表による
・耐震ドア 面内変形追随性の等級 ((建具符号：・建具表による
材料 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1
鋼板類の厚さ ※標準仕様書表16. 5. 1による
召合せ、縦小口包み板の材質 ※鋼板

9 ステンレス製建具

(16. 2. 2) (16. 4. 2) (16. 6. 2～5)

性能値等
簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号：・建具表による
・適用しない
外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 (建具符号：・建具表による
・S-5 (建具符号：・建具表による
・S-6 (建具符号：・建具表による
・防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 ((建具符号：・建具表による
・断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 ((建具符号：・建具表による
・耐震ドア 面内変形追随性の等級 ((建具符号：・建具表による
ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L 又はSUS443J1
表面仕上げ ※H L ・鏡面仕上げ
ステンレス鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ
建具材の加工、組立時の含水率 ※B種
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規 格 等	備 考
・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※ラワン合板程度 不透明塗料塗り (※しな合板程度 板面の品質 接合の程度 (・1類 ・2類) ・天然木化粧合板 樹種名 () 接合の程度 (・1類 ・2類) ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 (・オーバーレイ・フリット・塗装) 表面性能 () タイプ 接合の程度 (・1類 ・2類)	

表面板の厚さ ※表16. 7. 6による
・かまち戸
かまち樹種 () 鏡板樹種 ()
見込み寸法 ※36mm ・建具表による
・ふすま
張りの種別 (・Ⅰ型 ・Ⅱ型)
上張り (押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ ・塗り縁 ・生地縁 (素地) ・生地縁 (ウレタンクリアー塗装)
見込み寸法 ※19. 5mm ・建具表による
・戸ふすま
見込み寸法 ※30mm ・建具表による
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による
枠、くつずりの材料 ・建具表による

10 木製建具

(16. 7. 2～4)

建具材の加工、組立時の含水率 ※B種
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外
・フラッシュ戸
表面材の合板の種類

合板の種類	規 格 等	備 考
・普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り (※ラワン合板程度 不透明塗料塗り (※しな合板程度 板面の品質 接合の程度 (・1類 ・2類) ・天然木化粧合板 樹種名 () 接合の程度 (・1類 ・2類) ・特殊加工化粧合板 化粧加工の方法 (・オーバーレイ・フリット・塗装) 表面性能 () タイプ 接合の程度 (・1類 ・2類)	

表面板の厚さ ※表16. 7. 6による
・かまち戸
かまち樹種 () 鏡板樹種 ()
見込み寸法 ※36mm ・建具表による
・ふすま
張りの種別 (・Ⅰ型 ・Ⅱ型)
上張り (押入等の裏側以外) ・鳥の子 ・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ ・塗り縁 ・生地縁 (素地) ・生地縁 (ウレタンクリアー塗装)
見込み寸法 ※19. 5mm ・建具表による
・戸ふすま
見込み寸法 ※30mm ・建具表による
・紙張り障子
見込み寸法 ※30mm ・建具表による
枠、くつずりの材料 ・建具表による

11 建具用金物

(16. 8. 2、3) (表16. 8. 1)

金物の種類・見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16. 8. 1により適用は建具表による
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16. 8. 2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16. 8. 3による
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
※標準仕様書 表16. 8. 4による
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書 表16. 8. 5による
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置
・建具表による
・錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
品質 建築材料等品質性能表による
性能 建築材料等品質性能表による
・錠前類 【レバーハンドル】
性能 建築材料等品質性能表による
・クローザ類
品質・性能 建築材料等品質性能表による
試験方法 建築材料等品質性能表による

12 鍵

(16. 8. 4)

マスターキー ・製作する 製作しない
鍵の製作本数 各室3本1組 (室名札付き)
鍵箱 有リ ・無し
鋼製 ・10 ・20 ・30 ・60 ・120 ・200本用

13 自動ドア開閉装置

(16. 9. 2、3)

引き戸用駆動装置
性能値 ※標準仕様書 表16. 9. 1による 種類 ()
車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
性能値 ※標準仕様書 表16. 9. 2による
引き戸用検出装置
性能値 ※標準仕様書 表16. 9. 3による
戸の開閉方式
・建具表による
引き戸用検出装置の種類
※標準仕様書 表16. 9. 4による 種類 () ・建具表による
凍結防止措置
・適用する ・適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置

(16. 10. 3)

性能値等 ※標準仕様書 表16. 10. 1による
試験方法 建築材料等品質性能表による

15 重量シャッター

(16. 11. 2、3)

シャッターの種類
・管理用シャッター耐風圧強度 () N/m2
・外壁用防火シャッター耐風圧強度 () N/m2
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉方式の種類 ※上部電動式 (手動併用) ・上部手動式
二重チェーン、急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動シャッターの設置箇所
・図示
障害物感知装置を設けた電動シャッターの設置箇所
・図示
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構
・設ける (設置箇所 ・図示)
「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」(昭和48年12月28日建設省告示第2563号)に定める基準に適合するもの
※障害物感知装置 (自動閉鎖型) ・
管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっきの付着量 ※Z12又はF12
開閉方式の種類 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用)
耐風圧強度 () N/m2
スラットの材質 の種類
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっき付着量 (※Z06又はF06)
・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
めっき付着量 (※AZ90)
スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

16 軽量シャッター

(16. 12. 2～4)

開閉方式の種類 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用)
耐風圧強度 () N/m2
スラットの材質 の種類
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)
めっき付着量 (※Z06又はF06)
・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)
めっき付着量 (※AZ90)
スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア

(16. 13. 2、3)

セクション材料による区分	耐風圧性能区分 (Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 (1250) ・100 (1000) ・75 (750) ・50 (500)	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 ()

障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所 ・図示
フロート板ガラス
品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
型板ガラス
厚さによる種類
※建具表による
網入板ガラス及び線入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
建具表による
合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
形状による種類
・平面合わせガラス ・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ－1類 ・Ⅱ－2類 ・Ⅲ類
強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類
熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
性能による種類
・Ⅰ種 ・2種
複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
断熱性による区分
・T 1 ・T 2 ・T 3 ・T 4 ・T 5 ・T 6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・G ・S
乾燥気体の種類
・空気 ・アルゴン
熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
日射熱遮へい性による区分
・Ⅰ種 ・2種 ・3種
耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)
・A類 ・B類
映像調整
・行わない ・行う
倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による

18 ガラス

(9. 7) (16. 14. 2～4) (表16. 14. 1)

フロート板ガラス
品種及び厚さの呼びによる種類
※建具表による
型板ガラス
厚さによる種類
※建具表による
網入板ガラス及び線入板ガラス
網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類
建具表による
合わせガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ
※建具表による
形状による種類
・平面合わせガラス ・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅱ－1類 ・Ⅱ－2類 ・Ⅲ類
強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称
※建具表による
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類
・Ⅰ類 ・Ⅲ類
熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類
※建具表による
性能による種類
・Ⅰ種 ・2種
複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
※建具表による
断熱性による区分
・T 1 ・T 2 ・T 3 ・T 4 ・T 5 ・T 6
日射取得性、日射遮蔽性による区分
・G ・S
乾燥気体の種類
・空気 ・アルゴン
熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による
日射熱遮へい性による区分
・Ⅰ種 ・2種 ・3種
耐久性による区分 (日射熱遮蔽性による区分が2種の場合)
・A類 ・B類
映像調整
・行わない ・行う
倍強度ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
※建具表による

19 ガラスブロック

(16. 14. 5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調	目地幅 (mm)	伸縮調整	防火
・正方形	・125×125	80	・7乳白	平積み	目地位置 (mm)	性能
	・160×160	・95 ・125	・	※8～15	外側	※6m以下ごと
	・200×200	・95 ・125	・	・15～25	※15以下	に幅10～25
	・320×320	95	・		内側	※6以上
・長方形	・250×125	80	・		・	・
	・320×160	95	・		・	・

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材 ※図示
力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) ・
寸法 ※径5. 5mm ・
形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・
化粧目地モルタルの色 ()
金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製
寸法 ※図示 ・
形状 ※図示 ・
工法 建築基準法に基づき定まる (・1 ・1. 15 ・1. 3) 倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による ・図示

20 ガラス用フィルム

種 類	記号		性 能 等
	内貼り用	外貼り用	
・日射調整フィルム	・SC－1	・SC－2	日射遮蔽性能による区分 ・A ・B ・C ・D ・E
・低放射フィルム	・LE		熱貫流率による区分 ・A ・B ・C ・D
・衝撃破壊対応ガラス 飛散防止フィルム	・GI－1	・GI－2	

品質 JIS A 5759による。

20

フリーアクセスフロア

(20. 2. 2)

2

可動間仕切

(20. 2. 3)

3

移動間仕切

(20. 2. 4)

4

トイレブース

(20. 2. 5)

6

階段滑り止め

(20. 2. 6)

7

手すり

(20. 2. 7)

8

黒板及びホワイトボード

(20. 2. 8)

9

鏡

(20. 2. 9)

10

表示

(20. 2. 10)

11

煙突ライニング

(20. 2. 11)

12

ブラインド

(20. 2. 12)

13

ロールスクリーン

(20. 2. 13)

14

カーテン

(20. 2. 14)

15

カーテンレール

(20. 2. 14)

16

ブラインドボックス及びカーテンボックス

(20. 2. 14)

17

天井点検口

(20. 2. 14)

18

床点検口

(20. 2. 14)

19

耐震スリット

(20. 2. 14)

20

止水板

(20. 2. 15)

21

エキスパンションジョイント金物

(20. 2. 15)

22

くつふきマット

(20. 2. 15)

23

流し台ユニット

(20. 2. 15)

24

旗竿

(20. 2. 15)

25

旗竿受金物

(20. 2. 15)

26

車止めさく

(20. 2. 15)

27

フェンス

(20. 3. 3、4)

28

プレキャストコンクリート

(20. 3. 3、4)

29

間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20. 4. 2、3)

30

天井見切り縁

(20. 4. 2、3)

21

排水工事

(21. 2. 1、2)

2

鋳鉄製ふた

(21. 2. 1)

3

グレーチング

(21. 2. 1)

4

街きよ、緑石、及び側溝

(21. 3. 1、2) (表21. 3. 1)

5

埋戻し土

(21. 2. 1)

材料

(21. 2. 1、2) (表 21. 2. 1、2)

材 種	種類・記号	形 状	呼び径
・遠心力鉄筋コンクリート管	外圧管 (1種)	・B形管	・図示
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP ・VU ・RS-VU		・図示 ・図示 ・図示

基床の厚さ及び種類 図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料 ※接着剤
側塊の形状及び寸法 図示
排水渠の種類 図示
砂利地業に用いる材料 ・シルト ・山砂 ・川砂 ・砕砂
砂利地業に用いる材料 ・再生クラッシャーラン ・切込砂利又は切込碎石
・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※18N/mm2
・現場打ちの場合の鉄筋 種類の記号 ※SD295A
・現場打ちの場合の足掛け金物 ※標準仕様書21. 2. 2 (6) (イ)
材質 ・ステンレス製 ・鋼製 ・合成樹脂被覆加工されたもの
凍上抑制層に用いる材料
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

名 称	種 類	適用荷重	鍵	備 考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (パッキン式) ・密閉形 (テーパー・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパー・パッキン式)	・Tー2用 ・Tー6用 ・Tー20用	・有り ・無し	左記以外の品質等は (公社) 空気調和衛生工学会SHASE-S209による

材 質	形式	用 途	適用荷重	メインバーピッチ	重鉛めつき (付着量)	上面形状
・鋼製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・清ふた (横断用) ・清ふた (側清用) ・樹ふた用 ・U字清用	・歩行用 ・Tー2用 ・Tー6用 ・Tー14用 ・T-20用	・細目 ・普通目 ・細目	・	・凹凸形 ・ ・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き、ボルト固定 ・	・清ふた (横断用) ・清ふた (側清用) ・樹ふた用 ・U字清用	・歩行用 ・Tー2用 ・Tー6用 ・Tー14用 ・T-20用	―	―	・凹凸形 ・ ・平形 ・

品質・性能 工事建築材料等品質性能表による
荷重試験方法 工事建築材料等品質性能表による

街きよ、緑石、側溝

種 類	形状、寸法
・緑石	・図示
・L形側溝	・図示
・U形側溝	・図示
・U形側溝ふた	・図示
・	・図示

砂利地業に用いる材料 ・再生クラッシャーラン ・切込砂利又は切込碎石
砂利地業の厚さ ※100 (mm) ・図示
・現場打ちの場合のコンクリート材料 設計基準強度 ※18N/mm2
凍上抑制層に用いる材料
砂の粒度試験 ・行う ・行わない

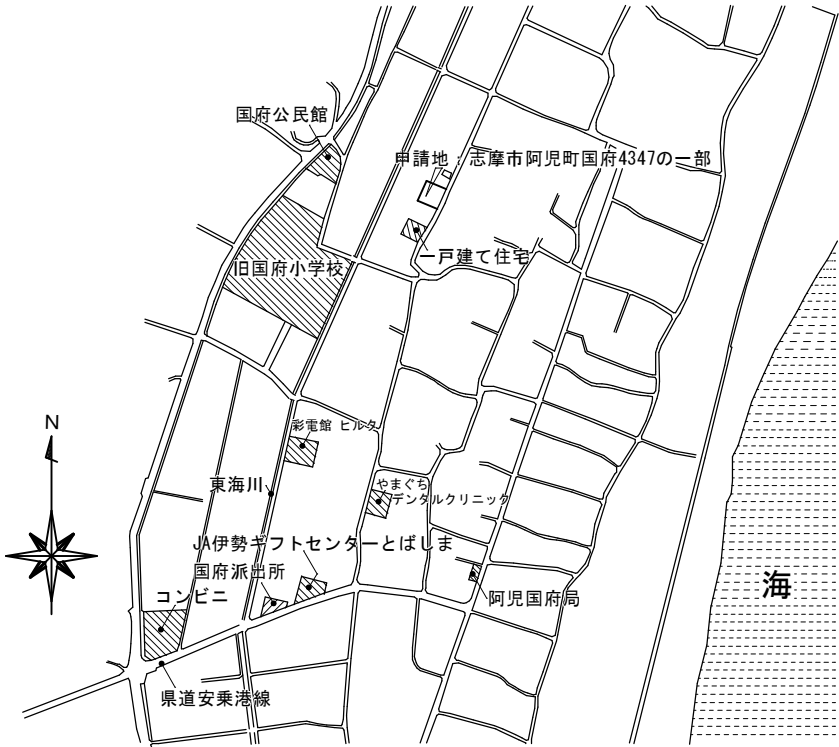
※ B種

舗装工事	1 路床	(22. 2. 2、3、5) (表22. 2. 1)	路床の材料	<table><tr><th>種 別</th><th>材 料</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ 盛土</td><td>・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土</td><td>・ 図示 ・</td></tr><tr><td>・ 凍上抑制層</td><td>・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂</td><td>・ 図示 ・</td></tr><tr><td>・ フィルター層</td><td>・ 標準仕様書 22. 2. 3(3) による</td><td>・ 図示 ・</td></tr></table> <p>・ 路床安定処理 安定処理の方法 置換え工法 安定処理工法 路床安定化処理用添加材料 種類 普通ポルトランドセメント 高炉セメント B 種 フライアッシュセメント B 種 生石灰 () 消石灰 () 添加量 kg/m3 (目標 C B R ・ 3 以上) ・ ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/㎡以上 厚さ (mm) 0. 5～1. 0 引張強さ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1. 5×10⁻³ cm/sec 以上</p> <p>試験 砂の粒度試験 路床土の支持力比 (CBR) 試験 路床締固め度の試験 現場 CBR 試験</p>	種 別	材 料	厚さ (mm)	・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示 ・	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂	・ 図示 ・	・ フィルター層	・ 標準仕様書 22. 2. 3(3) による	・ 図示 ・	舗装工事	7 ブロック系舗装	(22. 8. 2、3)	・ コンクリート平板舗装	<table><tr><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>目地材</th><th>備 考</th></tr><tr><td>・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)</td><td>・ 300角 ・</td><td>・ ※60 ・</td><td>・ ※砂 ・ モルタル</td><td>・ 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し</td></tr></table> <p>クッション材 ※砂 空練りモルタル</p> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は 3mm 以内とする。</p> <p>・ インターロッキングブロック舗装</p> <table><tr><th>種 類</th><th>部位</th><th>形状寸法</th><th>厚さ (mm)</th><th>曲げ強度 (N/mm2)</th><th>表面加工</th></tr><tr><td>・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)</td><td>車路</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ ※80 ・</td><td>・ ※5. 0 ・</td><td></td></tr><tr><td>・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)</td><td>歩行者用通路</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ ※60 ・</td><td>・ ※3. 0 ・</td><td></td></tr></table> <p>クッション材 ※砂 空練りモルタル</p> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は 3mm 以内とする。</p> <p>・ 舗石舗装</p> <table><tr><th>種 類</th><th>形状・寸法 (mm)</th><th>厚さ (mm)</th><th>施工方法</th><th>基 層</th><th>基層の厚さ (mm)</th></tr><tr><td>※小舗石 (花こう岩) ・</td><td>・ 図示 ・</td><td>・ ・</td><td>・ うろこ張り ・</td><td>・ コンクリート版 ・ アスファルト混合物</td><td>・ ※70 ・ ※50 ・</td></tr></table> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は 3mm 以内とする</p> <p>・ ジオテキスタイル 単位面積質量 60g/㎡以上 厚さ (mm) 0. 5～1. 0 引張強さ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 1. 5×10⁻³ cm/sec 以上</p>	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備 考	・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)	・ 300角 ・	・ ※60 ・	・ ※砂 ・ モルタル	・ 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し	種 類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	表面加工	・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	車路	・ 図示 ・	・ ※80 ・	・ ※5. 0 ・		・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	歩行者用通路	・ 図示 ・	・ ※60 ・	・ ※3. 0 ・		種 類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基 層	基層の厚さ (mm)	※小舗石 (花こう岩) ・	・ 図示 ・	・ ・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート版 ・ アスファルト混合物	・ ※70 ・ ※50 ・	植栽及び屋上緑化工事	1 植栽地の確認等	(23. 1. 3)	土壌の水素イオン濃度指数 (pH) 試験 電気伝導度 (E C) の試験 ・ 行う ・ 行う ・ 行わない ・ 行わない	23 植栽及び屋上緑化工事	植栽基盤の整備	(23. 2. 2, 4)	樹木の植栽基盤の整備 ・ 適用する ・ 適用しない	<table><tr><th>植 栽</th><th>工 法</th><th>有効土層の厚さ (cm)</th><th>整備範囲</th><th>土壌改良材</th></tr><tr><td>・ 樹木</td><td>※ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種</td><td>樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)</td><td>・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示 ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr><tr><td>※芝、地被類</td><td>※ B 種 ・</td><td>※20 ・</td><td>・ 植栽部分 ・ 図示 ・</td><td>・ 適用する ・ 適用しない</td></tr></table> <p>植栽基盤の排水設備 ・ 設ける (※図示) ・ 設けない</p> <p>3 植込み用土</p> <p>・ 現場発生土の良質土 ・ 客土</p> <p>(23. 2. 3)</p> <p>4 土壌改良材</p> <p>土壌改良材の適用 ・ 適用する ・ 適用しない</p> <p>(23. 2. 3)</p> <p>種類及び指定量等 ・ バーク堆肥 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示 使用量 植栽基盤面積 1m2 あたり (・ 50L) ・ 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト) 施工箇所 ※植栽範囲 ・ 図示 使用量 植栽基盤面積 1m2 あたり (・ 10L) 材料 「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第 1 の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする</p> <p>(23. 3. 2)</p> <p>5 樹木</p> <p>樹種、寸法、株立数等 ※図示</p> <p>(23. 3. 2、3)</p> <p>6 支柱</p> <p>支柱材 ※丸太 (間伐材) ・ 真竹 防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 形式 ・ 図示</p> <p>(23. 3. 2)</p> <p>7 幹巻き用材料</p> <p>材料 ※幹巻き用テープ ・ わら及びこも</p> <p>(23. 4. 2、3)</p> <p>8 芝</p> <p>種類 ※コウライシバ ・ ノシバ 芝張りの工法 平地 ※目地張り ・ べた張り 法面 ・ 目地張り ※べた張り</p> <p>(23. 4. 2)</p> <p>9 吹付けは種</p> <table><tr><th>種子の種類</th><th>発芽率</th><th>種子の量 (g/m2)</th></tr><tr><td>※洋芝類 (採取後 2 年以内)</td><td>※発芽率 80% 以上</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table> <p>(23. 4. 2)</p> <p>10 地被類</p> <table><tr><th>樹種</th><th>コンテナ径</th><th>単位面積当たりのコンテナ数</th><th>芽立数</th></tr><tr><td>・</td><td>・</td><td>・</td><td>・</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> <p>(23. 4. 2)</p> <p>11 新植、芝等の枯保証、移設樹木の枯損処置</p> <p>(23. 3. 4、6) (23. 4. 7)</p> <p>新植樹木 (芝張り、吹付けは種及び地被類を含む) の枯補償の期間 ※引渡しの日から 1 年 ・ 無し ・ 移植樹木の枯損処置を行う期間 ※引渡しの日から 1 年 ・ 無し ・</p> <p>(23. 5. 2～4)</p> <p>12 屋上緑化</p> <p>植栽基盤及び材料</p> <p>・ 屋上緑化システム 土壌層の厚さ ・ 図示 ・ 排水層 ・ 軽量骨材 (層の厚さ：) ・ 板状成形品 植込み用土 ※改良土 ・ 人工軽量土 樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※図示 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 品質・性能 建築材料等品質性能表による 試験方法 建築材料等品質性能表による</p> <p>・ 屋上緑化軽量システム 樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 品質・性能 建築材料等品質性能表による 試験方法 建築材料等品質性能表による</p> <p>工法 建築基準法に基づき定まる (・1 ・1.15 ・1.3) 倍の風圧力に対応した工法 支柱 ・ 設置する (形式 ・ 図示 ・) かん水装置 ・ 設置する (種類 ・)</p>	植 栽	工 法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材	・ 樹木	※ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない	※芝、地被類	※ B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない	種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m2)	※洋芝類 (採取後 2 年以内)	※発芽率 80% 以上		・			樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数	・	・	・	・				
	種 別	材 料	厚さ (mm)																																																																																																							
	・ 盛土	・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種 ・ 建設汚泥から再生した処理土	・ 図示 ・																																																																																																							
	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシャーラン ・ クラッシャーラン ・ 切込み砂利 ・ 砂	・ 図示 ・																																																																																																							
	・ フィルター層	・ 標準仕様書 22. 2. 3(3) による	・ 図示 ・																																																																																																							
	種 類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備 考																																																																																																					
	・ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M)	・ 300角 ・	・ ※60 ・	・ ※砂 ・ モルタル	・ 表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し																																																																																																					
	種 類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm2)	表面加工																																																																																																				
	・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	車路	・ 図示 ・	・ ※80 ・	・ ※5. 0 ・																																																																																																					
	・ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	歩行者用通路	・ 図示 ・	・ ※60 ・	・ ※3. 0 ・																																																																																																					
種 類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	施工方法	基 層	基層の厚さ (mm)																																																																																																					
※小舗石 (花こう岩) ・	・ 図示 ・	・ ・	・ うろこ張り ・	・ コンクリート版 ・ アスファルト混合物	・ ※70 ・ ※50 ・																																																																																																					
植 栽	工 法	有効土層の厚さ (cm)	整備範囲	土壌改良材																																																																																																						
・ 樹木	※ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ D 種	樹高 12m 以上 (※100 ・ 120 ・ 150) 樹高 7m 以上～12m 未満 (※80 ・ 100) 樹高 3m 以上～7m 未満 (※60 ・ 80) 樹高 3m 未満 (※50 ・ 60)	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない																																																																																																						
※芝、地被類	※ B 種 ・	※20 ・	・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない																																																																																																						
種子の種類	発芽率	種子の量 (g/m2)																																																																																																								
※洋芝類 (採取後 2 年以内)	※発芽率 80% 以上																																																																																																									
・																																																																																																										
樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数																																																																																																							
・	・	・	・																																																																																																							
2 路盤	(22. 2. 2、3、5) (表 22. 3. 1)	路盤の厚さ ・ 図示 ・	路盤材料		舗装工事	8 砂利敷き	(22. 9. 2)	種類 ・ A 種 (施工範囲： ・ 図示 ・ 通路 ・) ・ B 種 (施工範囲： ・ 図示 ・ 建物周囲その他 ・)		9 路面標示用塗料																																																																																																
3 アスファルト舗装	(22. 4. 2～6) (表 22. 4. 4)	アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 ・	材料及び種類 アスファルト ・ 再生アスファルト (・ 60～80 ・ 80～100) ・ ストレートアスファルト 骨材 ・ 道路用砕石 ・ アスファルトコンクリート再生骨材	加熱アスファルト混合物等の種類 ・ 密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) ・ 密粒度アスファルト混合物 (13F) シールコートの乳剤の種類 ・ P K－1 ・ P K－2 試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度																																																																																																						
4 コンクリート舗装	(22. 5. 2～4、6) (表 22. 5. 1、3)	コンクリート舗装の構成及び厚さ	<table><tr><th>舗装の種類</th><th>部 位</th><th>構 成</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>コンクリート舗装</td><td>車路及び駐車場 歩行者用通路</td><td>・ 図示 ・ 図示</td><td>・ 図示 ・ ※70 ・</td></tr></table> <p>寒冷地の縁部立下り寸法等 ・ 図示</p> <p>材料</p> <p>コンクリート 種類 ※普通コンクリート ・ 設計基準強度、スランプ及び粗骨材の最大寸法 ※標準仕様書 表 22. 5. 1 による 早強セメント ・ 使用する ・ 使用しない 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ</p> <p>目地の種類、間隔、構造 ※標準仕様書 表 22. 5. 3 及び図 22. 5. 1 による ・ 図示</p>	舗装の種類	部 位	構 成	厚さ (mm)	コンクリート舗装	車路及び駐車場 歩行者用通路	・ 図示 ・ 図示	・ 図示 ・ ※70 ・																																																																																															
舗装の種類	部 位	構 成	厚さ (mm)																																																																																																							
コンクリート舗装	車路及び駐車場 歩行者用通路	・ 図示 ・ 図示	・ 図示 ・ ※70 ・																																																																																																							
5 カラー舗装	(22. 6. 2～4)	・ 加熱系カラー舗装 構成 ・ 厚さ ・ 図示 加熱系混合物の結合材 ・ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物 顔料の添加量 (%) 着色骨材 () 自然石 ()	・ 常温系カラー舗装 工法 ・ ニート工法 ・ 塗布工法 着色部の下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装 ・																																																																																																							
6 透水性アスファルト舗装	(22. 7. 2、3、6)	構成 ・ 図示 ・	材料 骨材 ・ 道路用砕石 ・ アスファルトコンクリート再生骨材	試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない 砂の粒度試験試験 ・ 行う ・ 行わない	舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの ・																																																																																																					

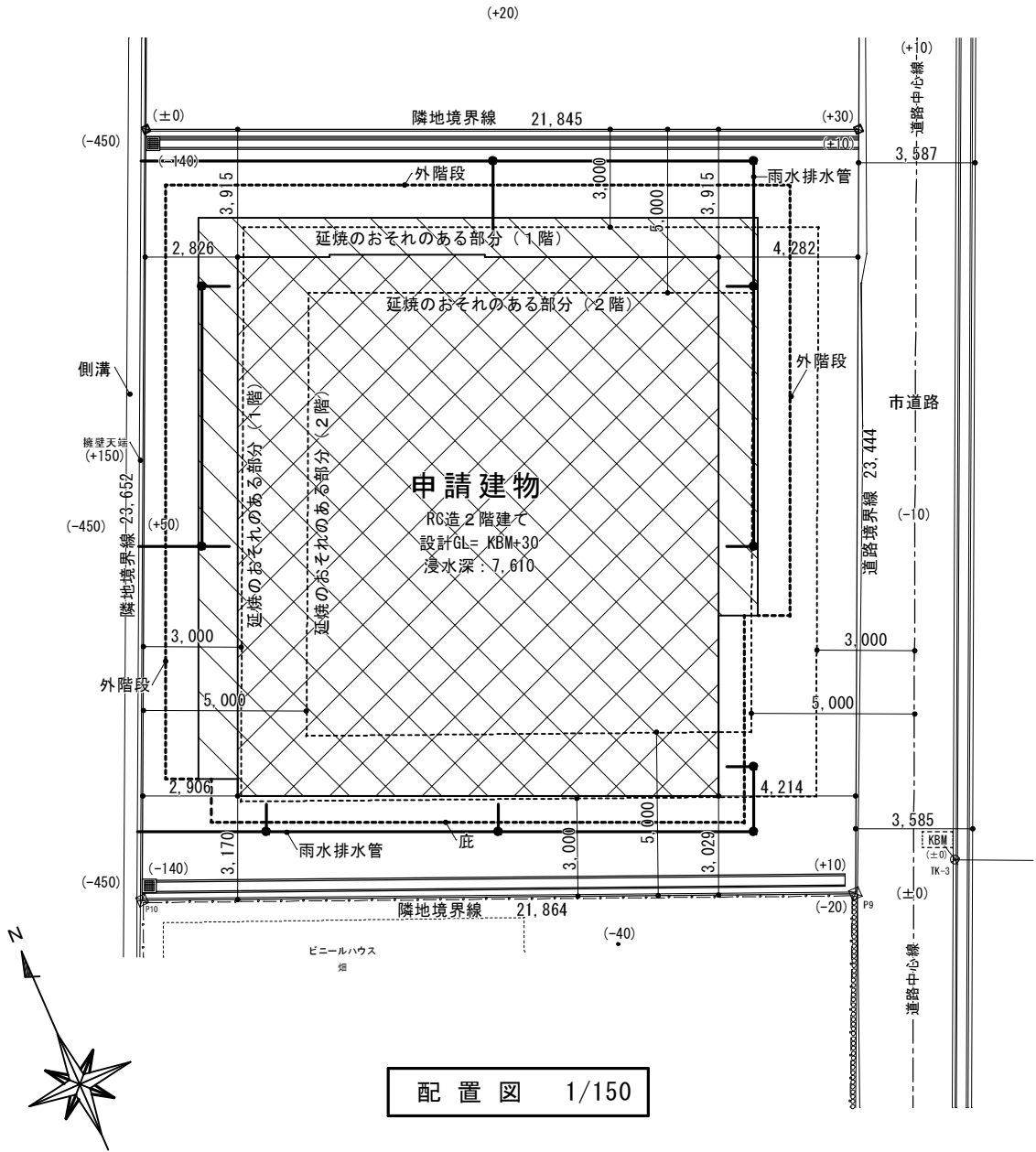
床面積	階 別	申請部分	既存部分	合 計
	1階	3.09㎡	㎡	3.09㎡
	2階	244.13㎡	㎡	244.13㎡
	合 計	247.22㎡	㎡	247.22㎡
	建築面積	297.02㎡		
各部高さ	設計GL	建物高さ	軒高さ	
	KBM +30	設計GL+14,895	設計GL+14,680	

備蓄倉庫：246.78㎡×1/50= 4.9356㎡ < 10.10㎡

備蓄倉庫の床面積不算入となる面積： 4.93㎡



附近見取図



配置図 1/150

1. 外部仕上表

部 位	名 称	メーカー	品番・カラー	備 考
屋 根	ウレタン塗膜防水(環境対応型) X-2工法 非歩行 コンクリート金コテ下地			
外 壁 (パラペット)	コンクリート打放し仕上(化粧型枠) 増打ち厚20			
外壁(倉庫)	押出成形セメント板 厚60 塗装品			
防護柵 (避難スペース)	メッシュフェンス H=1,800	朝日フェンス	ARフェンス	同等品以上
躯体(軸部)	コンクリート打放し仕上(化粧型枠) 増打ち厚20			
ドレイン	ステンレス製縦引ルーフドレイン 径75 ステンレス製横引ルーフドレイン 径75			
竖樋	カラーVP管 径75 ステンレス製掴金物			
階段	鉄骨階段(溶融亜鉛メッキ HDZT77)			
階段防護柵 (手 摺)	鋼製階段手摺: 溶融亜鉛メッキ HDZT63			

2. 防火認定・別途工事

仕様	認定番号
耐火構造	
	柱 告示1399号 第2
	床 告示1399号 第3
	梁 告示1399号 第4
	屋根 告示1399号 第5
	階段 告示1399号 第6
	壁 押出成形板 厚60 外壁(非耐力壁)1時間 FP060NE-9035
防火認定	
不燃認定	
別途工事	

3. 構造部材

部 位	名 称	備 考
基 礎	構造図による	
地盤改良	〃	
主要構造部	鉄筋コンクリート造 (柱、梁、床 増打20mm)	法37条に規定する建築材料を使用する
鉄 骨 階 段	溶融亜鉛メッキ HDZT77	
高力ボルト	溶融亜鉛メッキ高力ボルト F8T	

4. 内部仕上表

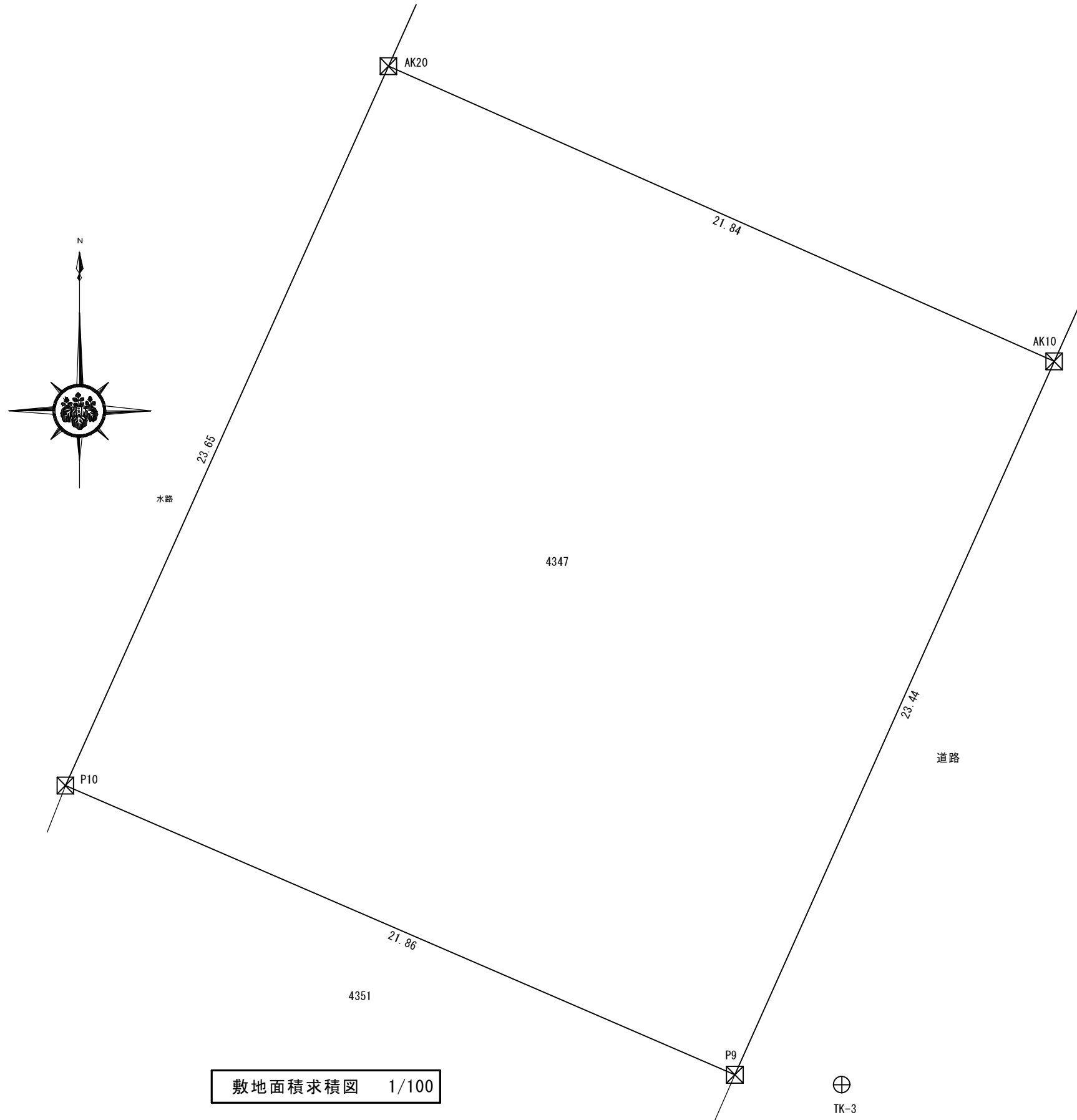
階	室 名	床	巾木	壁		天 井		廻 縁		備 考
		仕上材	仕上材	仕上材	品番・カラー	仕上材	品番・カラー	仕上材	品番・カラー	
1 階	避 難 口	コンクリート刷毛引仕上 目地				構造材表し				
2 階	避難スペース	ウレタン塗膜防水(環境対応型) X-2工法 軽歩行 コンクリート金コテ下地	塗膜防水X-2	メッシュフェンス H=1,800		構造材表し				避難シューター
	備 蓄 倉 庫	コンクリート金コテ仕上	コンクリート打放	押出成形セメント板 厚60 塗装品		構造材表し				収納棚

5. 外部建具

種 別	項 目	メーカー	品番・カラー	備 考
アルミ製建具			ビル用建具	

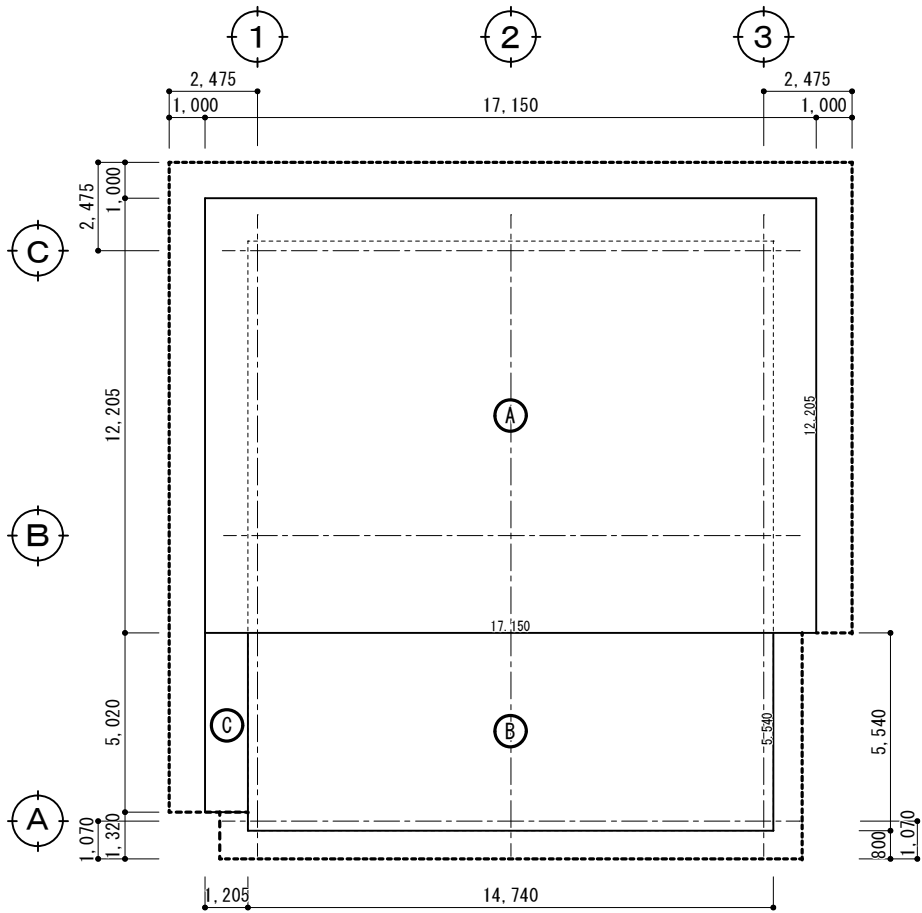
6. その他

施行部位	仕 様	メーカー	備 考
避難シューター(ステンレス製 屋外用格納箱共)	垂直降下式	一般財団法人日本消防設備安全センター 認定品	
壁掛鍵収納箱	ステンレス製 壁付タイプ		
石綿等の規制	石綿その他の著しく衛生上有害な物として政令で定める物質を添加した材料を使用しない。		
シックハウス規制	仕上材(接着材共)は全てF☆☆☆☆とし、天井裏等はF☆☆☆☆以上とする。		



座標求積表

地番	(B) 4347			
測点	Xn	Yn	(Yn-1 - Yn+1) Xn	距離
AK20	-184125.275	80716.646	5460971.531225	23.65
P10	-184146.852	80706.959	-1912549.204872	21.86
P9	-184155.519	80727.032	-5461868.538021	23.44
AK10	-184134.125	80736.618	1912417.022250	21.84
			倍面積	-1029.189418
			面積	514.5947090
			地積	514.59 m



建築面積 求積図 1/150

建築面積算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
A	17.15 × 12.205	209.31575
B	14.74 × 5.54	81.6596
C	1.205 × 5.02	6.0491
	計	297.02445
建築面積		297.02m ²

1階床面積 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
1	3.50 × 0.885	3.0975
1階床面積		3.09m ²

2階床面積 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
2	14.74 × 16.54	243.7996
3	4.755 × 0.07	0.33285
	計	244.13245
2階床面積		244.13m ²

延べ床面積 算定表

1階床面積		3.09m ²
2階床面積		244.13m ²
延べ床面積		247.22m ²

備蓄倉庫 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
1	4.755 × 2.125	10.104375
	合計面積	10.10 m ²

簡易トイレ設置スペース 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
2	2.15 × 10.17	21.8655
	合計面積	21.86 m ²

避難シューター 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
3	2.30 × 1.00	2.3000
	合計面積	2.30 m ²

避難スペース 算定表

計 算 式		面積(m ²)
延べ床面積		244.13
備蓄倉庫 床面積		-10.10
簡易トイレ設置スペース 床面積		-21.86
避難シューター 床面積		-2.30
合計面積		209.87 m ²

備蓄倉庫（柱型考慮） 算定表

記号	計 算 式	面積(m ²)
1	備蓄倉庫	10.10 m ²
	柱 型	-0.59 m ²
面積(柱型考慮)		9.51 m ²

簡易トイレ設置スペース（柱型考慮） 算定表

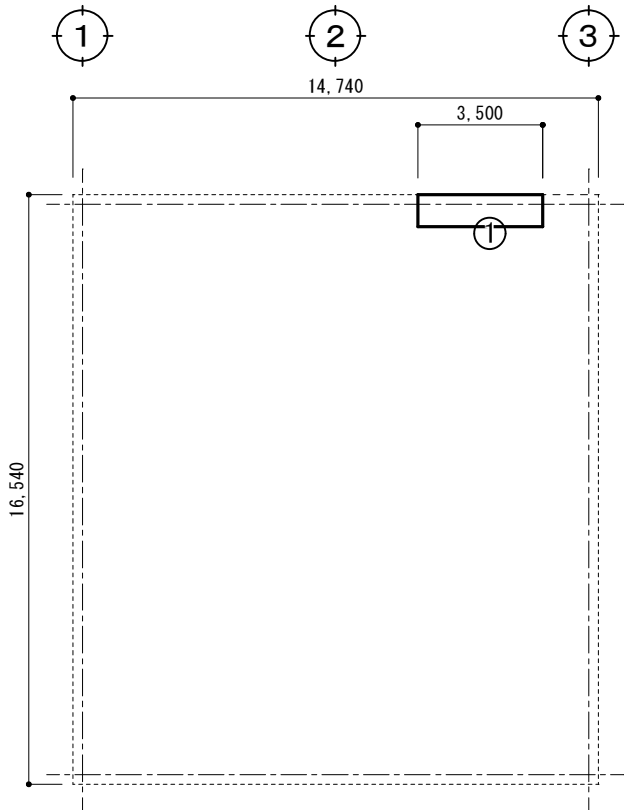
記号	計 算 式	面積(m ²)
2	簡易トイレ設置スペース	21.86 m ²
	柱 型	-0.59 m ²
	柱 型	-0.75 m ²
面積(柱型考慮)		20.52 m ²

避難シューター（柱型考慮） 算定表

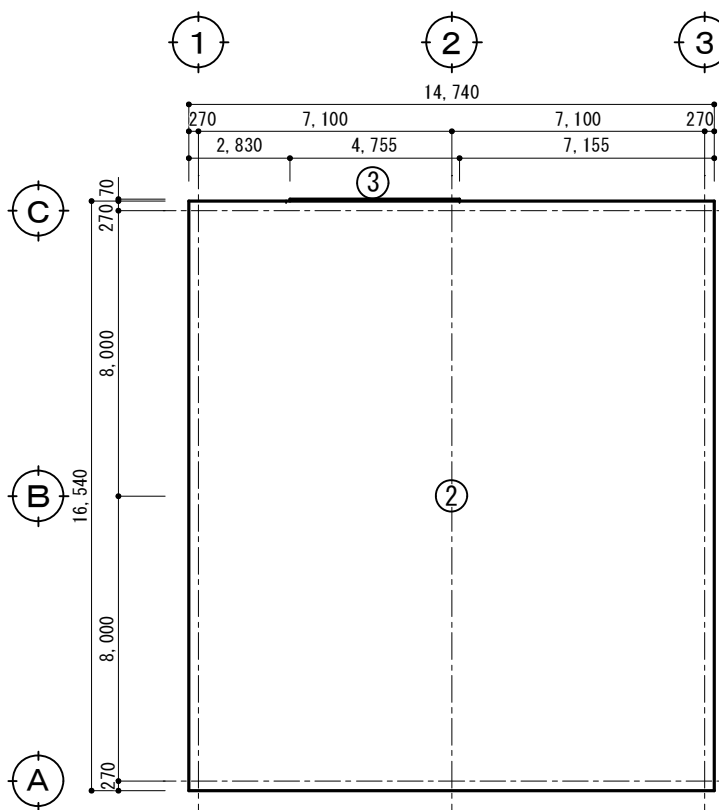
記号	計 算 式	面積(m ²)
3	避難シューター	2.30 m ²
	柱 型	-0.59 m ²
面積(柱型考慮)		1.71 m ²

避難スペース（柱型考慮） 算定表

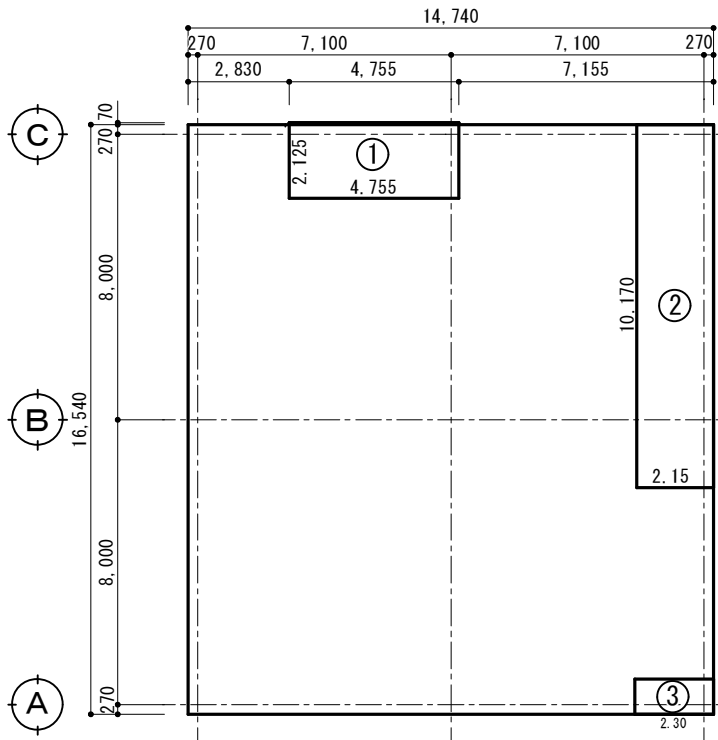
計 算 式		面積(m ²)
	避難スペース	209.87 m ²
柱型	-0.59 × 2	-1.18 m ²
柱型	-0.20 × 1	-0.20 m ²
柱型	-0.75 × 2	-1.50 m ²
柱型	-0.93 × 1	-0.93 m ²
面積(柱型考慮)		206.06 m ²



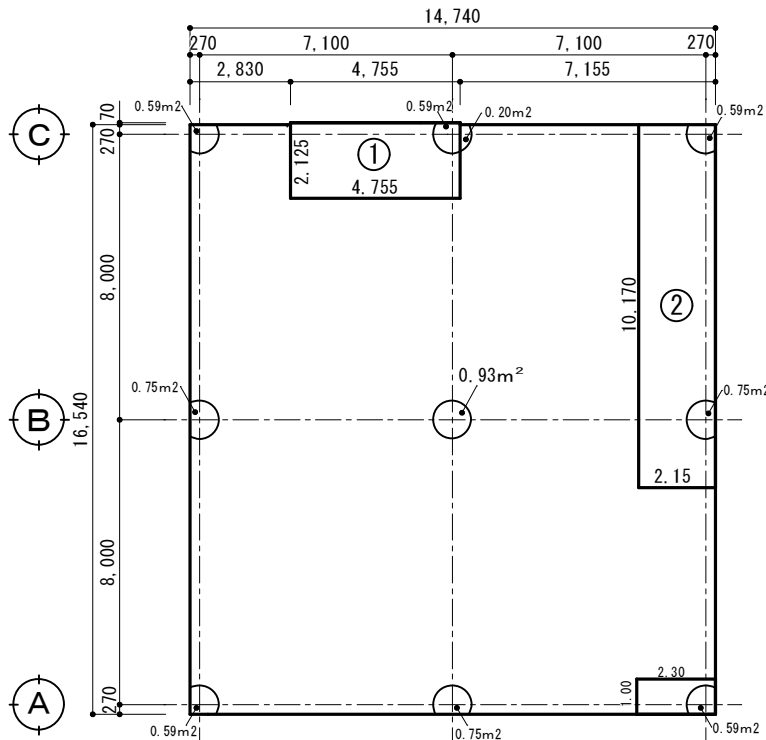
1階床面積 求積図 1/150



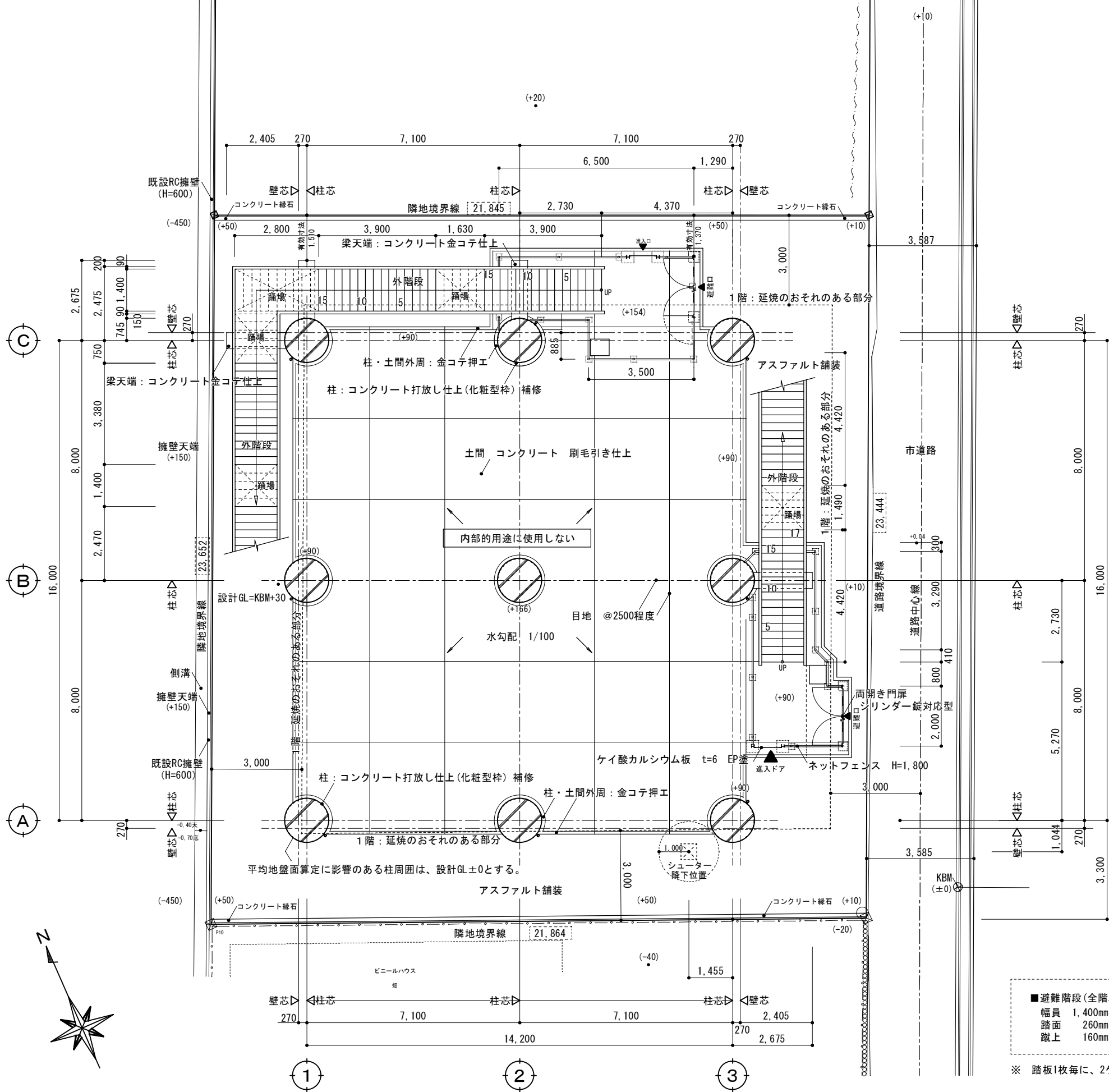
2階床面積 求積図 1/150



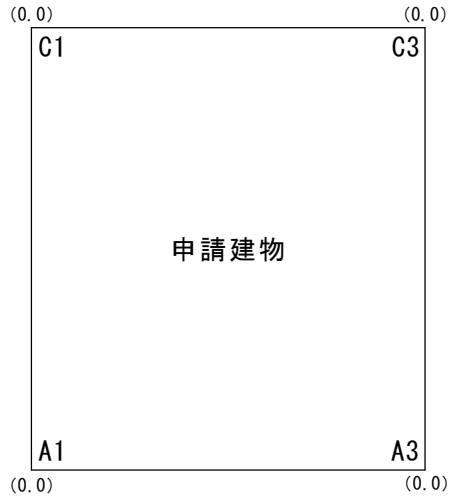
室別 床面積求積図 1/150



室別（柱型考慮） 床面積求積図 1/150

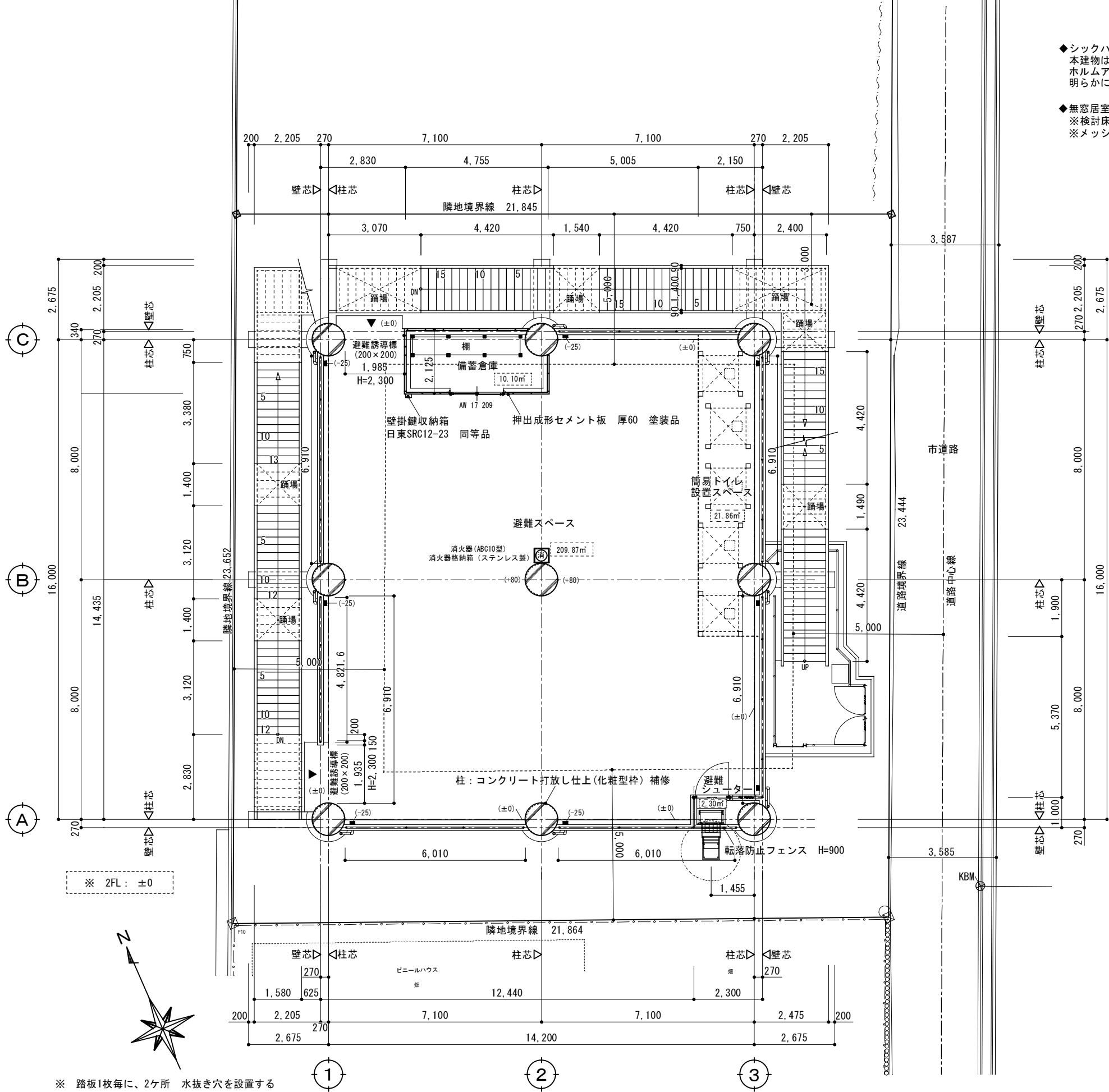


平均地盤（GL）の計算				
地点	高さ（H）	距離（L）	高さ（H）×距離	平均地盤（GL）
A1	0.0	16.54	0.0	
C1	0.0	14.74	0.0	
C3	0.0	16.54	0.0	
A3	0.0	14.74	0.0	
A1	0.0			
合計		62.56	0.0	0.0



■避難階段(全階段共通仕様)
幅員 1,400mm
踏面 260mm
蹴上 160mm

※ 踏板1枚毎に、2ヶ所 水抜き穴を設置する



※ 踏板1枚毎に、2ヶ所 水抜き穴を設置する

◆シックハウス対策の検討
本建物はコンクリート躯体表しの避難用建物である。
ホルムアルデヒド、クロルピネホス等の発生は無く、外周部はメッシュフェンスが設置されていることから、明らかに有効な開口部があり、H15国交告273-2により適用除外と判断する。

◆無窓居室 (LVS) 検討
※検討床面積 244.13㎡ (2F床面積) -10.10㎡ (倉庫床面積) =234.03㎡
※メッシュフェンス開口率は、桟材を考慮し、0.8として算定する。(メッシュ部分開口率は84%)

		計算式	面積	判定
【排煙】	必要	234.03/50= 4.68	4.68㎡	適合
	有効	6.01×0.21×3= 3.78 6.91×0.21×4= 5.80	9.58㎡	
【換気】	必要	234.03/20= 11.70	11.70㎡	適合
	有効	6.91×2.00×0.8×2= 22.11	22.16㎡	
【採光】	必要	234.03/20= 11.70	11.70㎡	適合
	有効	6.91×2.00×3×2= 82.92	72.30㎡	

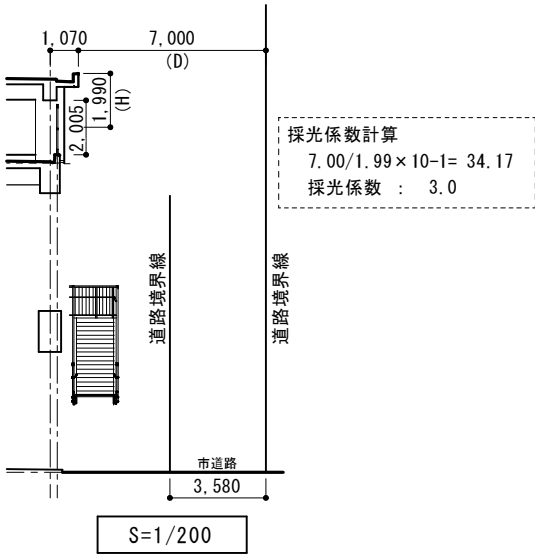
■避難階段 (全階段共通仕様)

幅員 1,400mm
踏面 260mm
蹴上 160mm

■消防法 規5の2-1 無窓階の検討

対象面積 244.13㎡
必要面積 244.13×1/30=8.14㎡
計画開口 踊場A : 1.985×2.30= 4.5655
踊場B : 1.935×2.30= 4.4505
計 9.016㎡

8.14㎡ ≤ 9.01㎡
計画開口面積が必要面積以上であり、適合



訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マサンヨシ

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正 司

図面名

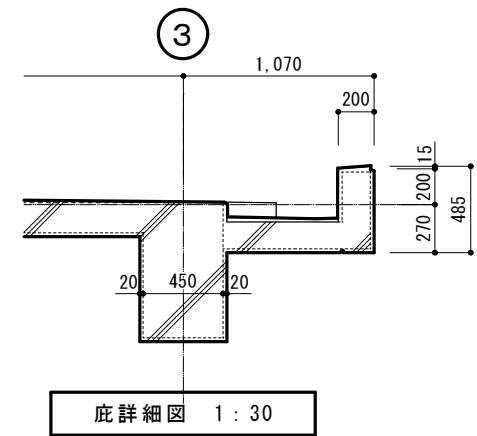
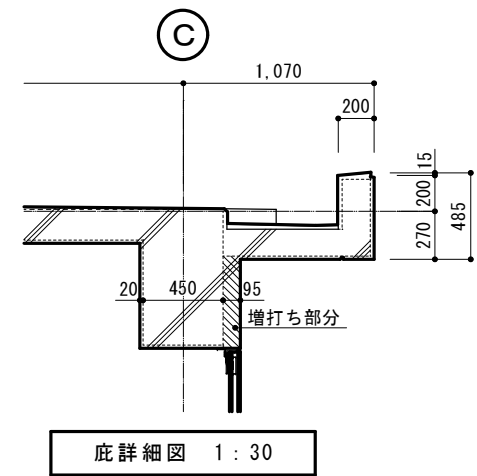
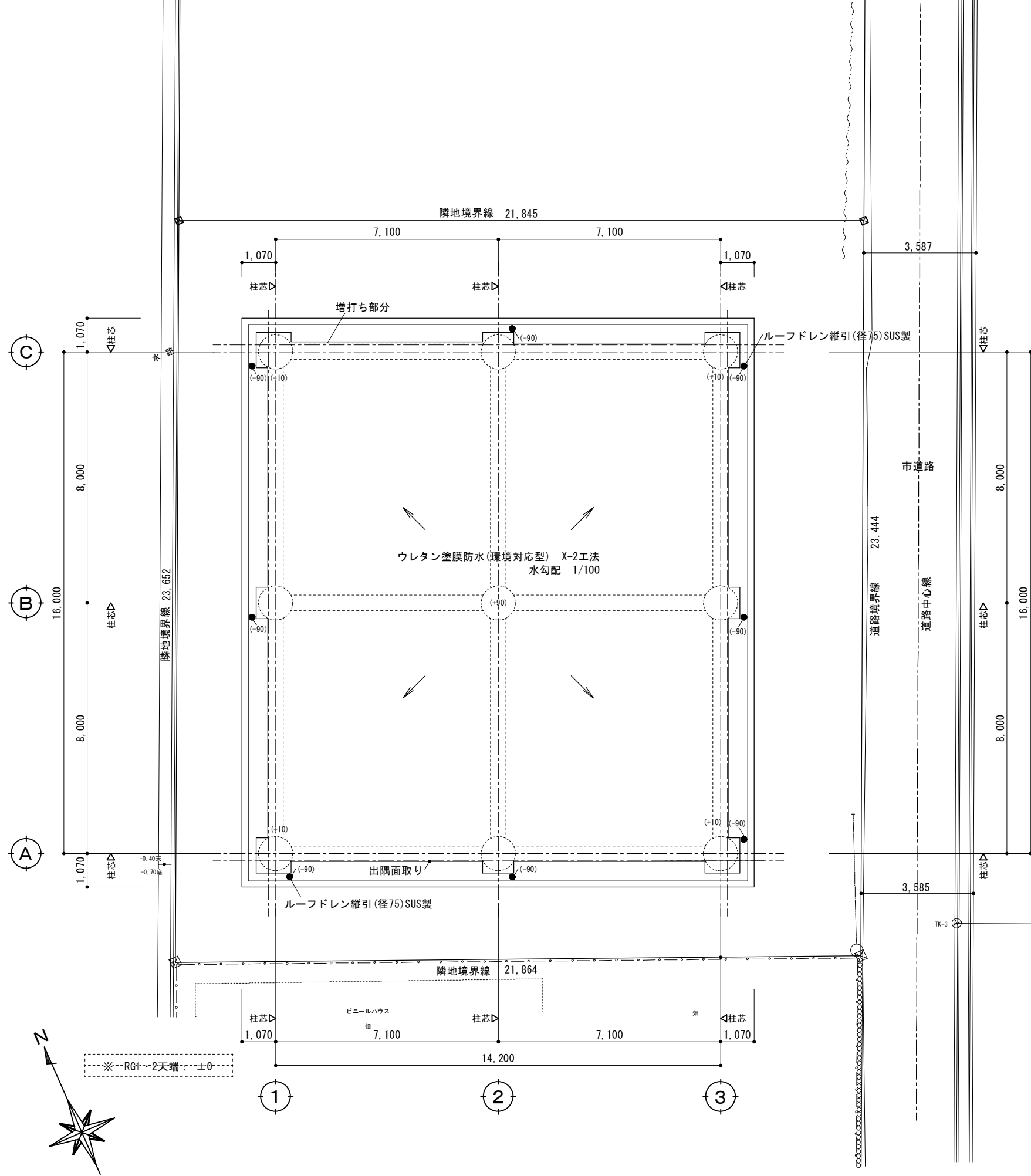
2階平面図

縮尺 A3 : A2×71%

S=1/100

図面番号

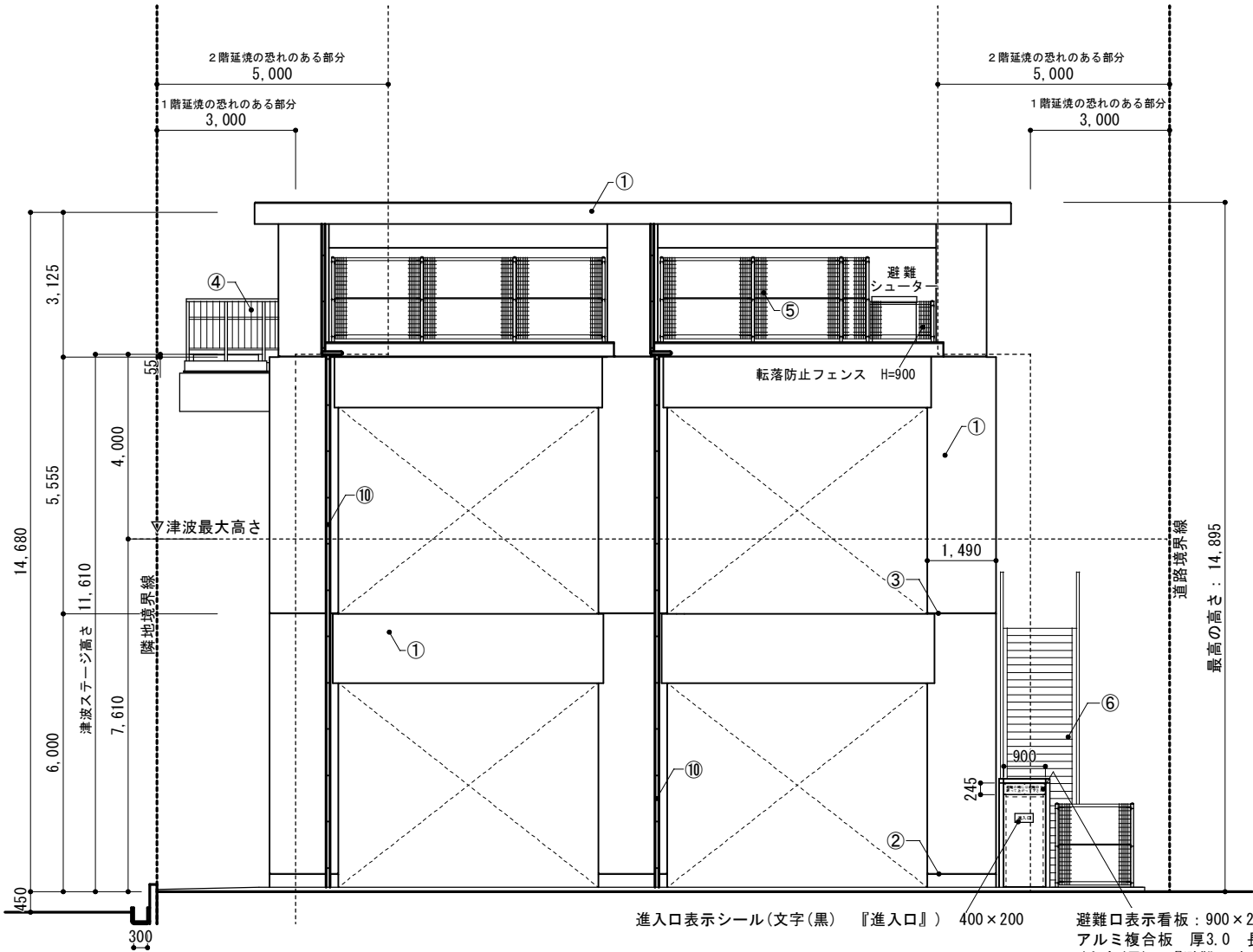
A-14



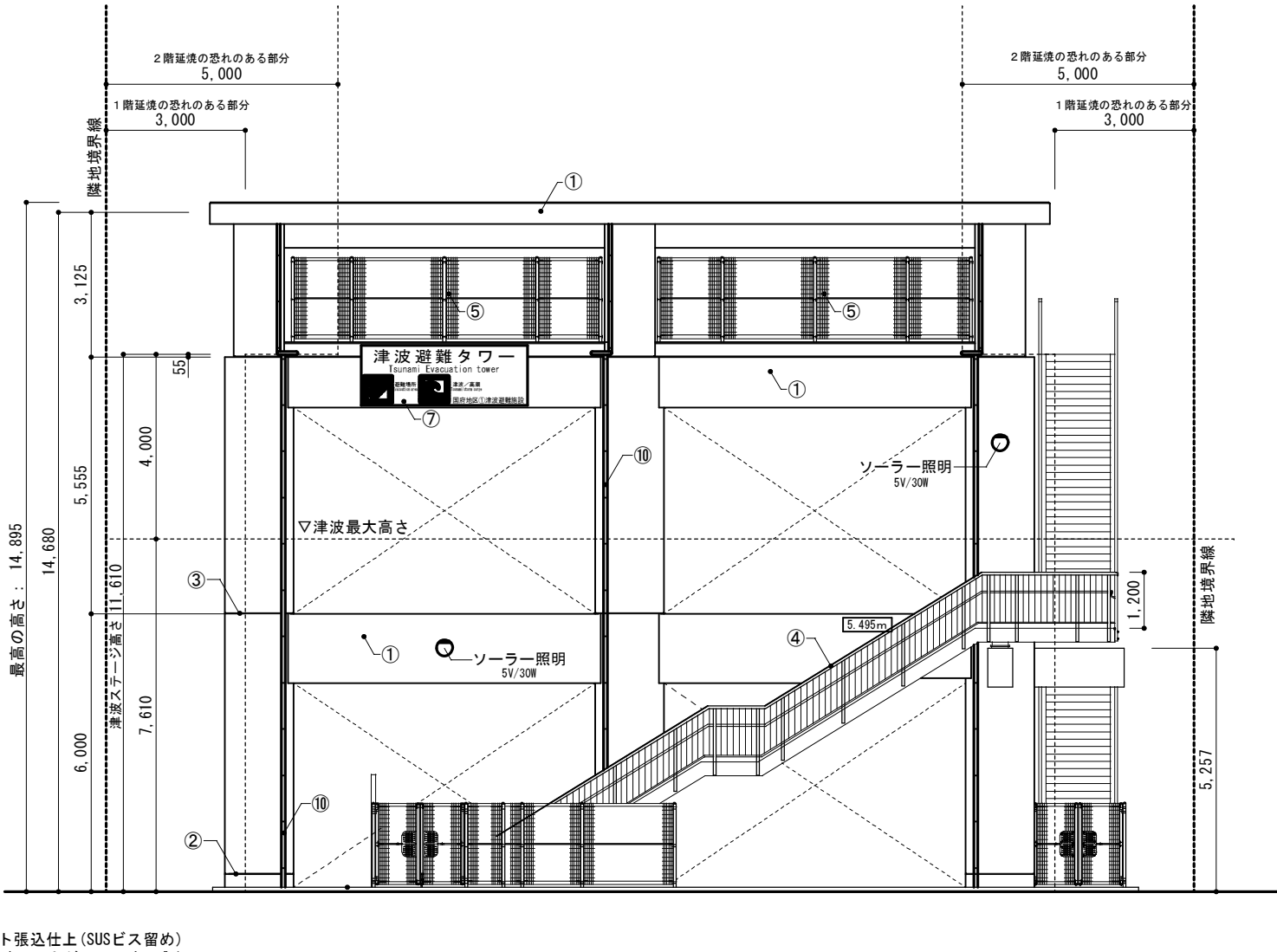
凡 例

符号	仕上	符号	仕上
①	コンクリート化粧型枠 打放し仕上	⑦	アルミ焼付け塗装の上 文字共(カッティングシート) 3,600×1,300 ステンレスビス止め @450
②	化粧目地 15×15	⑧	押出成形セメント板 厚60 塗装品
③	打継目地 20×20 シーシング充填	⑨	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 EP塗
④	鋼製階段手摺・溶融亜鉛メッキ (HDZT63) H=1.20 m	⑩	カラーVP管 径75 ステンレス製梱金物
⑤	メッシュフェンス H=1.80 m	㊦	避難シューター
⑥	溶融亜鉛メッキ (HDZT77)		

※ LED照明器具の取付位置については、監督職員と事前に協議して決定する。



南側立面図 1/100

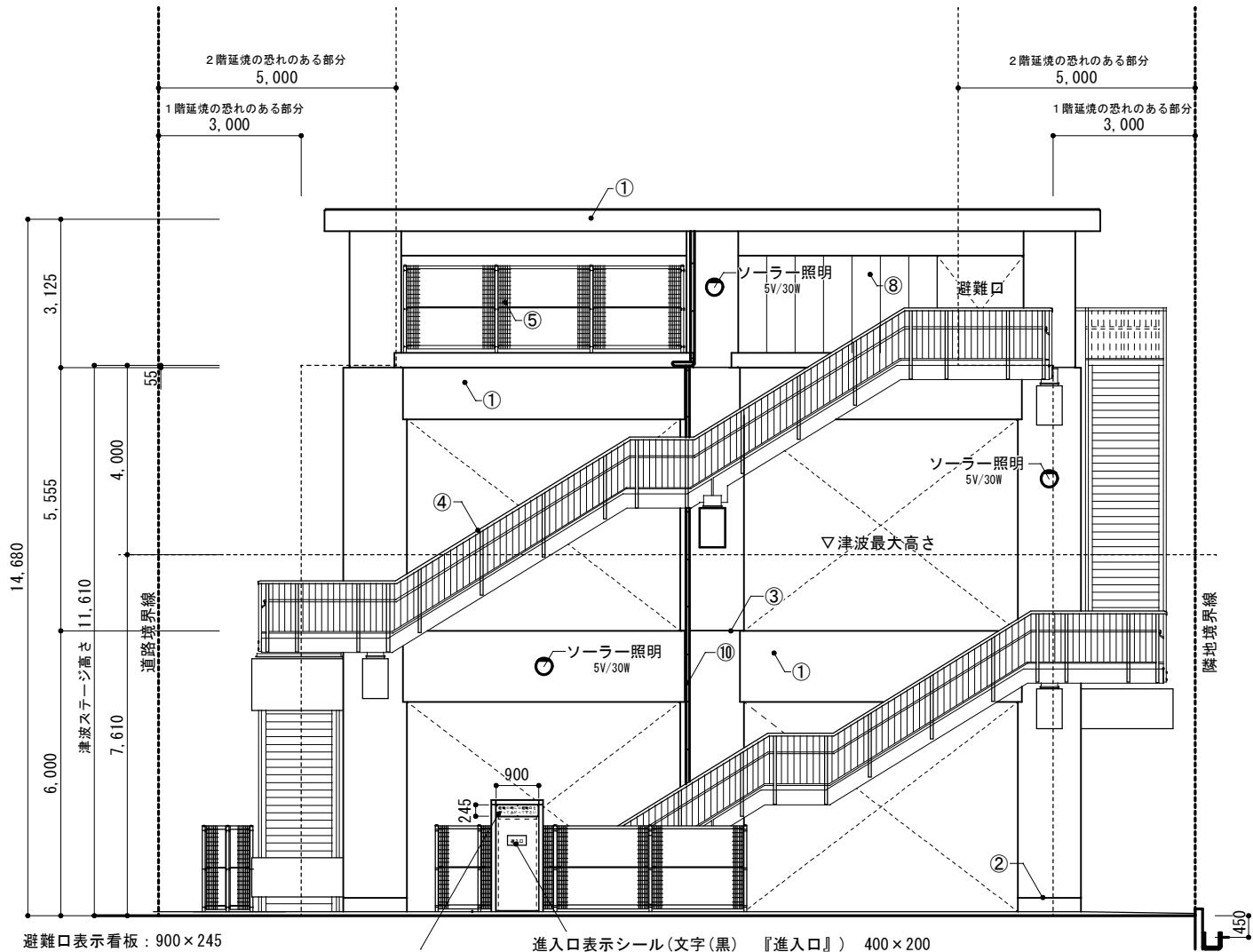


東側立面図 1/100

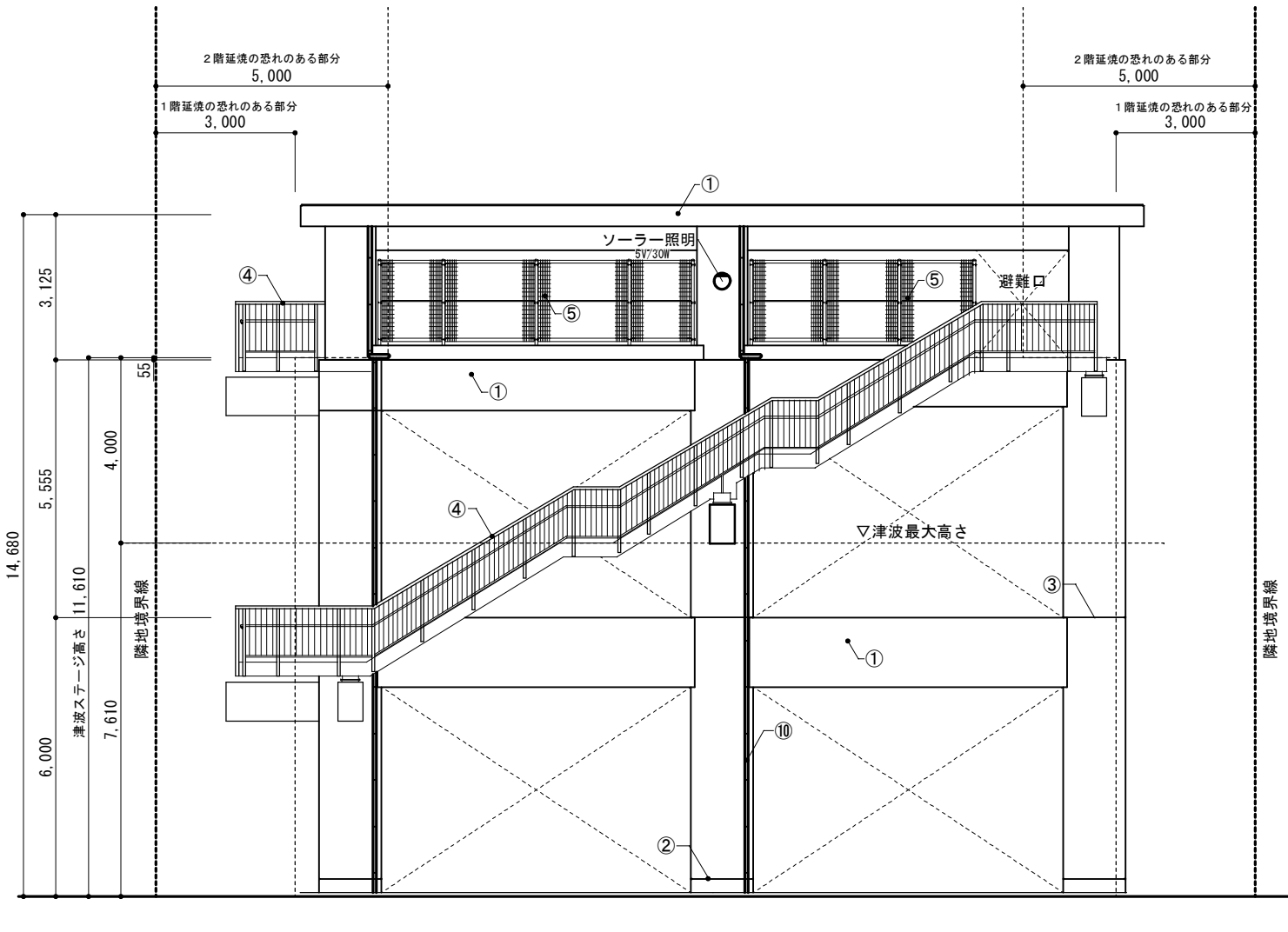
凡 例

符号	仕上	符号	仕上
①	コンクリート化粧型枠 打放し仕上	⑦	アルミ焼付け塗装の上 文字共(カッティングシート) 3,600×1,300 ステンレスビス止め @450
②	化粧目地 15×15	⑧	押出成形セメント板 厚60 塗装品
③	打継目地 20×20 シーリング充填	⑨	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 EP塗
④	鋼製階段手摺・溶融亜鉛メッキ (HDZT63) H=1.20 m	⑩	カラーVP管 径75 ステンレス製掘金物
⑤	メッシュフェンス H=1.80 m		
⑥	溶融亜鉛メッキ (HDZT77)		

※ LED照明器具の取付位置については、監督職員と事前に協議して決定する。



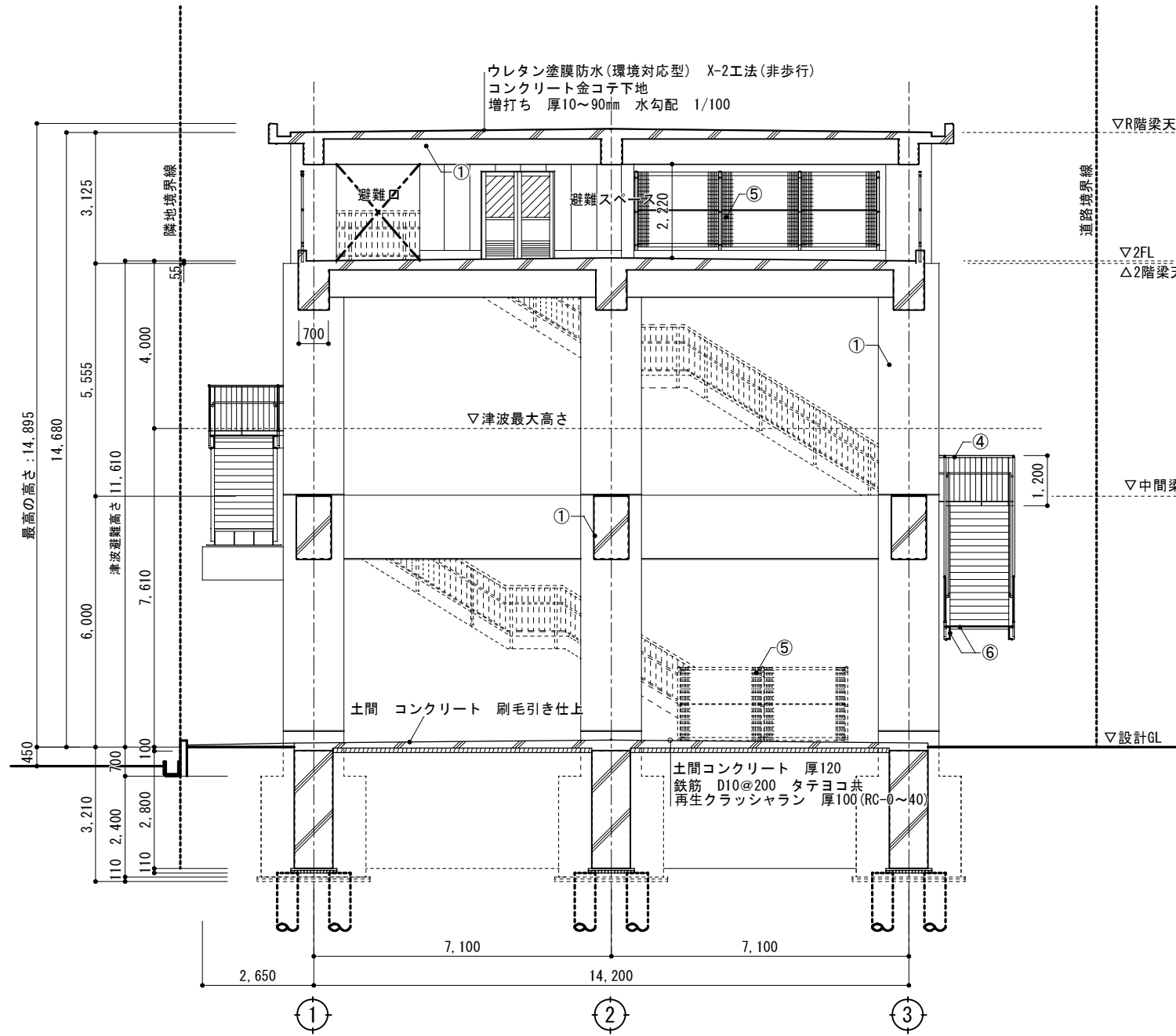
北側立面図 1/100



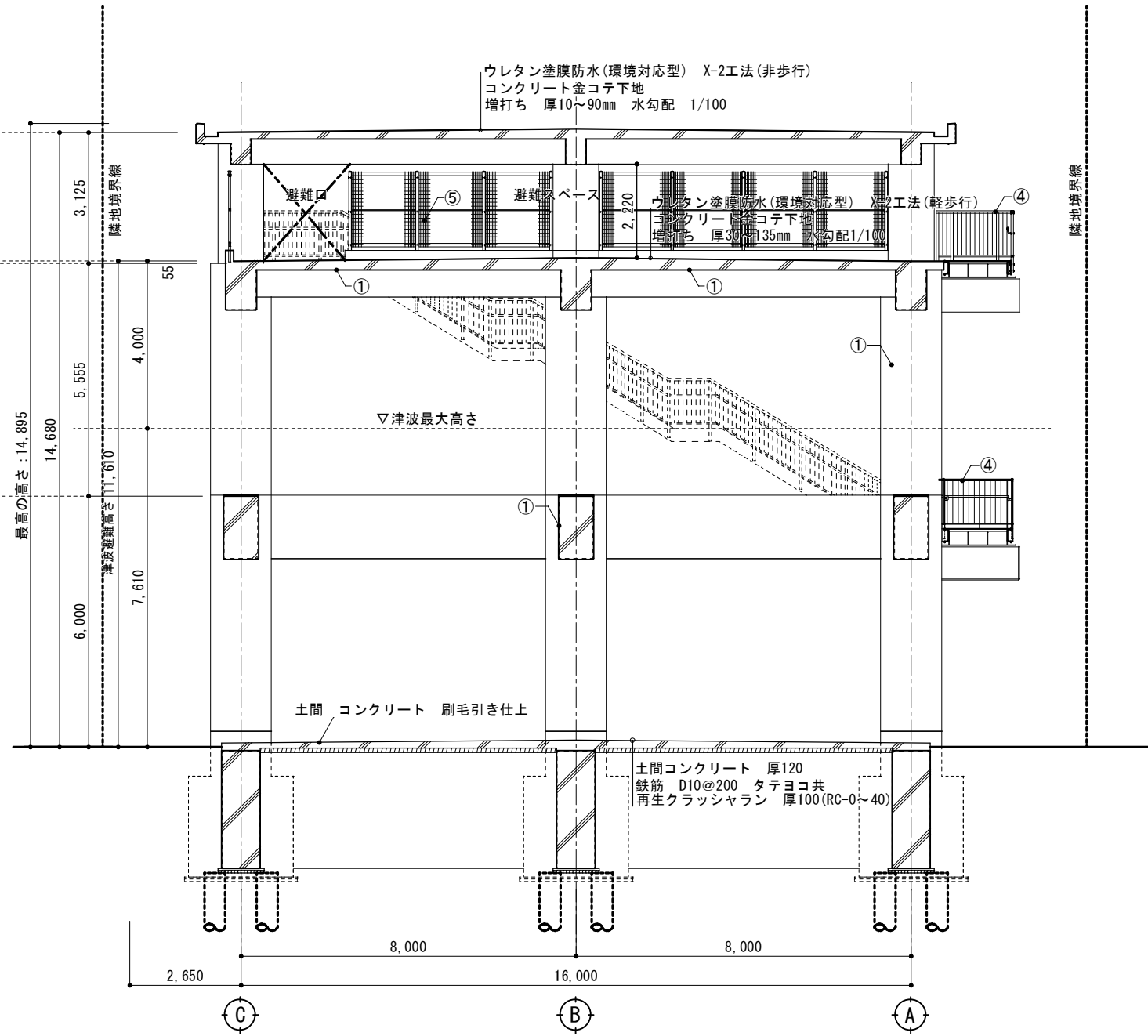
西側立面図 1/100

凡 例

符号	仕上	符号	仕上
①	コンクリート化粧型枠 打放し仕上	⑦	アルミ焼付け塗装の上 文字共(カッティングシート) 3,600×1,300 ステンレスビス止め @450
②	化粧目地 15×15	⑧	押出成形セメント板 厚60 塗装品
③	打継目地 20×20 シーシング充填	⑨	ケイ酸カルシウム板 t=6.0 EP塗
④	鋼製階段手摺・溶融亜鉛メッキ (HDZT63) H=1.20 m	⑩	カラーVP管 径75 ステンレス製掴金物
⑤	メッシュフェンス H=1.80 m		
⑥	溶融亜鉛メッキ (HDZT77)		



南側断面図 1/100



東側断面図 1/100

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計 間34

マセンヨシ

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正司

図面名

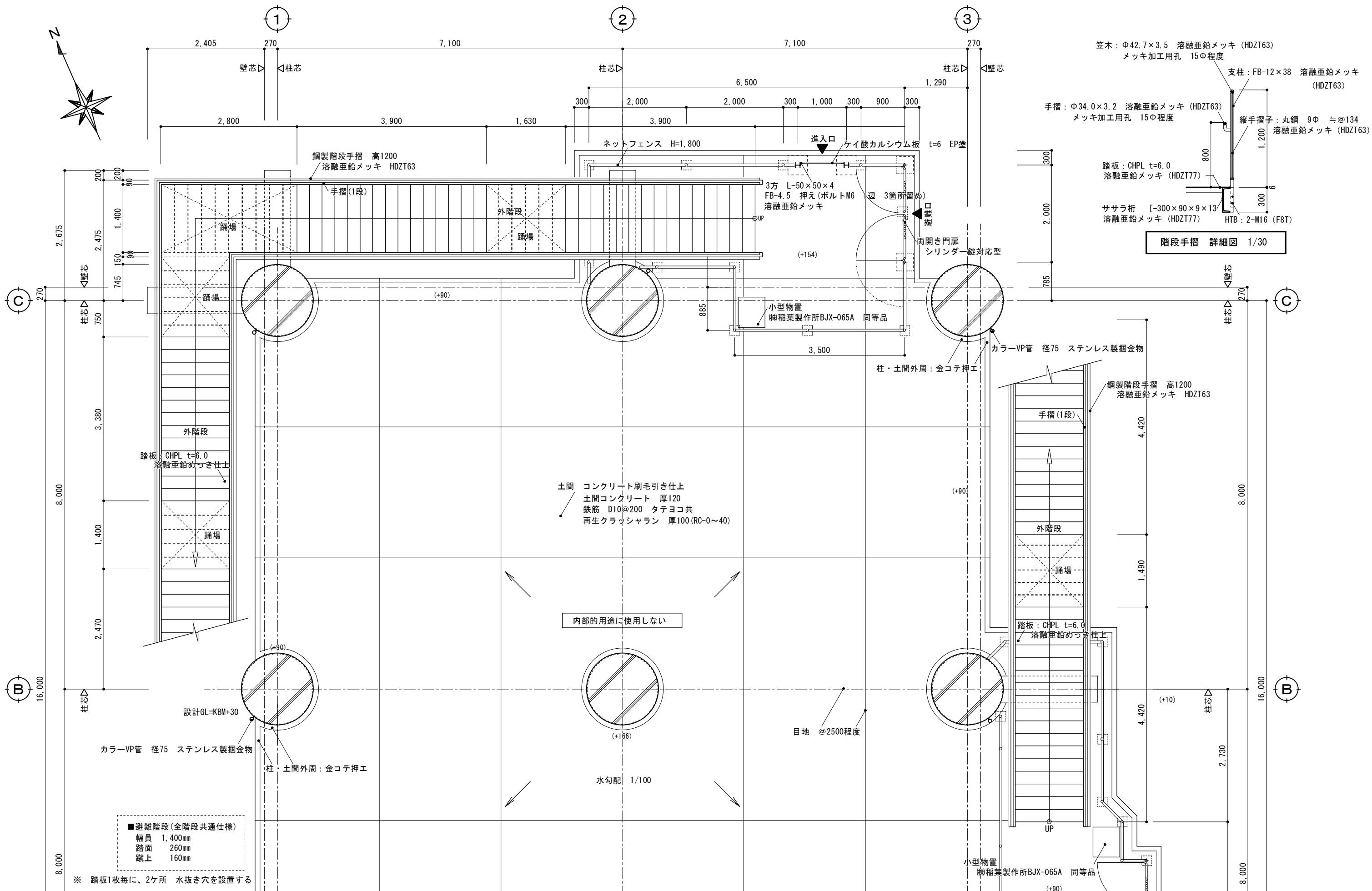
断面図

縮尺 A3: A2×71%

S=1/100

図面番号

A-18



訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

マンション
建築設計 間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正司

図面名

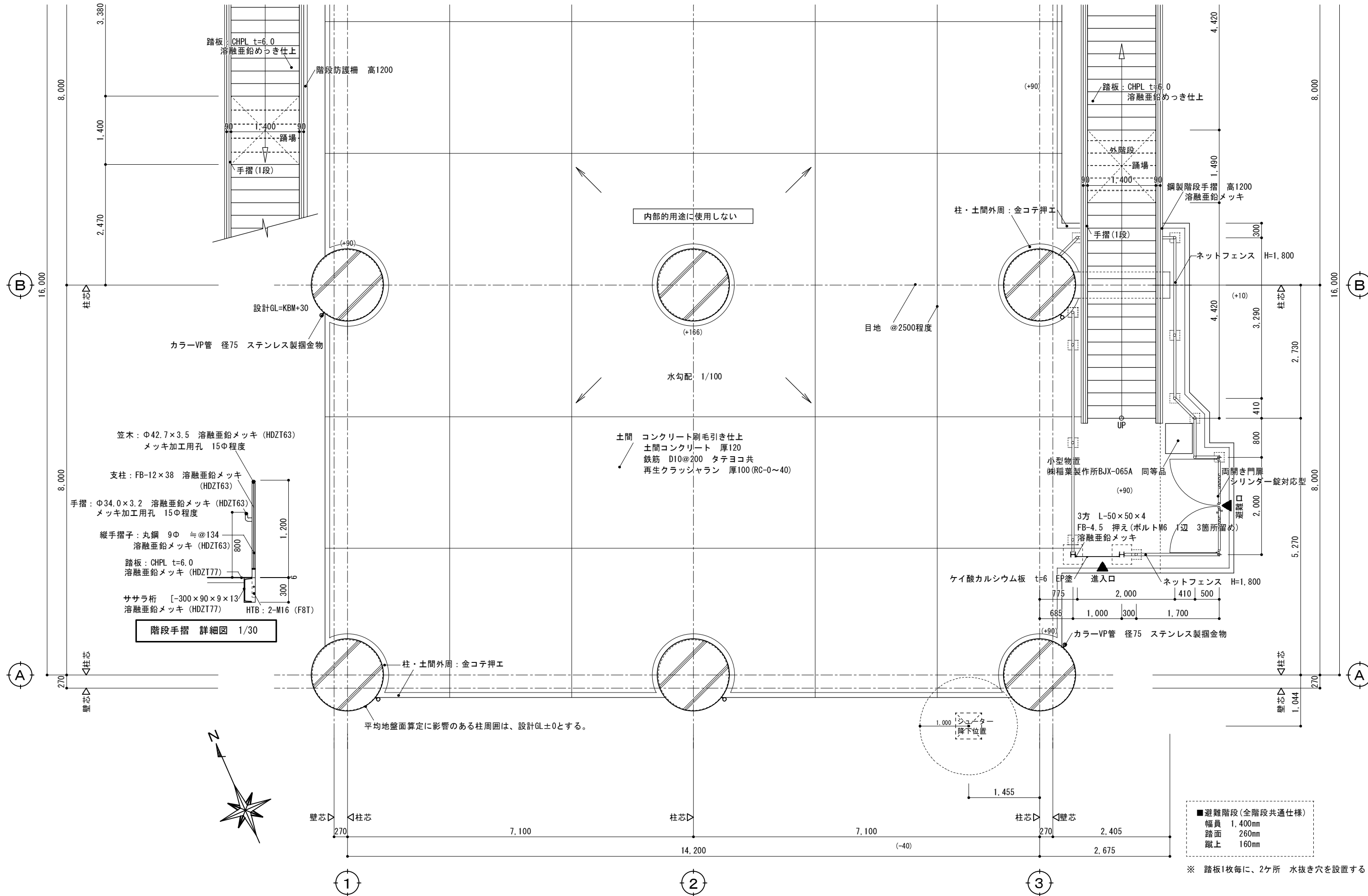
1階平面詳細図A

縮尺 A3：A2×71%

S=1/50

図面番号

A-19



訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マサンヨシ

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片山正司

図面名

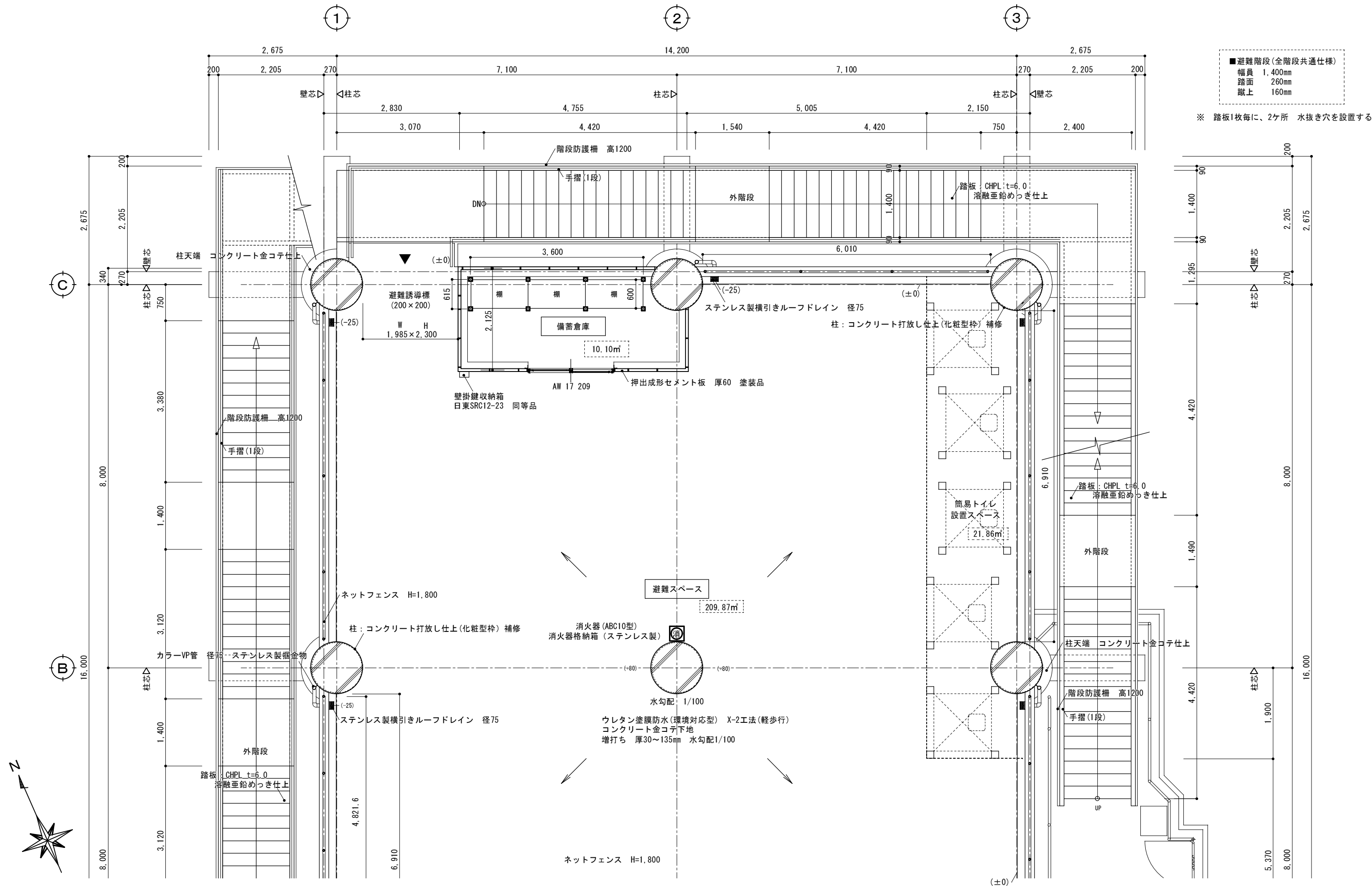
1階平面詳細図B

縮尺 A3: A2×71%

S=1/50

図面番号

A-20



訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マンション

間34

三重県知事登録

第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片山 正司

図面名

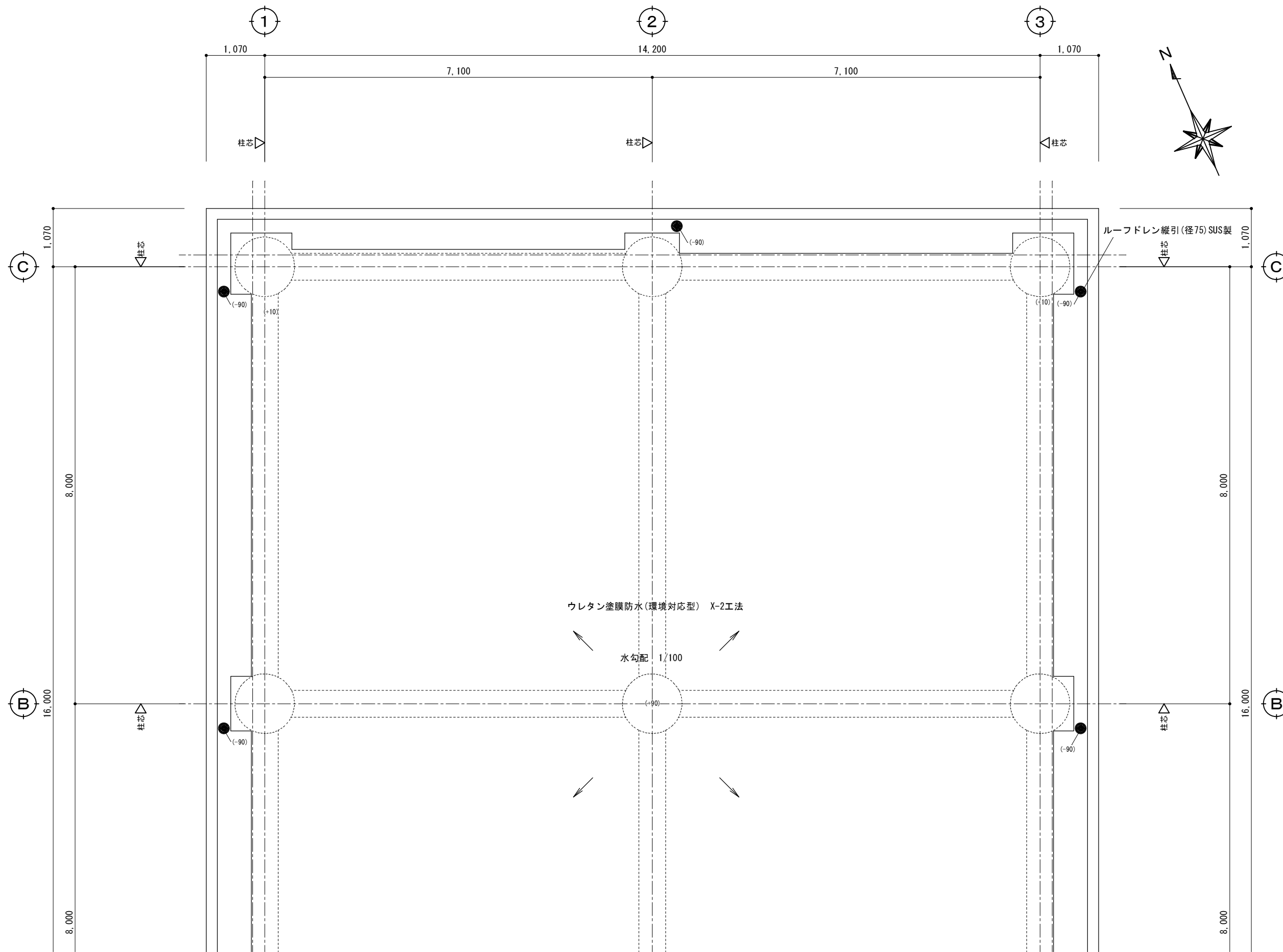
2階平面詳細図A

縮尺 A3 : A2 × 71%

S=1/50

図面番号

A-21



※ RG1・2 天端：±0

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マサンヨン

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山正司

図面名

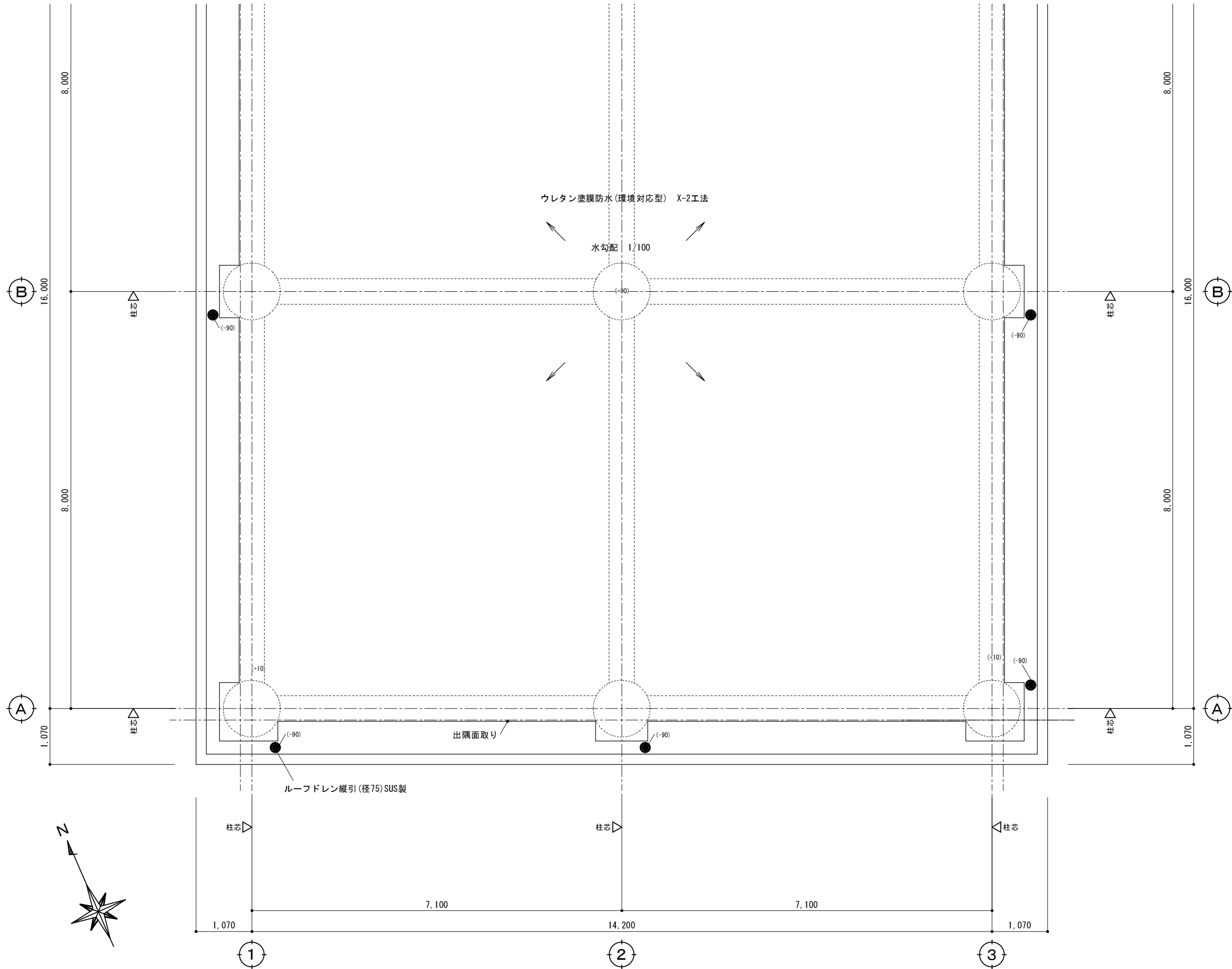
屋上平面詳細図A

縮尺 A3：A2×71%

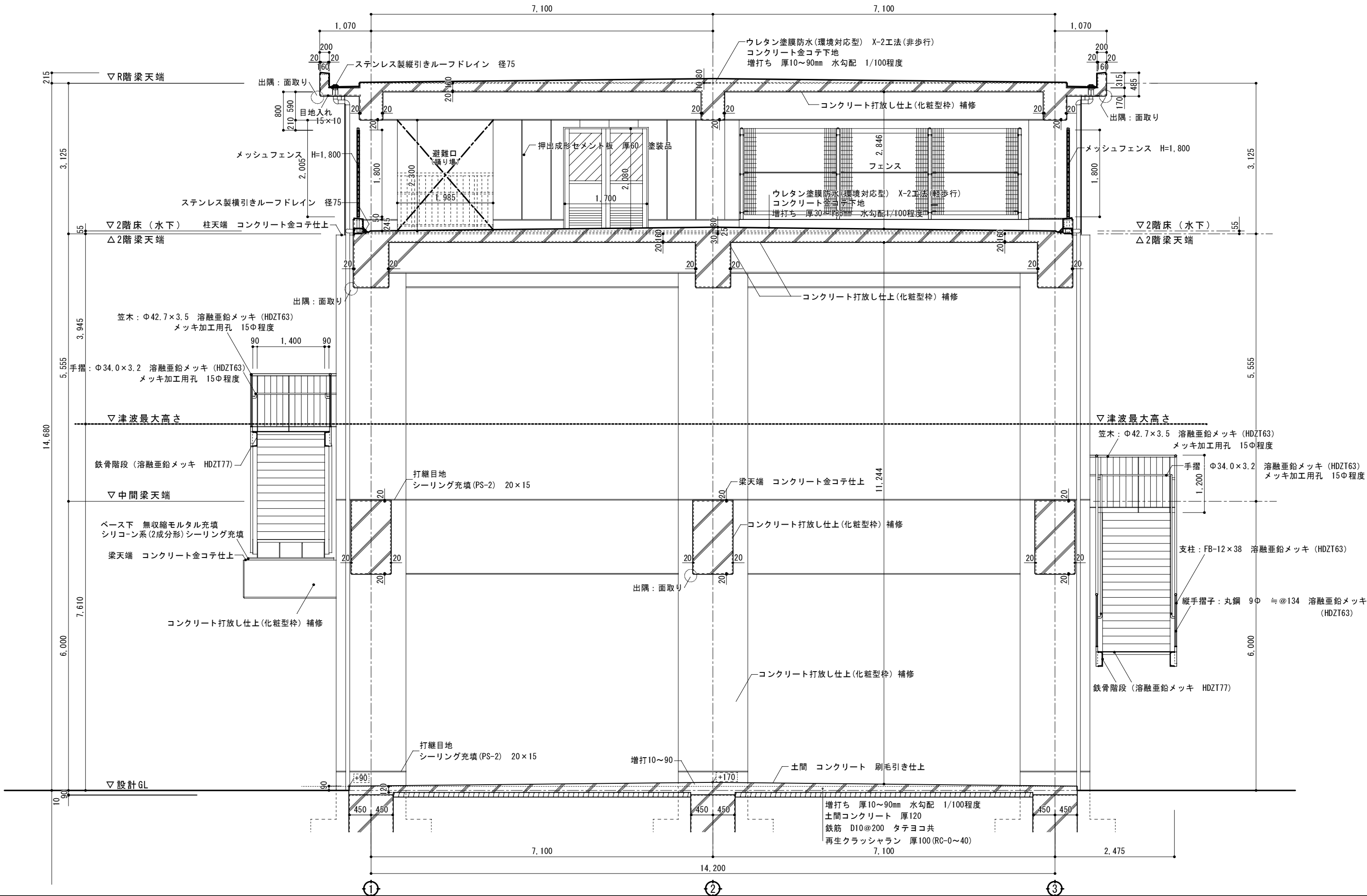
S=1/50

図面番号

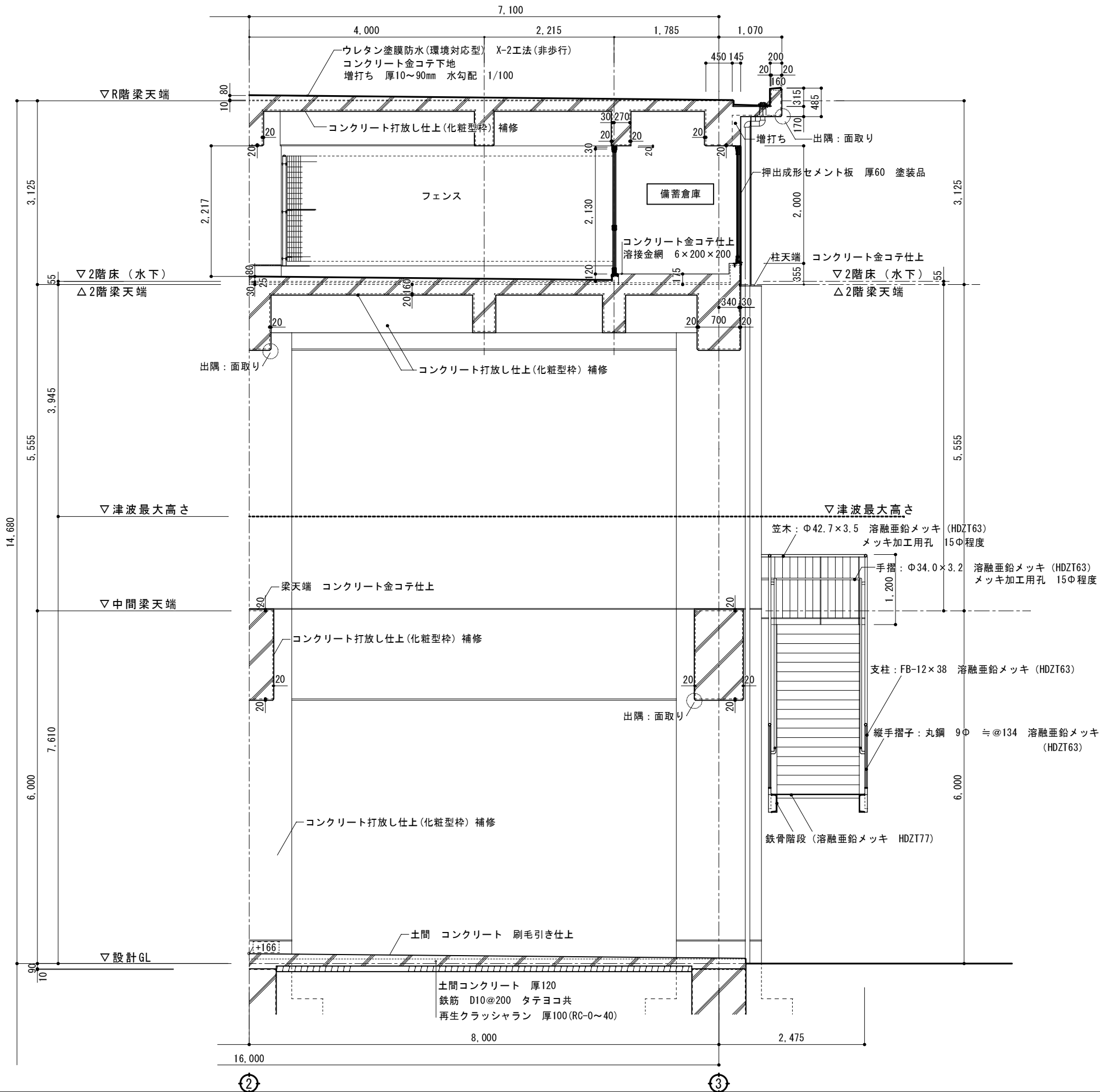
A-23

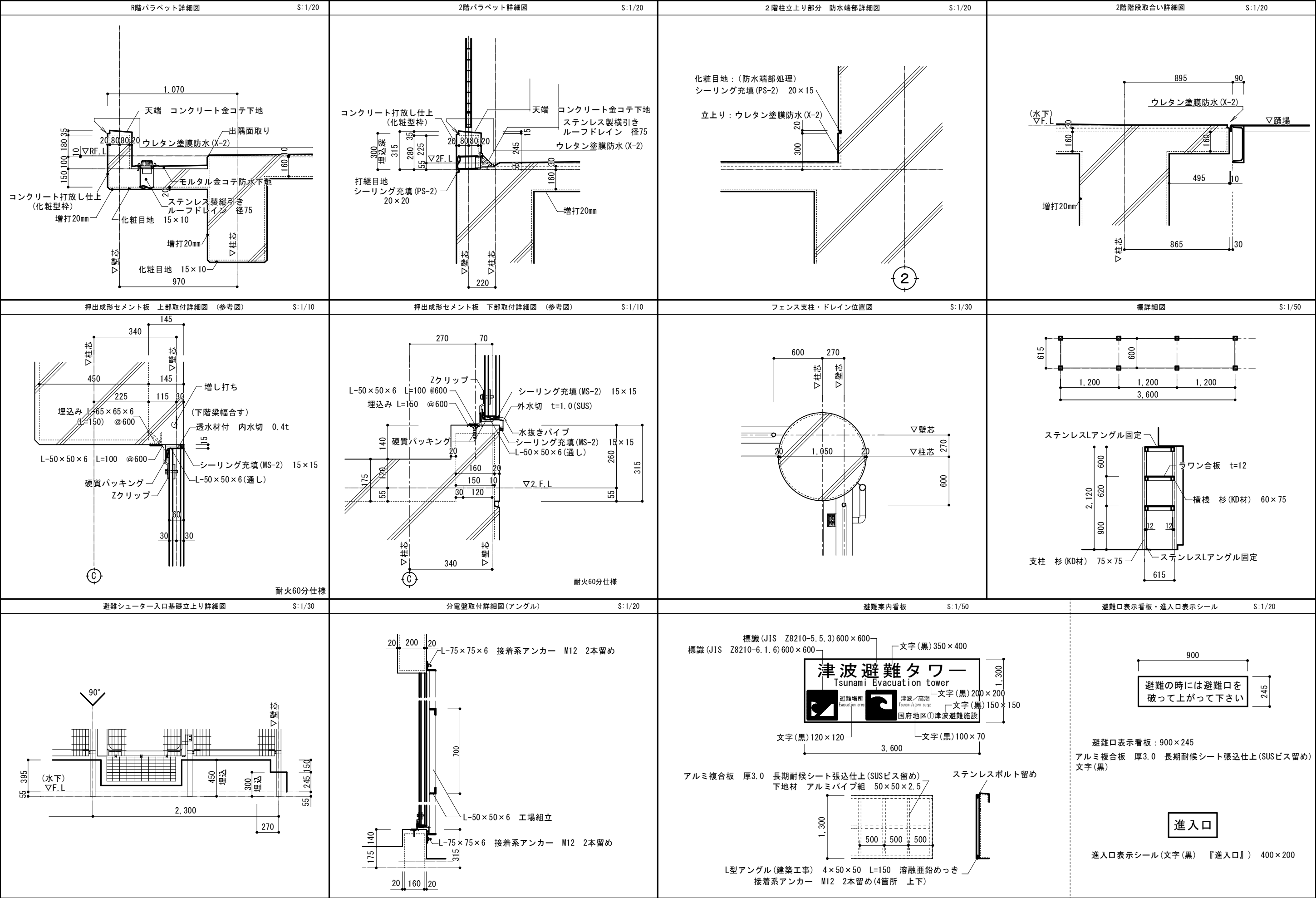


訂正	工事名称 令和５・６年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図	設計 片 山	建築設計 間34 マ サ ン ヨ ン	三重県知事登録 第1-2154号	一級建築士 大臣登録 第195765号 片 山 正 司	図面名 屋上平面詳細図A	縮 尺 A3 : A2 × 71% S=1/50	図面番号 A-24
----	-------------------------------------	-----------	-----------------------	------------------	--------------------------------	-----------------	-----------------------------	--------------



訂正	工事名称 令和 5 ・ 6 年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図	設計 片 山	建築設計 マシニョ 間34	三重県知事登録 第1-2154号	一級建築士 大臣登録 第195765号 片 山 正 司	図面名 断面詳細図	縮 尺 A3 : A2×71% S=1/50	図面番号 A-25
----	---	-----------	---------------------	------------------	--------------------------------	--------------	------------------------------	--------------





訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計
片山

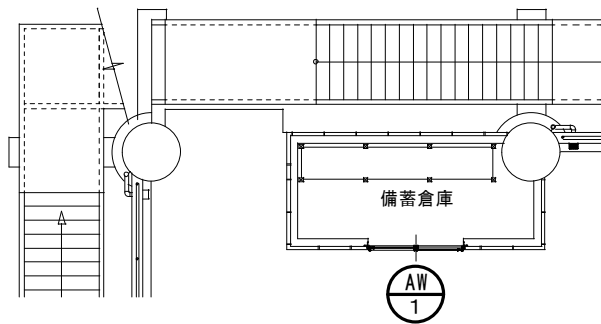
建築設計 間34
マシンヨン
三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正 司

図面名
部分詳細図

縮尺 A3 : A2×71%
S=1/10・1/20
S=1/30・1/50

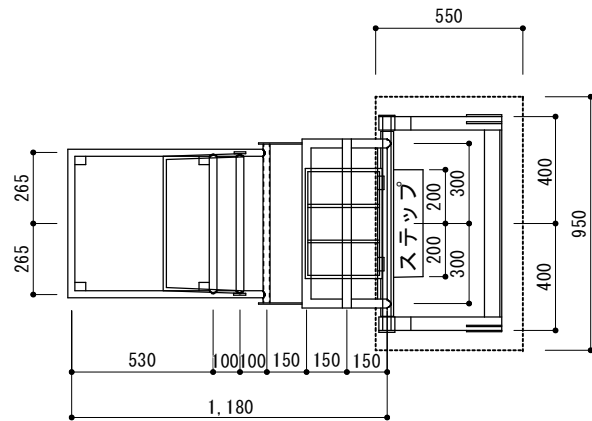
図面番号
A-27



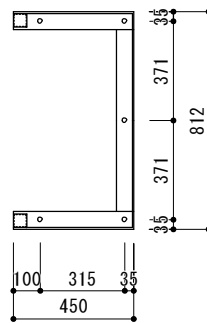
2階建具指示図

符号	数量	AW-1	2階：備品庫	1箇所	
形状 寸法					
形状		引違い框戸		見込70	
仕上・材質		アルミ形材			
硝子		網入型板硝子 t=6.8			
金物		付属金物一式			
施錠		シリンダー錠			
備考		アルミガラリ 敷居レール(ステンレス製)			
符号	数量	FT-1	1階：避難口	2箇所	FT-2
形状 寸法					
形状		メッシュフェンス シリンダー錠対応型両開き門扉		メッシュフェンス 片開き門扉 (シリンダー錠対応型門扉)	
仕上・材質		高耐候性樹脂粉体塗装(標準色)		高耐候性樹脂粉体塗装(標準色)	
硝子					
金物		隙間防止プレート、レバーハンドル		隙間防止プレート、レバーハンドル、下部エブロン(850×380)	
施錠		シリンダー / サムターン		シリンダー / サムターン	
備考		朝日ARフェンス 同等品 基礎ブロック		朝日ARフェンス 同等品 (柱Φ60.5×3.2t仕様) 高さ加工品	

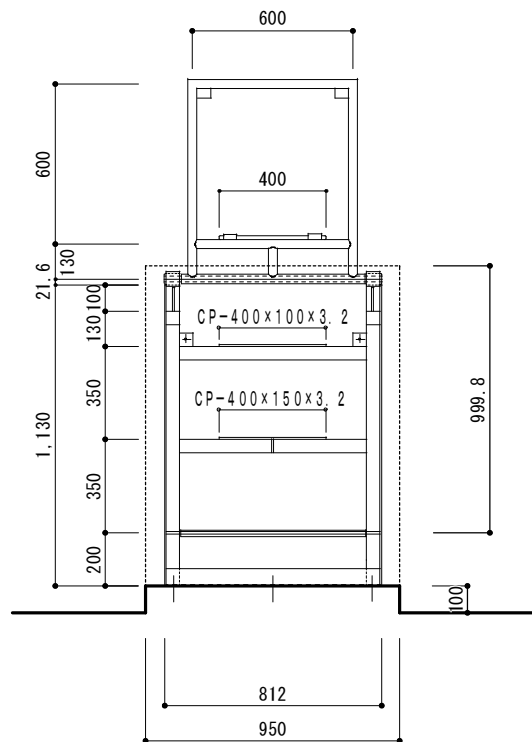
避難シューター 参考図 S:1/20



オリロー株式会社 認定番号. ふV-005-2号、袋長=12m10
金具記号. WA-1、連番. 20
同等品以上

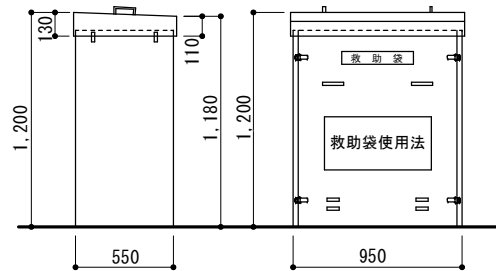
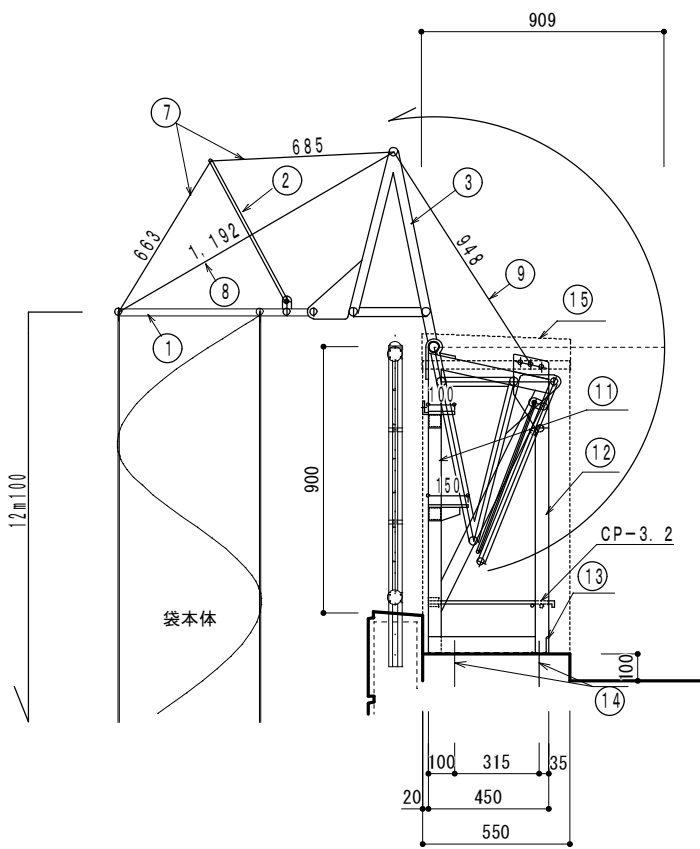


アンカーボルト配置図



サビ止塗装及び吹付塗装仕上

番号	名称	備考
1	入口金具①	φ 2 7 . 2 × 2 . 3
2	入口金具②	φ 1 2 (L = 6 0 0)
3	入口金具③	φ 3 4 . 0 × 3 . 2
4		
5		
6		
7	ビニロンロープ	φ 8
8	被覆ワイヤロープⅡ	φ 8
9	被覆ワイヤロープⅢ	φ 1 0
10		
11	取付金具部材-1	□ - 5 0 × 5 0 × 2 . 3
12	取付金具部材-2	F B - 5 0 × 9
13	取付金具部材-3	L - 6 5 × 6 5 × 6
14	金属製拡張アンカー&貫通ボルト	M 1 2
15	格納箱	t 1 . 2 SUS304HL仕上げ



屋外用分解型格納箱寸法図 S:1/30

t 1 . 2 SUS304HL仕上げ

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マサン ヨシ

間34

三重県知事登録

第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片山 正司

図面名

建具表・避難シューター参考図

縮尺

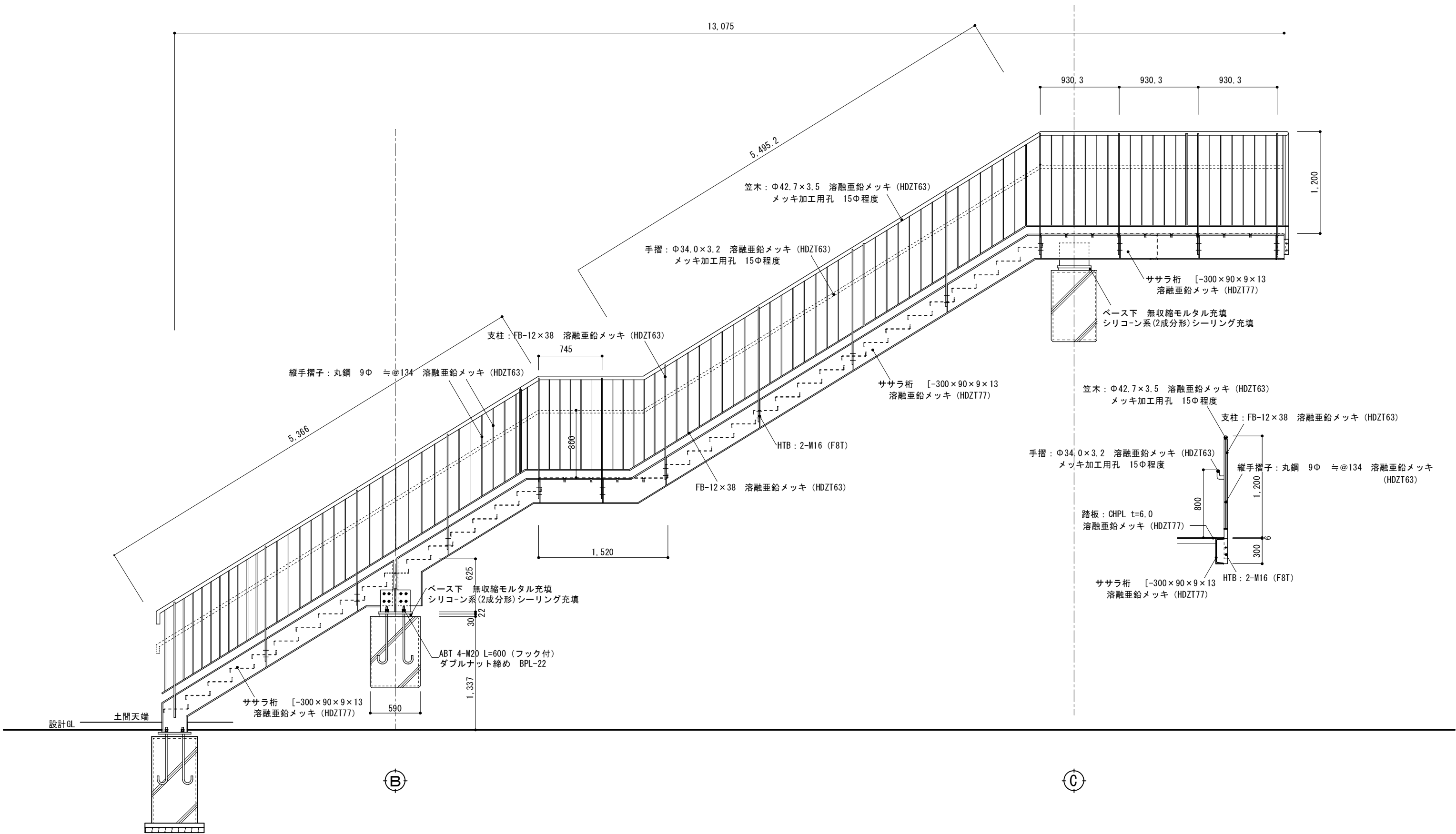
A3 : A2×71%

S=1/100

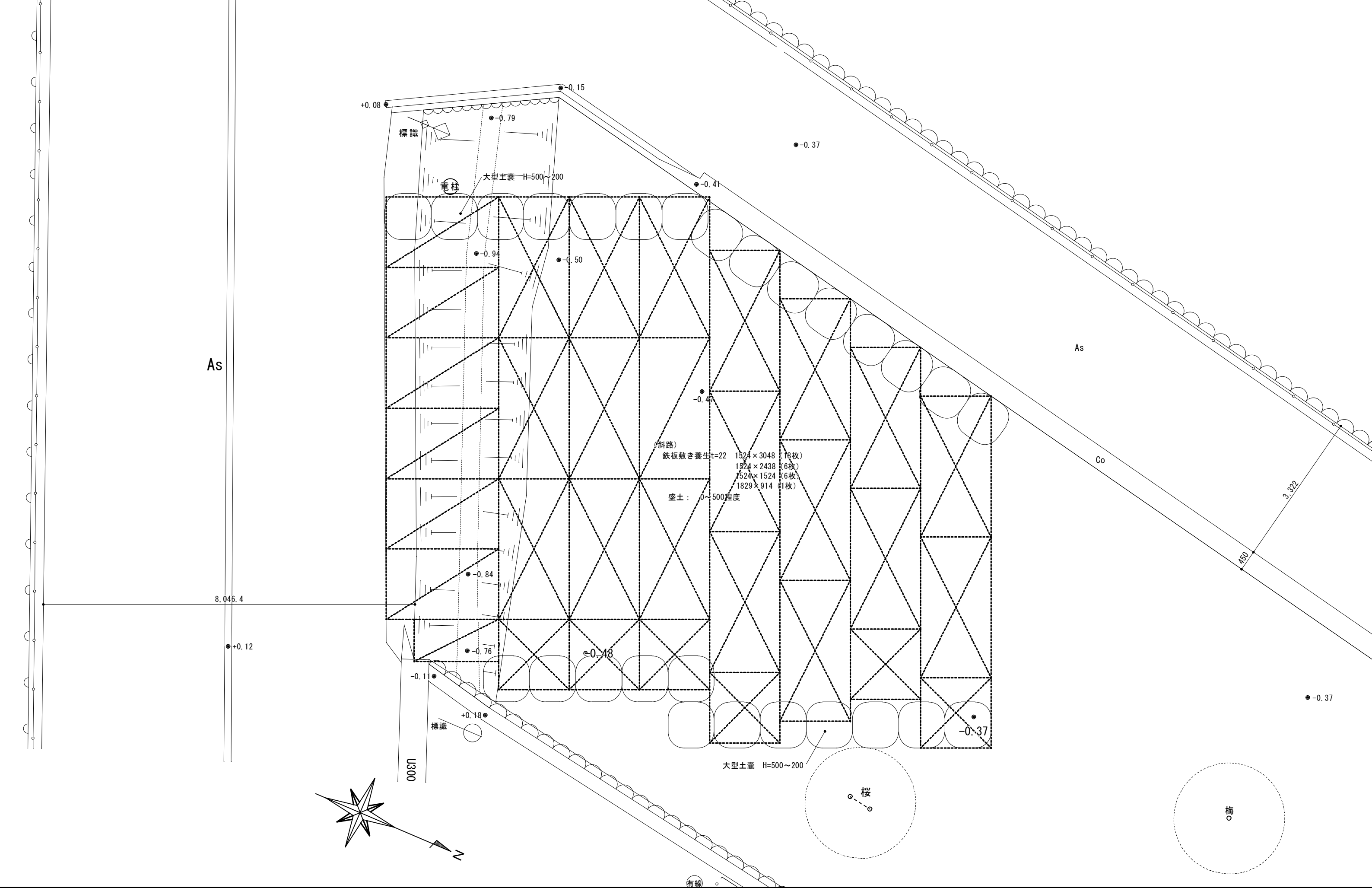
S=1/20・1/30

図面番号

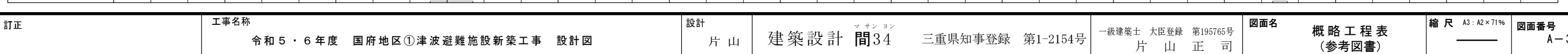
A-28

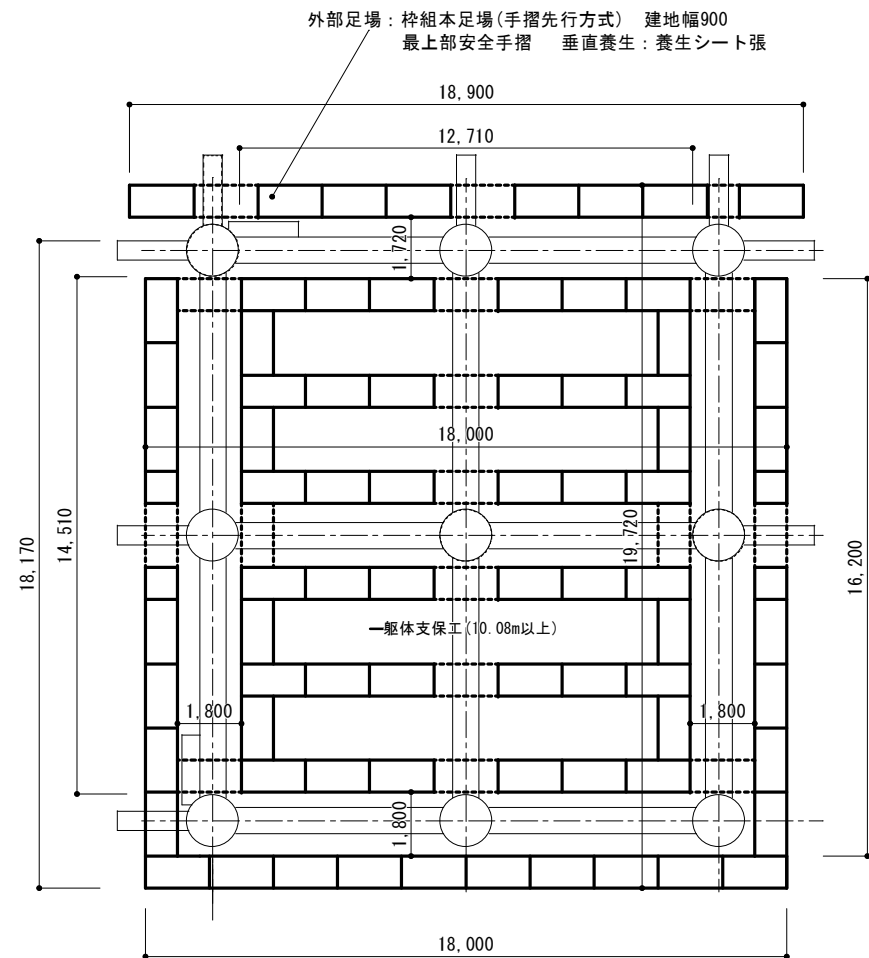


訂正	工事名称 令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図	設計 片山	建築設計 間34	マシンヨン 三重県知事登録 第1-2154号	一級建築士 大臣登録 第195765号 片山 正司	図面名 鋼製階段手摺詳細図	縮尺 A3 : A2×71% S=1/30	図面番号 A-29
----	-------------------------------------	----------	-------------	---------------------------	------------------------------	------------------	-----------------------------	--------------

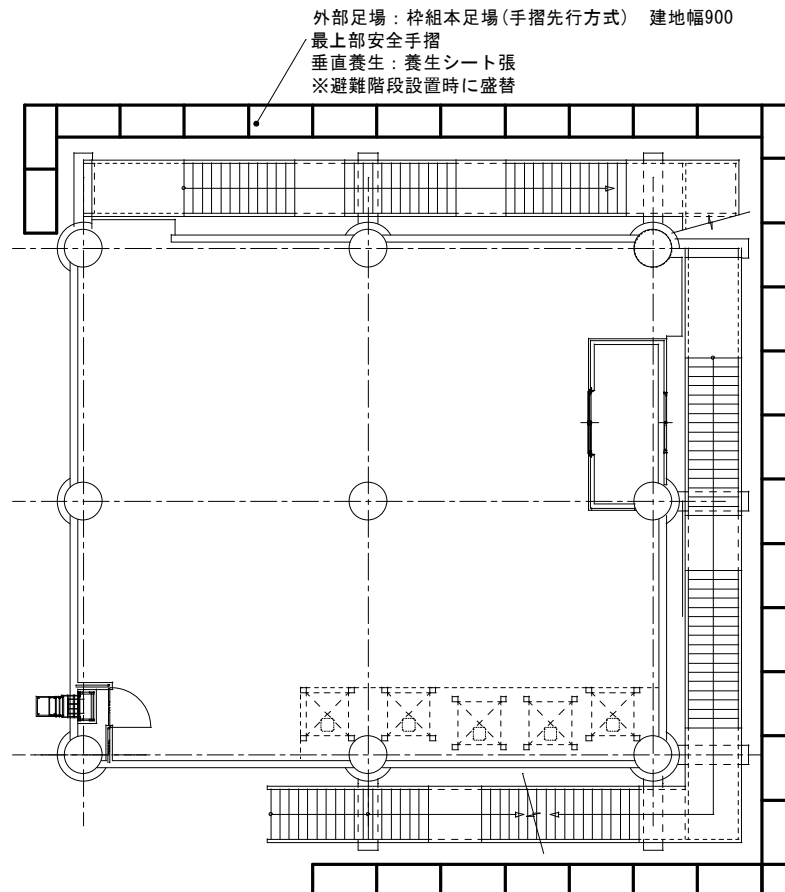


概略工程表

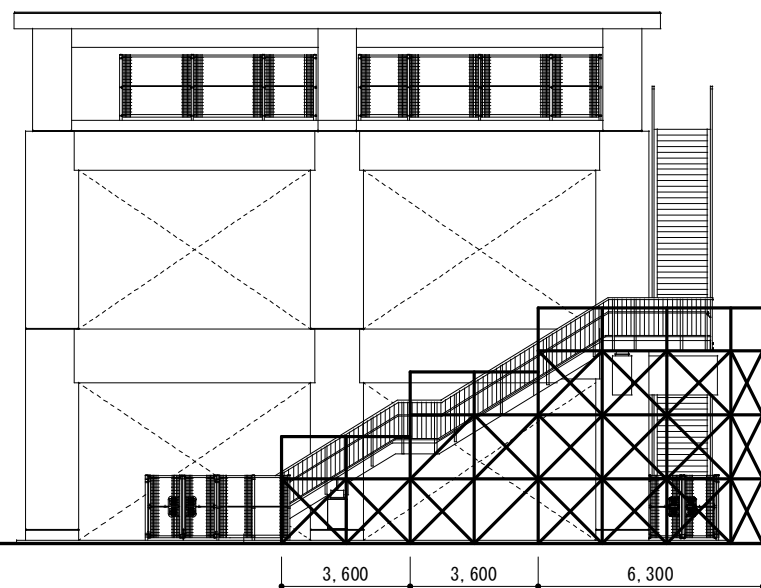




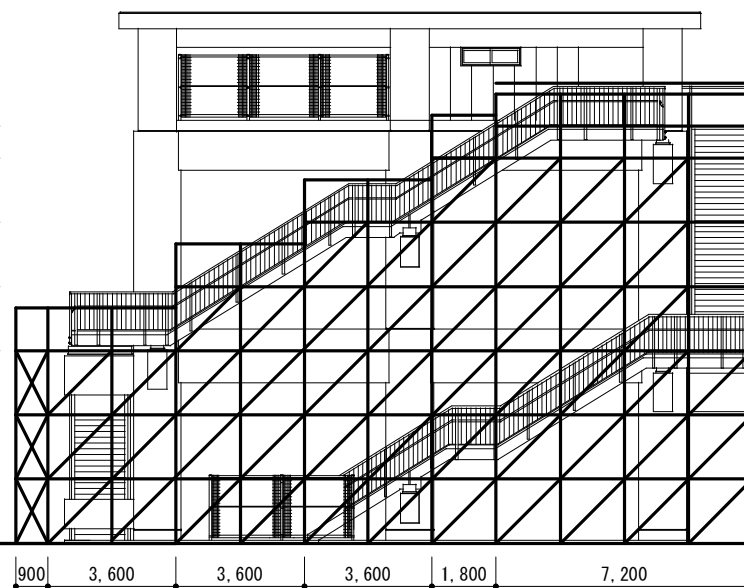
外部足場平面計画-1



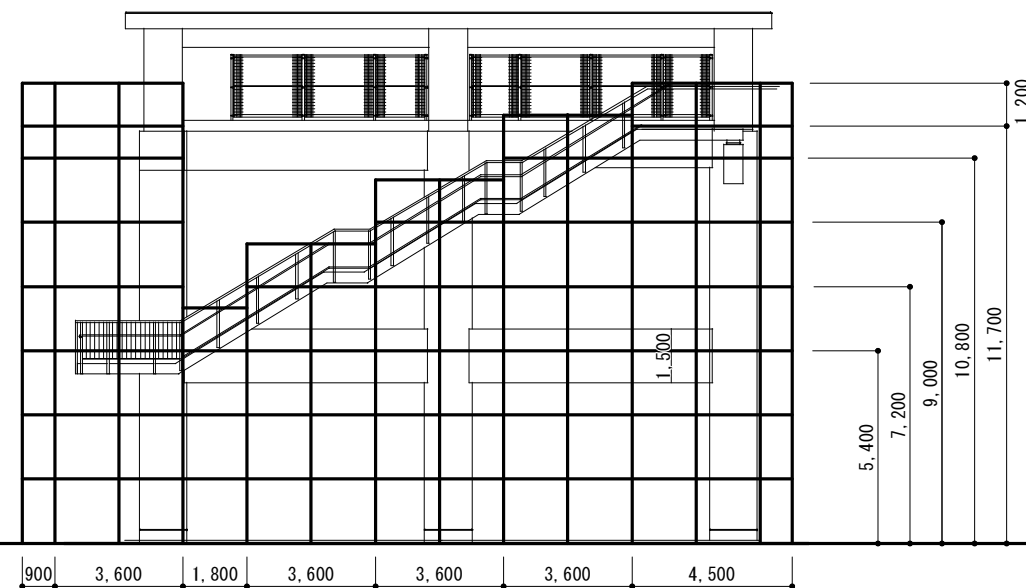
外部足場平面計画-2



東側立面図 1/100



北側立面図 1/100



西側立面図 1/100

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山

建築設計

マシニヨン

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片山正司

図面名

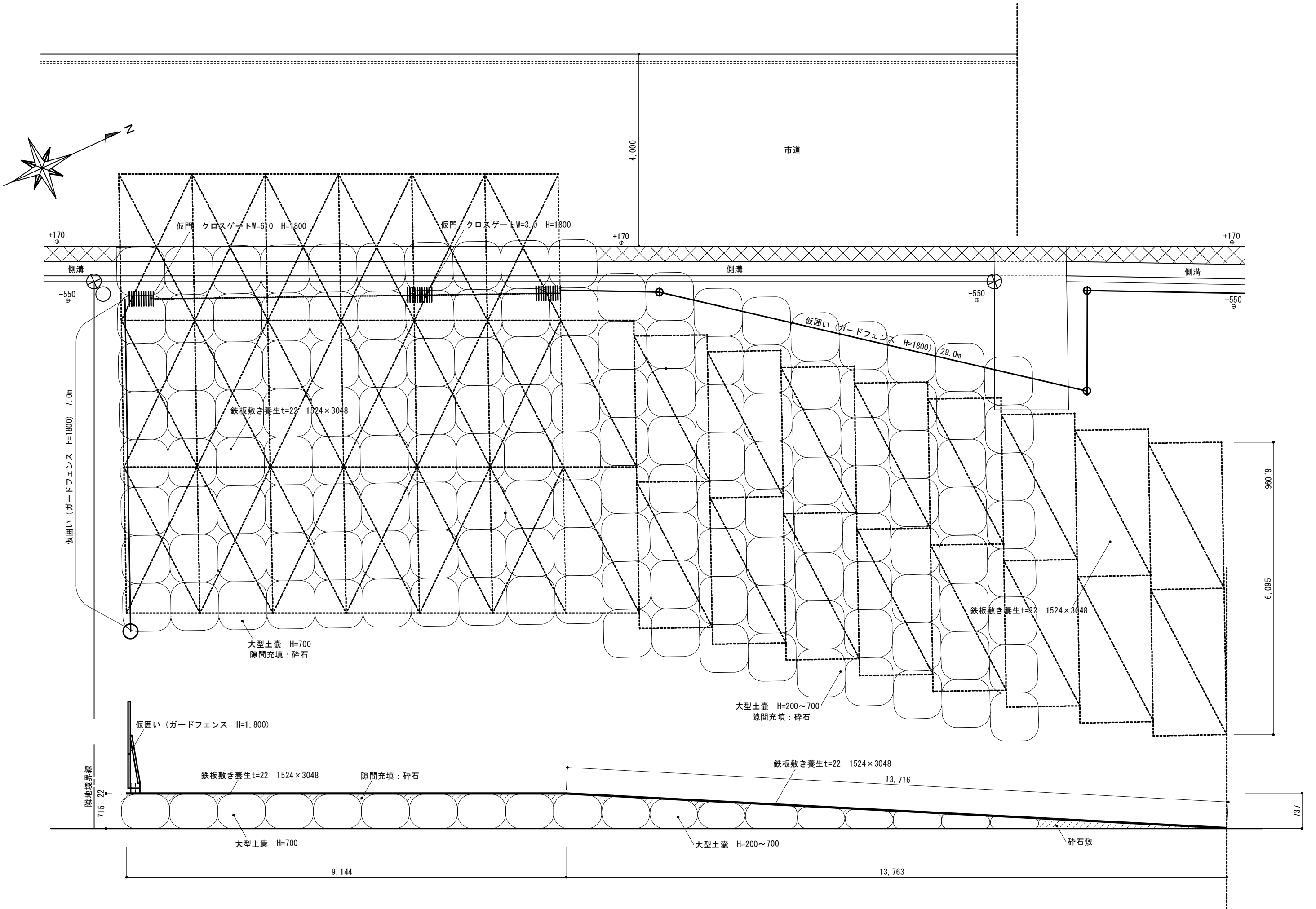
仮設計画図2
(参考図書)

縮尺 A3 : A2×71%

S=1/100

図面番号

K-02



訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計
片山

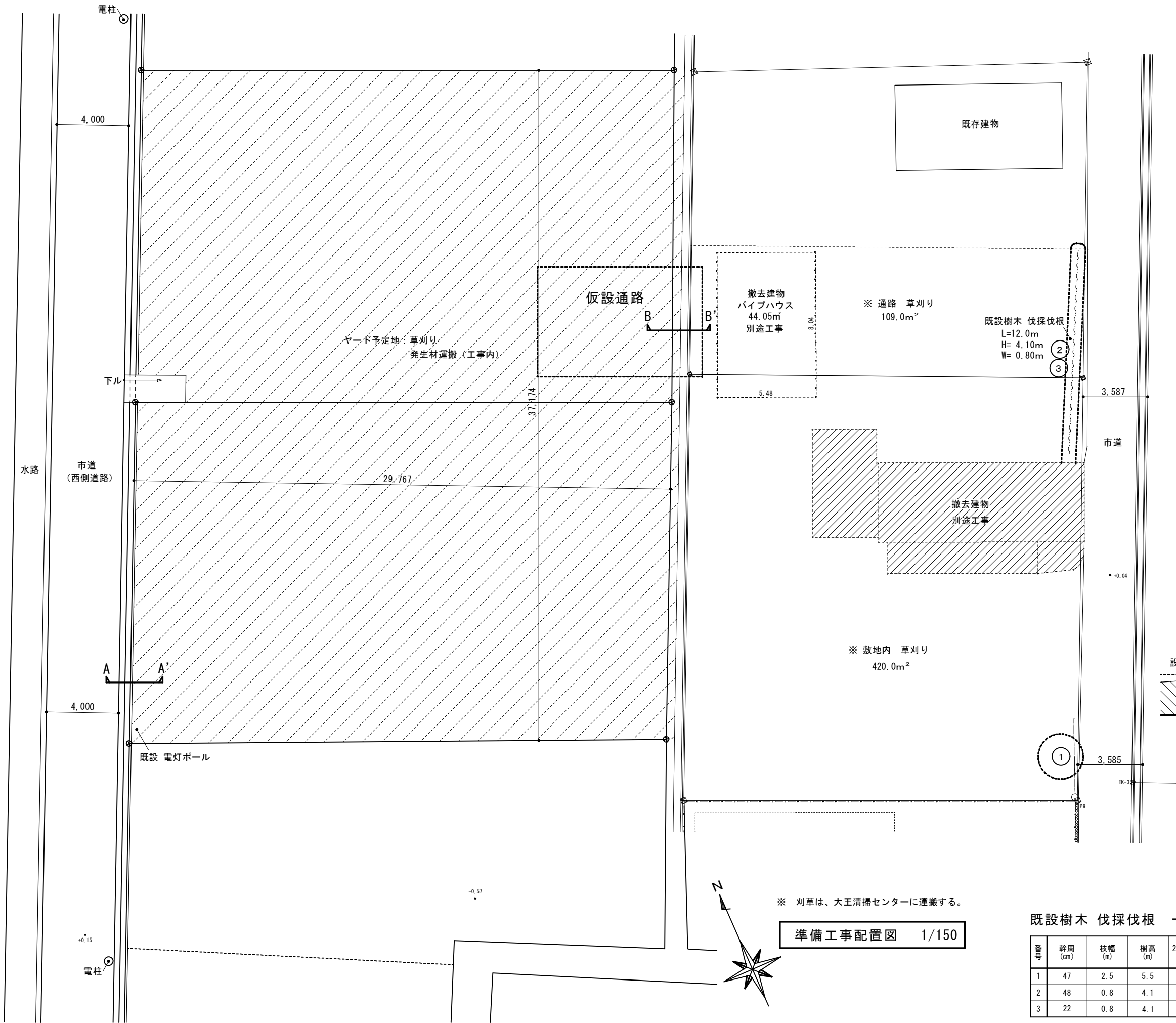
建築設計 間34
マサニヨシ
三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山正司

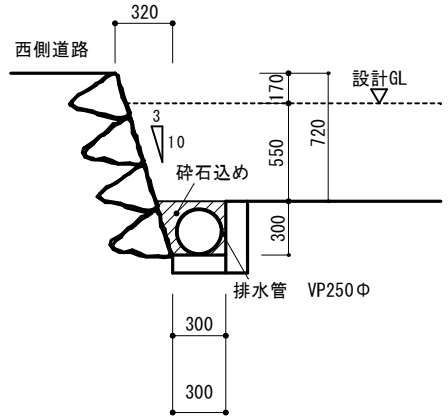
図面名
仮設計画図3
(参考図書)

縮尺 A3 : A2×71%
1/50

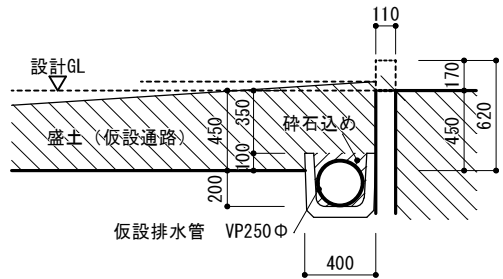
図面番号
K-03



側溝横断部分 A～A' 1/30



側溝横断部分 B～B' 1/30



準備工事配置図 1/150

既設樹木 伐採伐根 一覧

番号	幹周 (cm)	枝幅 (m)	樹高 (m)	20cm未満 (本)	20cm以上 30cm未満 (本)	30cm以上 60cm未満 (本)	60cm以上 90cm未満 (本)	90cm以上 120cm未満 (本)	120cm以上 (本)	伐根 (有・無)
1	47	2.5	5.5			1				有
2	48	0.8	4.1			2				有
3	22	0.8	4.1			30				有

構造特記仕様書																																																																																	
§ 1	一般事項 選択項目は ○ 印を適用し、 ⊙ 印が無い場合は * 印を適用する。 ○ 印が複数有る場合は、共に適用する。																																																																																
1-1	使用材料は原則としてJIS規格品、又は大臣認定品とする。																																																																																
1-2	設計図書の優先順位は下記による。 1) 本特記仕様書 2) 設計図 3) 標準図 4) 仕様書 (⊙ 公共建築協会 *日本建築協会) 5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6																																																																																
1-3	各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承認を得る。																																																																																
1-4	構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。 第三者機関による検査・試験費用は工事費に (⊙ 含む ・ 含まない)																																																																																
1-5	設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承認を得る。																																																																																
1-6	乗員適位置、径、及び箇所数は (・ 窓底図 ⊙構造図 *設備図) による。																																																																																
1-7	その他																																																																																
§ 2	構造計算ルート																																																																																
2-1	<table><tr><th>方 向</th><th colspan="4">構造計算ルート</th></tr><tr><td>X</td><td>・ ルート1</td><td>・ ルート2</td><td>⊙ ルート3</td><td>・</td></tr><tr><td>Y</td><td>・ ルート1</td><td>・ ルート2</td><td>⊙ ルート3</td><td>・</td></tr></table>	方 向	構造計算ルート				X	・ ルート1	・ ルート2	⊙ ルート3	・	Y	・ ルート1	・ ルート2	⊙ ルート3	・																																																																	
方 向	構造計算ルート																																																																																
X	・ ルート1	・ ルート2	⊙ ルート3	・																																																																													
Y	・ ルート1	・ ルート2	⊙ ルート3	・																																																																													
2-2	鉄筋の継手 構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ ⊙建築基準法施行令第73条（政令第73条第2項）による仕様規定 ・ 日本建築学会 JASS5 (2009)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 ・ 日本建築学会 RC標準2010 XY両方向共ルート3及び境界耐力計算の場合は、政令第73条の仕様規定によらずJASS5（2009）、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC標準2010とすることができる。																																																																																
§ 3	仮設工事、土工事																																																																																
3-1	山留め、根切り																																																																																
3-2	埋戻し土、盛土、残土処分 埋戻し土 ⊙根切り土の中の良土 ・ 搬入良土 盛土 ・ 根切り土の中の良土 ・ 搬入良土 残土処分 ・ 場内地均し ⊙場外搬出処分 (* 自由 ⊙指定場所)																																																																																
§ 4	地盤工事																																																																																
4-1	基礎及びスラブ下地業 (単位mm) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2">場 所</th><th colspan="4">※ (1)</th><th colspan="2">A : 砕 石</th><th colspan="4" rowspan="2">厚 さ</th></tr><tr><th colspan="2">捨てコンクリート厚さ</th><th colspan="2">B : 割栗石</th></tr><tr><td rowspan="2">基 礎</td><td>独立、布</td><td>⊙50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>⊙A</td><td>・ B</td><td>⊙C60</td><td>・ 100</td><td>・ 150</td><td>・ 無</td></tr><tr><td>ベ タ</td><td>*50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>*A</td><td>・ B</td><td>*60</td><td>・ 100</td><td>・ 150</td><td>・</td></tr><tr><td colspan="2">地 中 梁</td><td>⊙50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>⊙A</td><td>・ B</td><td>⊙C60</td><td>・ 100</td><td>・ 150</td><td>・</td></tr><tr><td colspan="2">構造スラブ</td><td>*50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>*A</td><td>・ B</td><td>*60</td><td>・ 100</td><td>・ 150</td><td>・</td></tr><tr><td rowspan="2">土間スラブ</td><td>屋内</td><td>*50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>*A</td><td>・ B</td><td>*60</td><td>・ 100</td><td>・ 150</td><td>・ 無</td></tr><tr><td>屋外</td><td>・ 50</td><td>・ 60</td><td>・ 100</td><td>⊙A</td><td>・ B</td><td>・ 60</td><td>⊙100</td><td>・ 150</td><td>・ 無</td></tr></table> 注 (1) アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。 (2) 埋部aは100以上とする。 	場 所		※ (1)				A : 砕 石		厚 さ				捨てコンクリート厚さ		B : 割栗石		基 礎	独立、布	⊙50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	⊙C60	・ 100	・ 150	・ 無	ベ タ	*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・	地 中 梁		⊙50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	⊙C60	・ 100	・ 150	・	構造スラブ		*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・	土間スラブ	屋内	*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・ 無	屋外	・ 50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	・ 60	⊙100	・ 150	・ 無
場 所				※ (1)				A : 砕 石						厚 さ																																																																			
		捨てコンクリート厚さ		B : 割栗石																																																																													
基 礎	独立、布	⊙50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	⊙C60	・ 100	・ 150	・ 無																																																																							
	ベ タ	*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・																																																																							
地 中 梁		⊙50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	⊙C60	・ 100	・ 150	・																																																																							
構造スラブ		*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・																																																																							
土間スラブ	屋内	*50	・ 60	・ 100	*A	・ B	*60	・ 100	・ 150	・ 無																																																																							
	屋外	・ 50	・ 60	・ 100	⊙A	・ B	・ 60	⊙100	・ 150	・ 無																																																																							
4-2	設計地耐力 長期 $k\text{ N}/\text{m}^2$ 短期 $k\text{ N}/\text{m}^2$ 終局 $k\text{ N}/\text{m}^2$ 地耐力載荷試験 ・ 行う * 行わない																																																																																
4-3	地盤改良 ※ 施工時に支持層を確認しながら改良体長を決定すること。 ・ 無筋コンクリート地業 ・ 締固め工法 ・ ソイルセメント杭 ・ セメント系固化材攪拌 ・ 圧密排水工法 [・ 載荷試験 ・ 一軸圧縮試験] ・ 行う (※ 箇所) * 行わない [・ 六価クロム溶出試験] ・ 行う * 行わない																																																																																
4-4	既設コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭 1) 杭種 ・ PHC 杭 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ ・ ST 杭 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ ⊙ SC 杭 t 12 mm ⊙ SKK490 ・ ・ ・ ⊙ OPRC 杭 ⊙ I 種 ・ 種 ・ 種 ・ 種 ・ 節杭 ・ A 種 ・ B 種 ・ C 種 ・ 2) 工法 ・ 打撃工法 ・ 油圧ハンマー ・ ディーゼルハンマー ⊙ 埋込み工法 ・ プレボーリングセメントミルク注入工法 ⊙ プレボーリング拡大根固め工法 (認定工法) 杭周固定液 ⊙あり ・ なし ・ 中継拡大根固め工法 (認定工法) ・ 回転埋設根固め工法 (認定工法)																																																																																

3)

杭径、設計耐力、本数表

杭 径 (拡底部) mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
500 ()	1000	2000	3000	37	
()					
()					
()					

4)

杭の構成は設計図による。

5)

杭頭補強

- かご筋
- スタッド溶接
- 杭外周溶接

4-5

場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

1)

工法

- アースドリル工法
- 拡底アースドリル工法
- リバース工法
- オールケーシング工法 (ペント工法)
- BH工法

2)

杭径、設計耐力、本数表 (拡底部は施工径を示す)

杭 径 (拡底部) mm	管厚 mm	長期 kN	短期 kN	終局 kN	本数	備 考
()						
()						
()						
()						
()						

3)

杭先端深さ GL- m

4)

孔壁測定 (2 方向)

* 行う (全数 %) 行わない

5)

使用材料コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合 JAS55 水中コンクリートによる。

コンクリート F c (普通ポルトランドセメント 高炉セメント B 種)
鉄筋 D 以下 SD295A D 以上 SD345
D 以上 SD390
鋼管 (リブ付) SKK400 SKK490

4-6

杭打地業共通事項

1)

[杭先決定用先行杭 試験杭] 行う (1 本) 行わない

2)

載荷試験 行う (箇所、長期設計耐力の3倍を確認する) * 行わない

3)

SL塗布 行う * 行わない

§ 5

鉄筋工事

5-1

材種

種 類	径	継 手
SD295A	D 16 以下	重ね継手 スパイラル 工場溶接
SD345	D 19 以上 D 29 以下	重ね継手 溶接継手 機械継手 (級)
SD390	D 29 以上	* 溶接継手 機械継手 (級)
SD490	D 以上	* 溶接継手 機械継手 (級)
溶接金剛		重ね継手
高強度せん断補強筋	1275級	P
	785級	KSS785
	6 8 5 級	U D U R

溶接継手 ガス圧接 突き合せ溶接 (D16以下は重ねアーク溶接でも可)

溶接部の検査 (第三者機関による) 外観検査全数

- 抜き取り検査 (いずれかの試験を実施すれば良い)
 - 引張り試験 (JISZ3120)

1 検査ロットにつき * 3 本 原則 柱・梁の径毎に3本
 - 超音波探傷試験 (JISZ3062)
 - 熱間押抜き試験
 - 1 検査ロットにつき 30 箇所

不合格となった溶接部は切り取って再溶接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。

1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した溶接箇所の数値で200箇所以内

5-3

乗員通補強

補強筋は原則として工場製品 (野定品) を使用する。

5-4

その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として 1 一般 2 地反力を受ける 3 上載荷重が大きい場合 とする。

鉄筋の組立は適切な位置にスベークサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6

コンクリート工事

6-1

設計基準強度 (N/mm²)

1)

セメント 普通ポルトランドセメントJISR5210 高炉セメントB種

- 低熱ポルトランドセメントJISR5210

2)

粗骨材 砂利 砕石 高炉スラグ骨材 人工軽量骨材 再生骨材
最大径 (mm) * 2 0 2 5 4 0

3)

躯体 (使用区分は設計図に示す)

普通コンクリート

- Fe18 Fe21 Fe24 Fe27 Fe30 Fe33 Fe36
- 軽量コンクリート (*1 種 2 種 気乾単位容積質量 *18.5)
 - LFe18 LFe21 LFe24 LFe27 LFe30 LFc

4)

土間コンクリート

● Fe 21

(ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5)

捨てコンクリート

● Fe 18

6)

防水押さえコンクリート

● Fc ● LFc

(気乾単位容積質量 *18.5 ●)

7)

かさ上げコンクリート

● Fc ● LFc

(気乾単位容積質量 *18.5 ●)

6-2

混和材

● AE 減水剤 (Fc21~27) ● 高性能 AE 減水剤 (Fc36) ● 躯体防水材料 ● 膨張材

注1. 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇所	土間	一般			備考
スランプ c m	15	18			
水セメント比 %	60	60			60 以下
単位水量 k g / m ³	185	185			185 以下
単位セメント量 k g / m ³	270	270			270 以上

6-4

試験 (躯体コンクリートの28日圧縮試験は公約機関において行う)

1)

骨材

[● 塩分含有量 ● アルカリシリカ反応性] ● 行う ● 行わない

2)

フレッシュコンクリート

[● スランプ ● 空気量] ● 行う ● 行わない

3)

躯体のせき板取り外し時凍決定圧縮試験

● 行う ● 行わない

4)

コンクリートコア抜き取り圧縮試験

● 行う * 行わない

5)

マスコンクリートのひび割れ照査 (温度応力解析)

● 行う * 行わない

6)

単位水量測定

● 行う * 行わない

6-5

割合 (補正値は工事費に含む)

計画供用期間の級 () は耐久設計基準強度F_d

標準- (18)

標準- (24)

長期- (30)

超長期- (36)

F_m=Max (F_c, F_d) + S

S=3~6

材前28日の割合強度Fは下記の両式を満足するものとする。

F≥F_m=1.73σ F≥0.85F_m+3σ

6-6

せき板及び支柱の在置期間 (普通ポルトランドセメントの場合)

※1 片持ち部材 (符号CG、CB、CS) は温度に依らず28日とする。

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下 (※1)	梁 下
コンクリート	15 ℃以上 3 日	17 日	28 日
の材種による	5 ℃以上 5 日	25 日	
場合	0 ℃以上 8 日	28 日	
圧縮試験による場合	5N/mm ²	0.85F _c または2N/mm ²	設計強度

6-7

住宅性能表示

劣化等級 ● 等級2 ● 等級3

劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造取捨標準図 (1) 2-7かぶり厚さが変わる場合があるのに注意すること。

6-8

Fe30を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書 (JASS5等) による。

§ 7

鉄骨工事

7-1

材質及び使用箇所

規格名称	鋼材名	柱	通しダイア	内ダイア	大梁	ブレース	小梁、出
一般構造用圧延鋼材	● SS400 ●						●
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A						
	● SM400A ●						
建築構造用圧延鋼材	● SM400B ● SM490B						
	● SM400C ● SM490C						
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490						●
	● BCR295 ●						
冷間成形角形鋼管	● BCP235 ● BCP325						
	● SHC400B ● SHC400C						
熱間成形角形鋼管	● SHC490B ● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	● STK400 ● STKN490						
一般構造用軽量角鋼	● SSC400 ●						
建築構造用圧延棒鋼	● SNR400 ●						

7-2

高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類		使 用 箇 所
トルシア形高力ボルト	* S10T	全般
JIS形高力ボルト	● F10T	トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T	母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T	屋内環境

7-3

普通ボルト、アンカーボルト

1)

材質 ● SS400 ● SS490 (M 以上) ● SNR400 B

● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490 (ABMはM24 以上)

2)

大臣認定柱脚 (メーカー仕様による)

● 使用する ● 使用しない

7-4

頭付きスタッド

径	長さ (mm)	使用箇所
16 φ	● 80 ● 100 ● 130 ● 150 ●	
19 φ	● 80 ● 100 ● 130 ● 150 ●	
22 φ	● 100 ● 120 ● 150 ● ●	

7-5

溶接材料

1)

アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。

2)

ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6

スカラップ形状 ●スカラップ工法 ●ノンスカラップ工法

7-7

継手

	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ●高力ボルト ● 現場溶接	
ウェブ	● 高力ボルト ● 現場溶接 ●高力ボルト ● 現場溶接	

7-8

溶接手法及び管理

1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバス間温度等の仕様については鉄建協又は全精協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。

2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ☒ 行う ☐ 行わない

3) AⅢ検定 (工場・現場・代替タブ)の有資格者で、係員の承認を受けた者は技量検定付加試験を免除する。

7-9

デッキプレート (単位 mm)

1) 床用 高さ ☐ 板厚 ☐

2) 合成スラブ用 高さ ☐ 板厚 ☐

3) 型枠用 高さ ☐ 板厚 ☐ 形板 タイプ

4) 防錆処理 ☐ ブライマー ☐ 亜鉛メッキ ☐ Z12 ☐ Z27

7-10

錆止め塗装 (工場塗 * 2回 ☐1回、現場タッチアップ程度とする)

1) 素地こしらえ ☐ ケレン ☐ プラスト

2) 錆止め塗料

適用		塗 料	種 別		標準膜厚
屋外	室内				
*	*	鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674		30 μm
	<input type="radio"/>	一般用錆止めペイント	JISK5621		<input type="radio"/> 1種 <input type="radio"/> 2種 35 μm
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	ジンクリッチクワイマー	JISK5552		<input type="radio"/> 1種 <input type="radio"/> 2種 15 μm
<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	シアナミッド鉛錆止めペイント	JISK5625		<input type="radio"/> 1種 <input type="radio"/> 2種 35 μm

3) 溶融亜鉛メッキ ☒ 行う ☐ 行わない

4) 常温亜鉛メッキ ☐ 行う ☐ 行わない

7-11

溶接部の検査 (受入検査) ☒ 行う ☐ 行わない

1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築士、設計者、工事監理者又は工事施工者 (元請) との直接契約による。

2) 第三者検査機関は (社) 日本溶接協会による C I W検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。

3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。

4) 外観検査の合格判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2007 付則6 鉄骨精度検査基準」の限界許容差による。

5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査標準・同解説」2008により、合格判定は7.2.1条を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。

6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2007」表5.1溶接箇所数の数え方による。

7) 受入検査の抜き取り方法及び抜き取り率は以下による。

a) 工場溶接の場合

i. 検査ロットは各部、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。

ii. 抜き取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。

iii. サンプリングの結果、不合格率が5%以内の場合はロットを合格とし、不合格率が5%を超えた場合は更に同一ロットの中から30箇所をサンプリングし、合計60箇所の不合格率が5%以内の場合を合格とする。不合格率が5%を超えた場合は残り全数の検査を行う。

b) 現場溶接の場合

i. 全数検査とする。

8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。

9) ずれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補造マニュアル」等を参考にする。

7-12

鉄骨製作工場

国土交通省大臣認定 (グレード)				
S	H	M	<input checked="" type="radio"/>	J

§ 8

コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板・PCa板工事

8-1

コンクリートブロック

1) 種類 ☐ A 種 ☐ B 種 ☐ C 種

2) 厚さ mm ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190

8-2

ALC パネル

1) 使用箇所 ☐ 床 ☐ 屋根 ☐ 外壁 ☐ 内壁

2) 厚さ mm ☐ 75 (80) ☐ 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 175

3) 外壁取り付け精法

方 向	精 法	使 用 箇 所	備 考
縦	<input type="radio"/> スライド精法		
	<input type="radio"/> ロッキング精法		
横	<input type="radio"/> 横壁アンカー精法		
	<input type="radio"/> ボルト止め精法		

8-3

押出成形セメント板

外壁取付精法及び厚さ mm ☒ 60 ☐

方 向	精 法	使 用 箇 所	備 考
縦	<input checked="" type="radio"/> ロッキング精法		
	<input type="radio"/> スライド精法		
横	<input type="radio"/> スライド精法		

8-4

PCa板

1) 床及び屋根 ☐ 床 ☐ 屋根

☐ PCa板単独 厚さ mm ☐

☐ 合成板

PCa板厚さ mm	現場打厚さ mm	合計厚さ mm	備 考

2) 外壁 厚さ mm ☐ ☐

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和 5 ・ 6 年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

マ シ ン ョ ン
建築設計 間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片 山 正 司

図面名

構造特記仕様書

縮 尺 A3 : A2 × 71%

図面番号

S-01

構造関係共通事項

1
総
則

1. 1 適用範囲等
- (a) 構造関係共通事項は、構造関係の共通の事項と、構造関係共通図（配筋標準図）、構造関係共通図（鉄骨標準図）から構成される。
- (b) 構造関係共通図（配筋標準図）は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
- (c) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
- (d) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、設計図及び監督員の指示による。

1. 2 優先順位
- 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
- 特記仕様書（構造関係）
 - 図面
 - 2-1 下記2-2以外の図面
 - 2-2 構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」または「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」

1. 3 用語の定義
- (a) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
- (b) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。

1. 4 記号
- 設計図中で使用する記号は、表1. 1、表1. 2を標準とする。

表1. 1 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
		●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙
建 築		●	×	∅	●	○	⊙	⊗	⊙

表1. 2 各階伏図における記号

記 号	説 明	記 号	説 明
	スラブの配筋種別		机の位置
	スラブ厚さ		試験柱の位置
	階段の配筋種別		打増しの範囲
	土間コンクリート		スラブ開口
	コンクリートブロック壁（CB壁）		ボアリング位置
	梁・スラブの上がり下がりの範囲	(±)	F Lからの上がり下がり
EWOO EKWOO	耐力壁の種別		

表1. 3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建 築																

表1. 4 スリーブ材質の凡例

管名	鋼	管	管	管	管
記号（建築用）	SP（白管）	GA	GA	VU	RS

建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1. 1を標準とする。

表1. 1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

折曲げ 角 度	折 曲 げ 図	折曲げ内法直径（D）		
		SD295A SD295B, SD345		SD390
		D16以下	D19～D38	D19～D38
180°				
135°				
90°				
135° 及び 90° (幅止め筋)				

- (注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4 d以上とする。
2. 90° 未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱の四隅にある主筋（図2. 1の○）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
- (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2. 1の●）にある場合（基礎梁を除く）

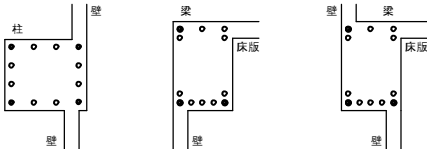


図2. 1

- (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (4) 杭基礎のベース筋
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 鉄筋の継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3. 1による。
- (2) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (3) 主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、40 dと表3. 1の重ね継手長さのうち大きい値とする。

表3. 1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準 強度 F c (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1s} (フックあり)
		L ₁	L _{1s}
SD295A SD295B	18	45 d	35 d
	21	40 d	30 d
	24, 27	35 d	25 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
SD345	18	50 d	35 d
	21	45 d	30 d
	24, 27	40 d	30 d
	30, 33, 36	35 d	25 d
SD390	21	50 d	35 d
	24, 27	45 d	35 d
	30, 33, 36	40 d	30 d

- (注) 1. L₁、L_{1s}：フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1s}は、図3. 1に示すようにフック部分を含む。

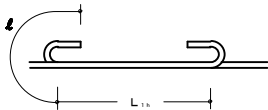


図3. 1

- (4) 隣り合う継手の位置は、表3. 2による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所に出せる場合は、構造図による。

表3. 2 隣り合う継手の位置

重ね 継手	フックありの場合	L _{1s}	
		L _{1s}	L _{1s}
フックなしの場合		a = 0.5 L _{1s}	a ≥ 0.5 L _{1s}
		a = 0.5 L ₁	a ≥ 0.5 L ₁
圧接 継手	—	圧接継手 a ≥ 400mm	
機械式 継手	—	カプラー a ≥ 400mm以上、かつ、a ≥ (b + 40) mm以上	

(b) 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、表3. 3による。柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、40 dと表3. 3の定着長さのうち大きい値とする。

表3. 3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	フックなし				フックあり			
		L ₁	L ₂	L _{1s}		L _{1s}	L _{2s}	L _{1s}	
		小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ	小梁	スラブ
SD295A SD295B	18	45 d	40 d	20 d	10 d かつ 150mm以上	35 d	30 d	10 d	—
	21	40 d	35 d			30 d	25 d		
	24, 27	35 d	30 d			25 d	20 d		
	30, 33, 36	35 d	30 d			25 d	20 d		
SD345	18	50 d	40 d	20 d	10 d かつ 150mm以上	35 d	30 d	10 d	—
	21	45 d	35 d			30 d	25 d		
	24, 27	40 d	35 d			30 d	25 d		
	30, 33, 36	35 d	30 d			25 d	20 d		
SD390	21	50 d	40 d	20 d	10 d かつ 150mm以上	35 d	30 d	10 d	—
	24, 27	45 d	40 d			35 d	30 d		
	30, 33, 36	40 d	35 d			30 d	25 d		

- (注) 1. L₁、L_{1s}：2. 以外のフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
2. L₁、L_{1s}：割製破壊のおそれのない箇所へのフックなし直線定着の長さ及びフックあり直線定着の長さ
3. L₂：小梁及びスラブの下端筋のフックなし直線定着長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く。
4. L_{1s}：小梁の下端筋のフックあり直線定着長さ
5. フックあり定着の場合は、図3. 2（イ）に示すようにフック部分を含む。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートを使用する場合は、表3. 3の値に5 dを加えたものとする。

- (2) 梁主筋の柱内定着の方法は図3. 2による。なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さしが、表3. 3のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表3. 3に示すフックなし定着長さとし、かつ、余長を8 d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表3. 4に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3／4倍以上、小梁の場合は1／2以上）をのみ込ませる。

- (注) 1. L₁、L₂は、表3. 4の鉄筋の投影定着長さを示す。

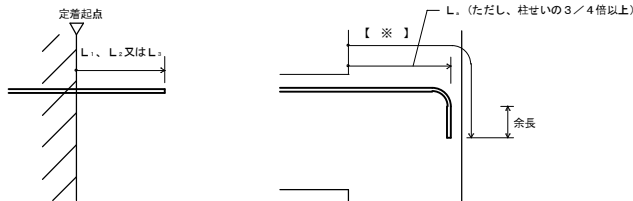


図3. 2

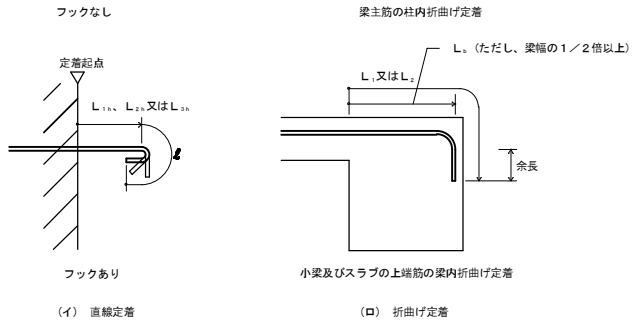


図3. 2 定着の方法

表3. 4 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの 設計基準強度 F c (N/mm ²)	L _{1s}	L _{2s}
SD295A SD295B	18	20 d	15 d
	21	15 d	15 d
	24, 27	15 d	15 d
	30, 33, 36	15 d	15 d
SD345	18	20 d	20 d
	21	20 d	20 d
	24, 27	20 d	15 d
	30, 33, 36	15 d	15 d
SD390	21	20 d	20 d
	24, 27	20 d	20 d
	30, 33, 36	20 d	15 d

- (注) 1. L_{1s}：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. L_{2s}：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）

(c) その他の鉄筋の継手及び定着

- (1) 溶接金網の継手及び定着は、図3. 3による。なお、L₂及びL_{2s}は表3. 3の（注）による。

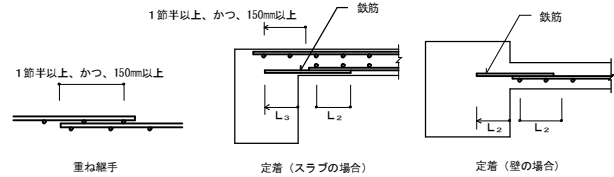


図3. 3 溶接金網の継手及び定着

- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図3. 4による

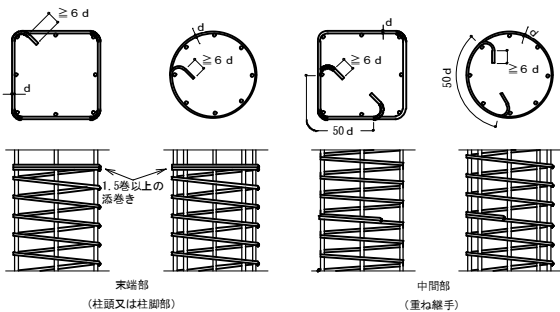


図3. 4 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり及び間隔

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4. 1による。ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4. 1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ	
土に接しない部分	スラブ、 耐力壁以外の壁		仕上げあり	20	
			仕上げなし	30	
		柱、梁、耐力壁	屋内	仕上げあり	30
				仕上げなし	30
			屋外	仕上げあり	30
				仕上げなし	40
		擁壁、耐圧スラブ		40	
土に接する部分	柱、梁、スラブ、壁		*40		
	基礎、擁壁、耐圧スラブ		*60		
煙突等高熱を受ける部分				60	

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。

- (b) 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- (c) 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

- (d) 鉄筋相互のあきは図4. 1により、次の値のうち最大のもの以上とする。ただし、特殊な鉄筋継手の場合はあきは、構造図による。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

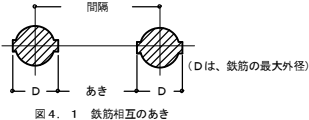


図4. 1 鉄筋相互のあき

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり、厚さは(c)による。

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 （構造関係規定に適合することを確認）

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計 間34

マサンヨン

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片 山 正 司

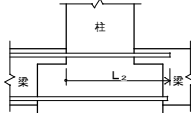
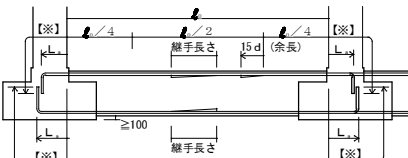
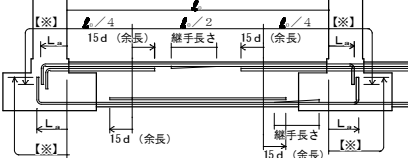
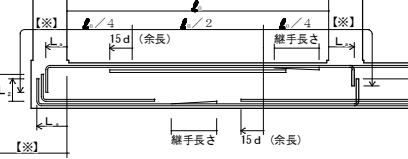
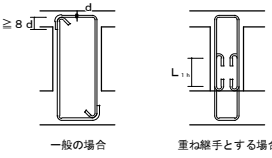
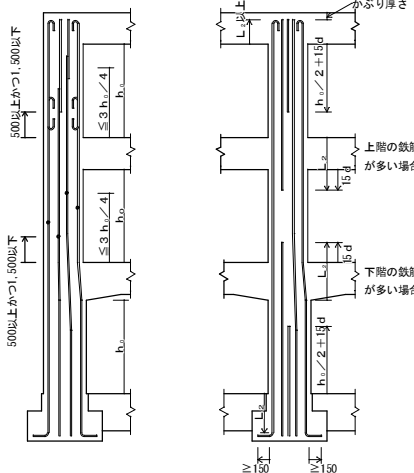
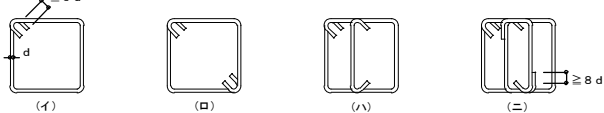
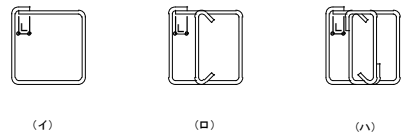
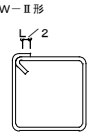
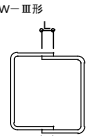
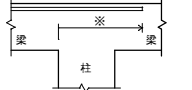
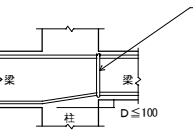
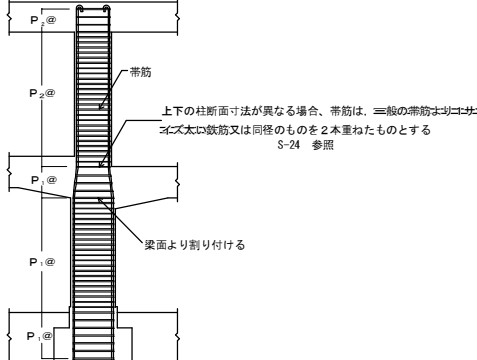
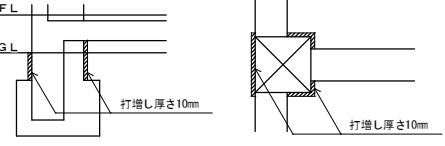
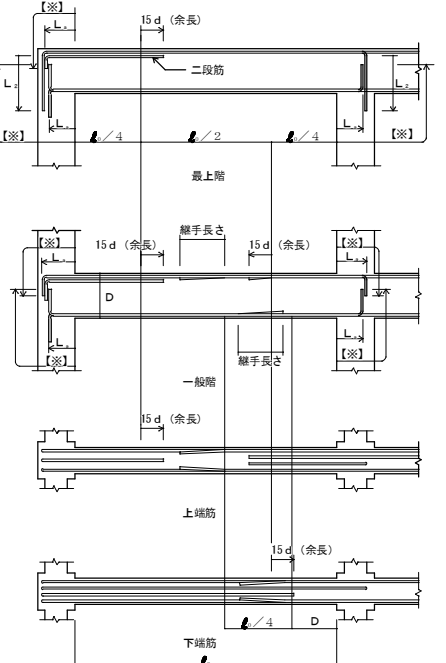
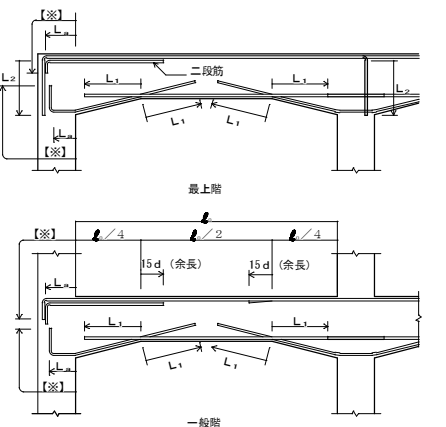
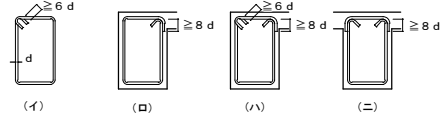
図面名

配筋標準図1

縮 尺 A3 : A2×71%

図面番号

S-02

<div>5 基礎及び基礎梁の配筋</div> <div>5. 1 基礎梁主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(a) 一般事項</div> <div>(1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数異なる場合は図5. 1 のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。</div> <div>(2) 梁筋を柱内に定着する場合は、7. 1 (a) (2) による。</div> <div></div> <div>図5. 1 梁筋の基礎梁内への定着</div> <div>(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>図5. 2 主筋の継手、定着及び余長 (その1)</div> <div>(c) 独立基礎で基礎梁にスラブが付く場合の主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(耐圧スラブが付く場合は、(d) による。)</div> <div></div> <div>図5. 3 主筋の継手、定着及び余長 (その2)</div> <div>(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>図5. 4 主筋の継手、定着及び余長 (その3)</div> <div>5. 2 基礎梁のあばら筋</div> <div>あばら筋組立の形及びフックの位置は、7. 2 (a) による。ただし、梁の上下にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合は、図5. 5 によることができる。</div> <div></div> <div>図5. 5 あばら筋組立の形及びフックの位置</div> <div>6 柱の配筋</div> <div>6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(a) 柱主筋の継手、定着及び余長の一般事項</div> <div>(1) 継手の中心位置は、梁上端から500mm以上、1,500mm以下、かつ、$3h_c/4$ (h_cは柱の内法高さ) 以下とする。</div> <div>(2) 継手、定着及び余長は図6. 1 による。ただし、柱頭定着長さL_1を確保できない場合は構造図による。</div> <div></div> <div>図6. 1 柱主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(注) 1. 柱の隅隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合には、フックを付ける。</div> <div>2. 隣り合う継手の位置は、表3. 2による。</div> <div>6. 2 帯筋組立の形及び割付け</div> <div>(a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による</div> <div>① H形</div> <div></div> <div>② W-I形 (溶接を行う)</div> <div></div> <div>③ W-II形</div> <div></div> <div>④ W-III形</div> <div></div> <div>図7. 1 梁主筋の梁内定着</div> <div>7 梁の配筋</div> <div>7. 1 大梁 (5. 1基礎梁以外の大梁に限る) 主筋の継手、定着及び余長</div> <div>(a) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項</div> <div>(1) 梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数異なる場合には図7. 1 のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。</div> <div></div> <div>図7. 1 梁主筋の梁内定着</div> <div>(2) 梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。なお、定着の方法は、3. 1 (b) (2) による。</div> <div>上端筋：曲げ降ろす。</div> <div>下端筋：原則として曲げ上げる。</div> <div>(3) 段違い梁は、図7. 2 による。</div> <div></div> <div>図7. 2 段違い梁</div> <div>(b) 帯筋の割付けは、図6. 3による。</div> <div></div> <div>図6. 3 帯筋の割付け</div> <div>6. 3 柱の打増し部</div> <div>土に接する柱周囲の打増しは図6. 4による。</div> <div></div> <div>図6. 4 柱打増し部</div> <div>(b) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>図7. 3 大梁の重ね継手、定着及び余長</div> <div>(c) ハンチのある場合の重ね継手、定着及び余長</div> <div></div> <div>図7. 4 ハンチのある大梁の定着及び余長</div> <div>7. 2 あばら筋 (5. 2基礎梁のあばら筋以外に限る) の組立の形及び割付け等</div> <div>(a) あばら筋組立の形及びフックの位置</div> <div></div> <div>図7. 5 あばら筋組立の形</div> <div>構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)</div>	<div>訂正</div> <div>工事名称</div> <div>令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図</div> <div>設計</div> <div>片山</div> <div>建築設計</div> <div>間34</div> <div>三重県知事登録 第1-2154号</div> <div>一級建築士 大臣登録 第195765号</div> <div>片山 正 司</div> <div>図面名</div> <div>配筋標準図2</div> <div>縮尺</div> <div>A3: A2×71%</div> <div>図面番号</div> <div>S-03</div>
---	---

(b) あばら筋の割付け

(1) 間隔が一律で、ハンチのない場合

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 6 あばら筋の割付け (その1)

(2) 間隔が一律で、ハンチがある場合

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 7 あばら筋の割付け (その2)

(3) 梁の端部で間隔の異なる場合

(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@及びP'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7. 8 あばら筋の割付け (その3)

(c) 腹筋及び幅止め筋

(注) 1. 腹筋に継手をつける場合の継手長さは150mm程度とし、柱等へののみみ長さは図7. 6による。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7. 9 腹筋及び幅止め筋

7. 3 小梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 連続小梁の場合

(注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、5. 1及び7. 1に準ずる。

図7. 10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(b) 単独小梁の場合

(注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、5. 1及び7. 1に準ずる。

図7. 11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

7. 4 片持梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 先端に小梁のない場合

(注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さL₂は、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図示のない事項は、. 7. 1による。

図7. 12 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合

(注) 1. 図示のない事項は、(a)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7. 13 片持梁主筋の定着

8 壁及びその他の配筋

8. 1 壁の基準配筋

(a) 壁の基準配筋は表8. 1により、種類の適用は構造図による。

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(b) 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表8. 2により、種類の適用は構造図による。

表8. 2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種類 (表10. 1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA 1 KA 3
	横筋	D10-200@ダブル	
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA 2 KA 4
	横筋	D10-200@ダブル	

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

8. 2 壁の継手及び定着

壁の継手及び定着の一般事項

(注) 1. 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
2. 壁配筋の重ね継手はL₂とする。ただし耐力壁の重ね継手長さは、40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表3. 1のフックなし重ね継手長さのうち大きい値とする。
3. 壁配筋の定着長さはL₂とする。
4. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。

図8. 1 壁の配筋

8. 3 壁の交差部及び端部の配筋

壁の交差部及び端部の配筋は図8. 2による。

(注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さは40d (軽量コンクリートの場合は50d) と表3. 1の重ね継手の長さのうち、大きい値とする。

図8. 1 スラブの配筋

8. 4 壁の開口部補強

(a) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8. 3、B形は表8. 4とし、適用は構造図による。

表8. 3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8. 4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図8. 3による。

図8. 3 壁開口部補強筋の定着長さ

8. 5 バラベット

(a) バラベットの配筋は図8. 4による。

(b) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

図8. 4 バラベットの配筋

9 スラブの配筋

9. 1 スラブの基準配筋

スラブの基準配筋は表9. 1により、種類の適用及びスラブ厚さは意匠図による。

表9. 1 スラブの基準配筋 (S形)

配筋種類	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	配筋種類	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	S 8	D10、D13-150@	D10-150@
S 2	同上	D13-150@	S 9	同上	D10-200@
S 3	同上	D10、D13-150@	S 10	D10、D13-200@	D10、D13-200@
S 4	D13-150@	D13-150@	S 11	同上	D10-200@
S 5	同上	D10、D13-150@	S 12	同上	D10-250@
S 6	同上	D10-150@	S 13	D10-200@	D10-200@
S 7	D10、D13-150@	D10、D13-150@	S 14	同上	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。

図9. 1 スラブの配筋

9. 2 スラブ筋の定着及び受け筋

スラブ筋の定着及び受け筋は図9. 2により、引き通すことができない場合は、図9. 3により梁内に定着する。

図9. 2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

図9. 3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

9. 3 片持スラブの基準配筋

(a) 片持スラブの基準配筋は表9. 2により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による。

表9. 2 片持スラブの基準配筋 (CS形)

配筋種別	主筋
CS 1	上 D13-100@ 下 D13-200@
CS 2	上 D13-150@ 下 D13-300@
CS 3	上 D10、D13-150@ 下 D10、D13-300@
CS 4	上 D10、D13-200@ 下 D10-200@

配筋種別	主筋
CS 5	上 D10-200@ 下 D10-400@
CS 6	上 D10、D13-200@ 下 —
CS 7	上 D10-200@ 下 —

図9. 4 片持スラブの配筋 (CS 1からCS 5)

図9. 5 片持スラブの配筋 (CS 6及びCS 7)

9. 4 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋

片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋は図9. 6による。

図9. 6 先端に壁が付く場合の配筋

9. 5 スラブの開口部の補強

スラブ開口部の補強及び定着方法は構造図による。ただし構造図において軽微な開口として特記されたものの開口補強については下記によることができる。

図9. 7 スラブ開口部の補強配筋

9. 6 出隅部及び入隅部の補強

(a) 原形スラブの出隅及び入隅部

図9. 8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持ちスラブの出隅部

図9. 9 片持スラブ出隅部の補強配筋

9. 7 スラブの打継ぎ補強等

(a) 土間スラブの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちとしないで打継ぎを設ける場合の補強)

土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は構造図による。また、基礎梁の増打ち補強筋は構造図による。

図9. 10 打継ぎ補強配筋 (a ≤ 300の場合)

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

土間コンクリートの補強筋は構造図による。なお、基礎梁との接合部は図9. 11による。ただし、a>300の場合は構造図による。また、基礎梁の増打ち補強筋は構造図による。

図9. 11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋 (a ≤ 300の場合)

10 階段の配筋

10. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

(a) 片持スラブ形階段の基準配筋は表10. 1により、種別の適用及びスラブ厚さは構造図による

表10. 1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA 1	KA 2
配筋図		
配筋種別	KA 3	KA 4
配筋図		

図10. 1 片持スラブ形階段配筋の定着

(注) 1. 片持ちスラブ形階段を受ける壁配筋は、8. 1 (b)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3. 3のL₂とする。

10. 2 二辺固定スラブ形階段の基準配筋

(a) 二辺固定スラブ形階段の基準配筋は表10. 2並びに図10. 2、図10. 3により、種別の適用、スラブ厚さは構造図による。

表10. 2 二辺固定スラブ形基準配筋

配筋種別	上縦筋、下縦筋とも (全域)
KB 1	D13-200@
KB 2	D13-150@
KB 3	D13-100@
KB 4	D13、D16-150@
KB 5	D16-150@
KB 6	D16-125@
KB 7	D16-100@

図10. 2 二辺固定スラブ形階段配筋 (その1)

図10. 3 二辺固定スラブ形階段配筋 (その2)

11 梁貫通孔その他の配筋

11. 1 梁貫通孔の配筋

(a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図11. 1による。
(b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
(c) 孔の上下方向の位置は梁せいの中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/3 Dの範囲には設けてはならない。
(d) 孔は、柱面から、原則として、1.5 D (Dは梁せいの) 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
(e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
(f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
(g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11. 2による。
(h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの (軽微な開口) で鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
(i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。
(j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13のリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
(k) 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

図11. 1 梁貫通孔の配筋

図11. 2 梁貫通孔の補強形式

表11. 1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H 1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 2	2-2-D13	なし	なし	なし	
H 3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H 5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H 7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) — は、一般部分のあばら筋を示す。

11. 3 耐震スリット

(a) 全貫通スリットとする。
(b) スリット材は変形追随性があるもので、構造耐力上影響を及ぼさないものとする。
(c) 挿入する耐火材は、1時間耐火性能を満足するものとする。
(d) スリット材には、止水対策が講じられているものとする。
(e) スリット幅は保有耐力時の層間変形角1/200により設定する。
(f) コンクリート打設時のずれ止めとして下図のように、差筋D10-400@を設けてもよい。

図12. 5 スリット断面

11. 4 メッシュ型枠

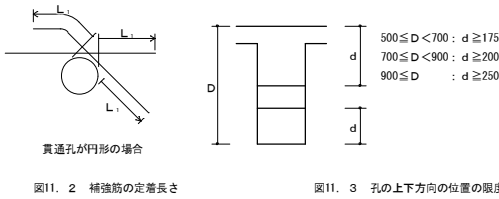
(a) 使用箇所
使用部位は、基礎・地中梁及び関連する柱部分とする (見え掛かりで、仕上げのない部分及び、ビット部分は除く)。
(b) 材料及び構造
・メッシュ材質 鋼板: JIS G 3302、板厚0.5mm以上、めっき80 g/m²以上
・枝用パイプ材質 JIS G 8305、直径25mm以上、厚さ1.2mm以上
・継付材はボルト式又は番組式とし、付属材料は監督員の承認を受ける
(c) 組立て
・組立て枝用パイプの立て込み間隔は300mm以下とする
・組立ては製造所の施工要領書に従う
(d) 型枠の取り外し
枝用パイプの存置期間は、[6. 9.5]による。また、型枠用メッシュは取り外さない。
(e) 鉄筋の最小かぶり厚さ
[表5. 3. 6]による。ただし、地中梁・柱は設計寸法に10mmを加える。

12. 4 コンクリートの単位水量の測定

本工事は、レディーミクストコンクリートの単位水量測定の施工を実施するものとし、その実施は次によるものとする。

単位水量の測定

(1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下ろし時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という) の上限値は、185kg/m³とする。
(3) 単位水量の管理目標値は次のとおりとして施工する。
① 設計値±20kg/m³を超える場合は、そのまま施工する。
② 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
③ 設計値±20kg/m³を超える場合は、「不合格生コン」とし、運搬車の生コンを打込み前に持ち帰らせ、水量の変動の原因を調査するとともに、生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後全運搬量の測定を行い、設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
④ ③の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理について記録を書面 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。



11. 2 梁貫通孔の補強形式
- 梁貫通孔の補強形式は表11. 1～表11. 3により、種別の適用、箇所数等は構造図による
- 表11. 1 H形配筋
- | 配筋種別 | 斜め筋 | 縦筋 | 横筋 | 上下縦筋 | 配筋図 |
|------|---------|---------|---------|---------|-----|
| H 1 | 2-2-D13 | なし | なし | なし | |
| H 2 | 2-2-D13 | なし | なし | なし | |
| H 3 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H 4 | 4-2-D16 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | 2-2-D13 | |
| H 5 | 4-2-D16 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H 6 | 4-2-D19 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
| H 7 | 4-2-D22 | 4-2-D13 | 2-2-D13 | 3-2-D13 | |
- (注) — は、一般部分のあばら筋を示す。
11. 3 耐震スリット
- (a) 全貫通スリットとする。
(b) スリット材は変形追随性があるもので、構造耐力上影響を及ぼさないものとする。
(c) 挿入する耐火材は、1時間耐火性能を満足するものとする。
(d) スリット材には、止水対策が講じられているものとする。
(e) スリット幅は保有耐力時の層間変形角1/200により設定する。
(f) コンクリート打設時のずれ止めとして下図のように、差筋D10-400@を設けてもよい。

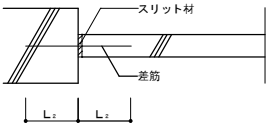


図12. 5 スリット断面

11. 4 メッシュ型枠
- (a) 使用箇所
使用部位は、基礎・地中梁及び関連する柱部分とする (見え掛かりで、仕上げのない部分及び、ビット部分は除く)。
(b) 材料及び構造
・メッシュ材質 鋼板: JIS G 3302、板厚0.5mm以上、めっき80 g/m²以上
・枝用パイプ材質 JIS G 8305、直径25mm以上、厚さ1.2mm以上
・継付材はボルト式又は番組式とし、付属材料は監督員の承認を受ける
(c) 組立て
・組立て枝用パイプの立て込み間隔は300mm以下とする
・組立ては製造所の施工要領書に従う
(d) 型枠の取り外し
枝用パイプの存置期間は、[6. 9.5]による。また、型枠用メッシュは取り外さない。
(e) 鉄筋の最小かぶり厚さ
[表5. 3. 6]による。ただし、地中梁・柱は設計寸法に10mmを加える。
12. 4 コンクリートの単位水量の測定
- 本工事は、レディーミクストコンクリートの単位水量測定の施工を実施するものとし、その実施は次によるものとする。
- 単位水量の測定
- (1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下ろし時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という) の上限値は、185kg/m³とする。
(3) 単位水量の管理目標値は次のとおりとして施工する。
① 設計値±20kg/m³を超える場合は、そのまま施工する。
② 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
③ 設計値±20kg/m³を超える場合は、「不合格生コン」とし、運搬車の生コンを打込み前に持ち帰らせ、水量の変動の原因を調査するとともに、生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後全運搬量の測定を行い、設計値±20kg/m³以内であることを確認する。さらに設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台ごとに1回、単位水量の測定を行う。
④ ③の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理について記録を書面 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

鉄骨構造工作標準図

1-1
使用材料

1-2
その他

2-1
略号

2-2
その他

3-1
H T B

3-2
H T Bの
ピッチ

3-3
形鋼のゲージ

4-1
隅肉溶接

§ 1. 一般事項

・使用材料はすべて規格品とする。

H形鋼 SS400 (SN400) 角形鋼管 STKR400
H形鋼 SS400 角形鋼管 BCR295 軽量形鋼 SSC400 柱ダイヤフラム SN490C
高力ボルト S-10T トルシャー型

丸鋼ブレース JIS規格品

・設計図書に記載なき場合は本標準図に従うものとする。
・本標準図における単位はすべてmmとする。
・精度に關しては、JAS6の付則6「数値精度検査基準」による。

§ 2. 共通事項

・AB アンカーボルト
・BRL ベースプレート
・CRL カバープレート
・FRL フランジプレート
・HTB 高力ボルト
・TB ターンバックル
・W₁₋₁₀ 溶接記号 (§ 4 参照)
・BH 組立H形鋼
・CHRL チェッカープレート
・FB フラットバー
・GRL ゲットプレート
・SRL スプラインプレート
・WLB ウェブプレート

§ 3. ボルト接合

首下寸法
(ボルト長さ)

締め付け長さ

座金厚さ

ナット高さ

ねじ山3以上(余長)

締め付け長さ

座金厚さ

ナット高さ

ねじ山3以上(余長)

・HTBはすべてS10T(トルシア形高力ボルト)を使用し、スベリ係数は0.45とする。
・ボルト接合面の処理
締め付け座金面は母材に於いては平グラインダー掛け、スプラインプレートに於いてはショット掛けを行い、風皮を除去し一様に赤さびを生じさせる。

呼び径	M16	M20	M22	M24	
孔 径	18.0	22.0	24.0	26.0	
標 準	60	60	60	70	
最 小	40	50	55	60	
は し あ き	e ₁	40(40)	40(50)	40(55)	45(60)
へ り あ き	e ₂	25	30	35	40

・() 内はボルトが応力方向に3本以上並ばない場合を示す。

A

B

e₁

e₂

B

e₁

e₂

B

e₁

e₂

A

B

e₁

e₂

A or B	e ₁	e ₂	最大軸径	B	e ₁	e ₂	最大軸径	B	e ₁	e ₂	最大軸径
※50	30	16	※100	60	16	※50	30	16			
60	35	16	125	75	16	65	35	20			
65	35	20	150	90	22	70	40	20			
70	40	20	175	105	22	75	40	22			
75	40	22	200	120	24	80	45	22			
80	45	22	250	150	24	90	50	24			
90	50	24	※300	150	40	24	100	55	24		
100	55	24	350	140	70	24					
125	50	35	24	400	140	90	24				
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

・B=300は千鳥打ちとする。
・※印の欄のeおよび最大軸径の値は強度上支障がないとき
最小縁距距離の規定にかかわらず用いることができる。

§ 4. 溶接接合

S

W₁

t₂

S=0

S

W₁

t₂

S

S

W₁

t₂

S

S

W₁

t₂

S

脚長 (S)
0 ≤ S' - S ≤ 3
S = 設計サイズ
S' = 実装サイズ

余盛
(0.1S+1)以下

t ₁ : t ₂ と t ₂ の小さい方	6以下	9	12	14	16	19
S	t	7	9	10	12	14

4-2
突合せ溶接

板厚の異なる場合

a ≤ 10°

a > 10°

・(クレーンガーダーの場合は3とする)

エンドタブ

両端に継手と同じ形状のエンドタブを取り付ける。
その長さlは35以上かつ薄い方の板厚の2倍以上とする。
代替タブを採用する場合は溶接技量付加試験に合格した溶接工によること。

スカラップ (改良スカラップ)

R1=35, R2=10 を標準とする。
複合門は滑らかに仕上ること、

4-3
開先形状

記 号

形 状

適用板厚

寸 法

W₂
(MC-BL-B1)

裏はつり

9以上

t=12以下は6

19以上

6 < t ≤ 12

12 < t ≤ 32

W₃
(MC-BL-2)

裏はつり

9以上

t

6 < t ≤ 19

W₄
(MC-BK-2)

裏はつり

9以上

t

19 < t ≤ 32

W₅
(MC-B1-B1)

裏はつり

9以上

t

t ≤ 6

・上図は手溶接の隅肉又は完全溶込みグループ溶接の場合を示す。
但し、半自動溶接および自動溶接にて施工する場合は別途指示とする。

5-1
継手リスト

継手・仕口のボルト本数は別図参照。

e₁

d

p

e₁ 10

B

e₁

e₂

B

e₁

e₂

B

e₁

e₂

・使用材料はすべて規格品とする。

A

B

e₁

e₂

A

B

e₁

e₂

A

B

e₁

e₂

A

B

e₁

e₂

ファイラープレート

FRL、WLB 面で段差が1をこえる場合は、
ファイラープレートを入れる。

5-2
仕口リスト

10 e₁ e₂

A1タイプ (ピン接合)

B1タイプ (剛接合)

10 e₁ e₂

A2タイプ (ピン接合)

B2タイプ (剛接合)

10 e₁ e₂

A3タイプ (ピン接合)

B2タイプ (剛接合)

継手プレート及び高力ボルトはリストによる。

4-4
隅肉溶接

6-1
柱 通 し

6-2
梁 通 し

6-3
継 仕 様

6-4
現場溶接継手

7-1
柱 脚 ピン

8-1
丸 鋼

8-2
山 形 鋼

§ 6. 柱梁接合部および継手

W₂

W₃

W₄

W₅

W₆

W₇

W₈

W₉

W₁₀

W₁₁

W₁₂

W₁₃

W₁₄

W₁₅

W₁₆

W₁₇

W₁₈

W₁₉

W₂₀

W₂₁

W₂₂

W₂₃

W₂₄

W₂₅

W₂₆

W₂₇

W₂₈

W₂₉

W₃₀

W₃₁

W₃₂

W₃₃

W₃₄

W₃₅

W₃₆

W₃₇

W₃₈

W₃₉

W₄₀

W₄₁

W₄₂

W₄₃

W₄₄

W₄₅

W₄₆

W₄₇

W₄₈

W₄₉

W₅₀

W₅₁

W₅₂

W₅₃

W₅₄

W₅₅

W₅₆

W₅₇

W₅₈

W₅₉

W₆₀

W₆₁

W₆₂

W₆₃

W₆₄

W₆₅

W₆₆

W₆₇

W₆₈

W₆₉

W₇₀

W₇₁

W₇₂

W₇₃

W₇₄

W₇₅

W₇₆

W₇₇

W₇₈

W₇₉

W₈₀

W₈₁

W₈₂

W₈₃

W₈₄

W₈₅

W₈₆

W₈₇

W₈₈

W₈₉

W₉₀

W₉₁

W₉₂

W₉₃

W₉₄

W₉₅

W₉₆

W₉₇

W₉₈

W₉₉

W₁₀₀

W₁₀₁

W₁₀₂

W₁₀₃

W₁₀₄

W₁₀₅

W₁₀₆

W₁₀₇

W₁₀₈

W₁₀₉

W₁₁₀

W₁₁₁

W₁₁₂

W₁₁₃

W₁₁₄

W₁₁₅

W₁₁₆

W₁₁₇

W₁₁₈

W₁₁₉

W₁₂₀

W₁₂₁

W₁₂₂

W₁₂₃

W₁₂₄

W₁₂₅

W₁₂₆

W₁₂₇

W₁₂₈

W₁₂₉

W₁₃₀

W₁₃₁

W₁₃₂

W₁₃₃

W₁₃₄

W₁₃₅

W₁₃₆

W₁₃₇

W₁₃₈

W₁₃₉

W₁₄₀

W₁₄₁

W₁₄₂

W₁₄₃

W₁₄₄

W₁₄₅

W₁₄₆

W₁₄₇

W₁₄₈

W₁₄₉

W₁₅₀

W₁₅₁

W₁₅₂

W₁₅₃

W₁₅₄

W₁₅₅

W₁₅₆

W₁₅₇

W₁₅₈

W₁₅₉

W₁₆₀

W₁₆₁

W₁₆₂

W₁₆₃

W₁₆₄

W₁₆₅

W₁₆₆

W₁₆₇

W₁₆₈

W₁₆₉

W₁₇₀

W₁₇₁

W₁₇₂

W₁₇₃

W₁₇₄

W₁₇₅

W₁₇₆

W₁₇₇

W₁₇₈

W₁₇₉

W₁₈₀

W₁₈₁

W₁₈₂

W₁₈₃

W₁₈₄

W₁₈₅

W₁₈₆

W₁₈₇

W₁₈₈

W₁₈₉

W₁₉₀

W₁₉₁

W₁₉₂

W₁₉₃

W₁₉₄

W₁₉₅

W₁₉₆

W₁₉₇

W₁₉₈

W₁₉₉

W₂₀₀

W₂₀₁

W₂₀₂

W₂₀₃

W₂₀₄

W₂₀₅

W₂₀₆

W₂₀₇

W₂₀₈

W₂₀₉

W₂₁₀

W₂₁₁

W₂₁₂

W₂₁₃

W₂₁₄

W₂₁₅

W₂₁₆

W₂₁₇

W₂₁₈

W₂₁₉

W₂₂₀

W₂₂₁

W₂₂₂

W₂₂₃

W₂₂₄

W₂₂₅

W₂₂₆

W₂₂₇

W₂₂₈

W₂₂₉

W₂₃₀

W₂₃₁

W₂₃₂

W₂₃₃

W₂₃₄

W₂₃₅

W₂₃₆

W₂₃₇

W₂₃₈

W₂₃₉

W₂₄₀

W₂₄₁

W₂₄₂

W₂₄₃

W₂₄₄

W₂₄₅

W₂₄₆

W₂₄₇

W₂₄₈

W₂₄₉

W₂₅₀

W₂₅₁

W₂₅₂

W₂₅₃

W₂₅₄

W₂₅₅

W₂₅₆

W₂₅₇

W₂₅₈

W₂₅₉

W₂₆₀

W₂₆₁

W₂₆₂

W₂₆₃

W₂₆₄

W₂₆₅

W₂₆₆

W₂₆₇

W₂₆₈

W₂₆₉

W₂₇₀

W₂₇₁

W₂₇₂

W₂₇₃

W₂₇₄

W₂₇₅

W₂₇₆

W₂₇₇

W₂₇₈

W₂₇₉

W₂₈₀

W₂₈₁

W₂₈₂

W₂₈₃

W₂₈₄

W₂₈₅

W₂₈₆

W₂₈₇

W₂₈₈

W₂₈₉

W₂₉₀

W₂₉₁

W₂₉₂

W₂₉₃

W₂₉₄

W₂₉₅

W₂₉₆

W₂₉₇

W₂₉₈

W₂₉₉

W₃₀₀

W₃₀₁

W₃₀₂

W₃₀₃

W₃₀₄

W₃₀₅

W₃₀₆

W₃₀₇

W₃₀₈

W₃₀₉

W₃₁₀

W₃₁₁

W₃₁₂

W₃₁₃

W₃₁₄

W₃₁₅

W₃₁₆

W₃₁₇

W₃₁₈

W₃₁₉

W₃₂₀

W₃₂₁

W₃₂₂

W₃₂₃

W₃₂₄

W₃₂₅

W₃₂₆

W₃₂₇

W₃₂₈

W₃₂₉

W₃₃₀

W₃₃₁

W₃₃₂

W₃₃₃

W₃₃₄

W₃₃₅

W₃₃₆

W₃₃₇

W₃₃₈

W₃₃₉

W₃₄₀

W₃₄₁

W₃₄₂

W₃₄₃

W₃₄₄

W₃₄₅

W₃₄₆

W₃₄₇

W₃₄₈

W₃₄₉

W₃₅₀

W₃₅₁

W₃₅₂

W₃₅₃

W₃₅₄

W₃₅₅

W₃₅₆

W₃₅₇

W₃₅₈

W₃₅₉

W₃₆₀

W₃₆₁

W₃₆₂

W₃₆₃

W₃₆₄

W₃₆₅

W₃₆₆

W₃₆₇

W₃₆₈

W₃₆₉

W₃₇₀

W₃₇₁

W₃₇₂

W₃₇₃

W₃₇₄

W₃₇₅

W₃₇₆

W₃₇₇

W₃₇₈

W₃₇₉

W₃₈₀

W₃₈₁

W₃₈₂

W₃₈₃

W₃₈₄

W₃₈₅

W₃₈₆

W₃₈₇

W₃₈₈

W₃₈₉

W₃₉₀

W₃₉₁

W₃₉₂

W₃₉₃

W₃₉₄

W₃₉₅

W₃₉₆

W₃₉₇

W₃₉₈

W₃₉₉

W₄₀₀

W₄₀₁

W₄₀₂

W₄₀₃

W₄₀₄

W₄₀₅

W₄₀₆

W₄₀₇

W₄₀₈

W₄₀₉

W₄₁₀

W₄₁₁

W₄₁₂

W₄₁₃

W₄₁₄

W₄₁₅

W₄₁₆

W₄₁₇

W₄₁₈

W₄₁₉

W₄₂₀

W₄₂₁

W₄₂₂

W₄₂₃

W₄₂₄

W₄₂₅

W₄₂₆

W₄₂₇

W₄₂₈

W₄₂₉

W₄₃₀

W₄₃₁

W₄₃₂

W₄₃₃

W₄₃₄

W₄₃₅

W₄₃₆

W₄₃₇

W₄₃₈

W₄₃₉

W₄₄₀

W₄₄₁

W₄₄₂

W₄₄₃

W₄₄₄

W₄₄₅

W₄₄₆

W₄₄₇

W₄₄₈

W₄₄₉

W₄₅₀

W₄₅₁

W₄₅₂

W₄₅₃

W₄₅₄

W₄₅₅

W₄₅₆

W₄₅₇

W₄₅₈

W₄₅₉

W₄₆₀

W₄₆₁

W₄₆₂

W₄₆₃

W₄₆₄

W₄₆₅

W₄₆₆

W₄₆₇

W₄₆₈

W₄₆₉

W₄₇₀

W₄₇₁

W₄₇₂

W₄₇₃

W₄₇₄

W₄₇₅

W₄₇₆

W₄₇₇

W₄₇₈

W₄₇₉

W₄₈₀

W₄₈₁

W₄₈₂

W₄₈₃

W₄₈₄

W₄₈₅

W₄₈₆

W₄₈₇

W₄₈₈

W₄₈₉

W₄₉₀

W₄₉₁

W₄₉₂

W₄₉₃

W₄₉₄

W₄₉₅

W₄₉₆

W₄₉₇

W₄₉₈

W₄₉₉

W₅₀₀

W₅₀₁

W₅₀₂

W₅₀₃

W₅₀₄

W₅₀₅

W₅₀₆

W₅₀₇

W₅₀₈

W₅₀₉

W₅₁₀

W₅₁₁

W₅₁₂

W₅₁₃

W₅₁₄

W₅₁₅

W₅₁₆

W₅₁₇

W₅₁₈

W₅₁₉

W₅₂₀

W₅₂₁

W₅₂₂

W₅₂₃

W₅₂₄

W₅₂₅

W₅₂₆

W₅₂₇

W₅₂₈

W₅₂₉

W₅₃₀

W₅₃₁

W₅₃₂

W₅₃₃

W₅₃₄

W₅₃₅

W₅₃₆

W₅₃₇

W₅₃₈

W₅₃₉

W₅₄₀

W₅₄₁

W₅₄₂

W₅₄₃

W₅₄₄

W₅₄₅

W₅₄₆

W₅₄₇

W₅₄₈

W₅₄₉

W₅₅₀

W₅₅₁

W₅₅₂

W₅₅₃

W₅₅₄

W₅₅₅

W₅₅₆

W₅₅₇

W₅₅₈

W₅₅₉

W₅₆₀

W₅₆₁

W₅₆₂

W₅₆₃

W₅₆₄

W₅₆₅

W₅₆₆

W₅₆₇

W₅₆₈

W₅₆₉

W₅₇₀

W₅₇₁

W₅₇₂

W₅₇₃

W₅₇₄

W₅₇₅

W₅₇₆

W₅₇₇

W₅₇₈

W₅₇₉

W₅₈₀

W₅₈₁

W₅₈₂

W₅₈₃

W₅₈₄

W₅₈₅

W₅₈₆

W₅₈₇

W₅₈₈

W₅₈₉

W₅₉₀

W₅₉₁

W₅₉₂

W₅₉₃

W₅₉₄

鉄骨工作標準図（2）

§ 6 柱梁接合部及び継手

6-1 勾配屋根

6-2 梁通し

6-3 仕口と継手

6-4 柱通し

6-5 現場溶接継手

柱がH形鋼の場合

柱が角形鋼管の場合

6-6 その他

§ 7 柱脚

7-1 一般柱脚

§ 8 壁面ブレース

8-1 ブレースリスト

9-1 貫通補強

9-2 デッキプレート

9-3 スタッドジベル

9-4 壁筋の溶接

§ 9 その他

Aタイプ (Φ≦0.1H)

Bタイプ (0.1H<Φ≦0.2H)

Cタイプ (0.2H<Φ≦0.28H)

Dタイプ (0.28H<Φ≦0.4H)

Eタイプ (0.4H<Φ≦0.5H)

Fタイプ

訂正

工事名称

設計

設計

一級建築士 大臣登録 第195765号

図面名

縮尺

図面番号

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

片山

建築設計 間34

三県知事登録 第1-2154号

片山正司

鉄骨工作標準図（2）

A3: A2×71%

S-08

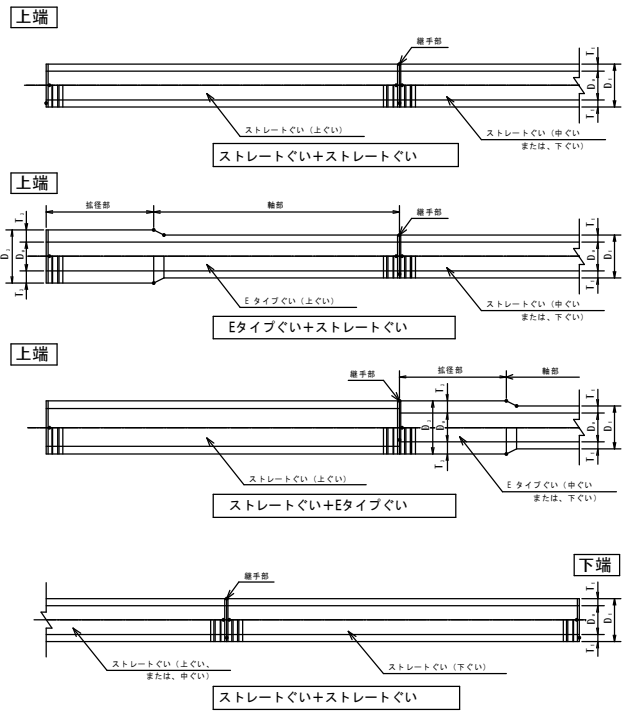
ハイエフビー（HiFB）工法 特記仕様書

1. 一般事項

- 1) 本工事に採用する工法は「ハイエフビー（HiFB）工法」認定番号：TACP-0261号(礫質地盤)、0263(砂質地盤)号、0494号(粘土質地盤)とする。
- 2) 工事着手前に、工事概要、工程、使用する杭の明細・使用機械等を明記した施工計画書を監督員に提出し承認を得る。

2. 使用杭

- 1) ハイエフビー（HiFB）工法に使用する杭は、平成13年国土交通省告示第1113号第8第二号、第三号、第四号、第五号および第六号（平成17年7月21日国土交通省告示第690号にて改正）の何れかに基づきコンクリートの許容応力度が規定された既製コンクリートとする。また、中杭・上杭には鋼管杭を使用することができる。



標準形状図

ストレート杭寸法表 【単位：mm】

外径	D1	Du	T1
300	300	180	60
350	350	230	60
400	400	270	65
450	450	310	70
500	500	340	80
600	600	420	90
700	700	500	100
800	800	580	110
900	900	660	120
1000	1000	740	130
1100	1100	820	140
1200	1200	900	150

Eタイプ杭寸法表 【単位：mm】

呼び名	D1	D3	Du	T1	T3
350300	300	350	180	60	85
400350	350	400	230	60	85
450400	400	450	270	65	90
500400	400	500	270	65	115
500450	450	500	310	70	95
600500	500	600	340	80	130
700600	600	700	420	90	140
800700	700	800	500	100	150
900800	800	900	580	110	160
1000900	900	1000	660	120	170
11001000	1000	1100	740	130	180
12001100	1100	1200	820	140	190

（注）T1、T3、Duの寸法は参考値であり、T1、T3は最小値を、Duは最大値を示し厚肉杭も使用出来る。

3. 最大施工深さ

最大施工深さは以下の通りとする。

砂質地盤 63m 礫質地盤 66m 粘土質地盤 53m

4. 試験杭

- 1) 試験掘および試験杭の位置および数量は、地質調査位置・地盤概要等を・平面計画を考慮し監督員と協議し決定する。
- 2) 試験杭は本杭に先立ち、施工計画の妥当性を確認するために実施する。
- 3) 試験杭は本杭と同一の寸法の杭、また本工事に使用予定の機械設備を使用し行い、次の項目を確認する。

①施工能力
②使用機械の適否
③掘削溶液の適否
④先端地盤（支持層）の適否

5. 施工方法

- 1) 杭芯セット

杭芯位置の精度を確保するために杭芯位置より逃げ芯を直交2方向に打ち込み、掘削攪拌装置の位置を確認するため定尺棒を用いてオーガビットの中心を杭芯に合わせる。
- 2) 掘削作業

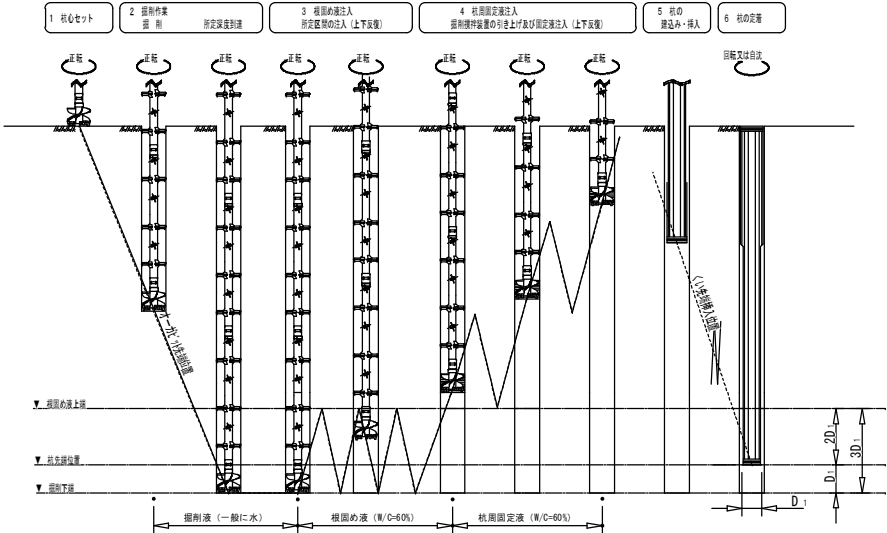
掘削攪拌装置の鉛直度を調整しながら、掘削液をオーガビットの先端から吐出して地盤の掘削抵抗を減少させるとともに孔内を泥土化し、孔壁の崩壊を防止しつつ、地盤に応じた速度で掘削し掘削孔を築造する。
- 3) 根固め液の注入

所定深度まで掘削した後、掘削液から根固め液に切り替え、オーガビット先端より注入する。その後、数回の上下反復を行う。
- 4) 杭周固定液の注入

根固め液注入工程完了後、杭周固定液に切替えて注入し、充填区間を上下反復しながら掘削攪拌装置を引き上げ、掘削孔を築造する。
- 5) 杭の建込み

杭頭部および先端部に金具を溶接した杭を鉛直性を保ちながら掘削孔の中心部に建込み挿入する。
- 6) 杭の定着

杭の建込み完了後、回転キャップを杭頭部にセットし自沈または回転挿入しながら杭を定着させる。



6. 掘削装置

- 1) 掘削攪拌装置

掘削攪拌装置は、地盤を掘削し攪拌するもので、オーガビットに掘削土を攪拌、泥土化させる攪拌ロッドとスパイラルオーガを組み合わせたものを装着する。なお、掘削施工が困難と想定される地盤についてはスパイラルオーガをオーガビット上部に装着し用いる事もある。また、障害物・硬質地盤等により掘削が困難な場合は、ケーシング・ダウンザホールハンマ等の補助工法により撤去後、施工を行う。撤去の際、掘削径が標準より大きくなった場合、撤去後の施工の掘削径を補助工法の掘削径と見合う径とし、根固め液及び杭周固定液の注入量を適宜算定し直す。

攪拌ロッド、スパイラルオーガおよびオーガビット径

杭径 (mm)	300	350	400	450	500	600
掘削攪拌装置径 (mm)	400	450	550	600	650	750
杭径 (mm)	700	800	900	1000	1100	1200
掘削攪拌装置径 (mm)	900	1000	1150	1250	1400	1500

7. 注入液

- ハイエフビー（HiFB）工法で使用する注入液は、掘削液、根固め液及び杭周固定液である。
- 掘削液は、掘削抵抗を減少させると共に孔内を泥土化させる事を目的とし、一般的には水を使用するが、掘削孔の崩壊が懸念さえる地盤ではベントナイトやCMC等を混合した掘削液を使用する。
- 根固め液は、杭先端部と支持地盤を一体化させ、先端支持力を確保する事を目的としたセメントミルクである。
- 杭周固定液は、掘削土と攪拌混合して掘削孔壁面と杭外周との空間を充填し、杭周摩擦力及び水平抵抗力を確保することを目的としたセメントミルクである。

- 1) 材料

根固め液及び杭周固定液の材料は次の物とする。

①セメント

セメントはJIS R 5210 に規定されるボルトランドセメント、または高炉セメント、シリカセメントを使用する。この他には品質がこれらと同等以上で所定強度が確認された物を使用する。セメントはバラセメント又は、袋セメントで施工現場に納入した物を使用する。

②練り混ぜ水

練り混ぜ水は、上水道もしくはセメントミルクの品質に悪影響を及ぼさない水を標準とする。
- 2) 材料管理

注入液に使用するセメントは、湿気や風化等に十分注意する。また入庫量と使用量を確認し、在庫量について管理を行う。
- 3) 根固め液配合

根固め液は、杭の支持力を確保出来るものとし、W/C=60%を標準とする。各杭径別の標準配合を下表に示す。

根固め液の標準配合表

呼び名	300	350	400	450	500	600	700	800	900	1000	1100	1200
掘削径 (mm)	400	450	550	600	650	750	900	1000	1150	1250	1400	1500
球根径 (mm)	400	450	550	600	650	750	900	1000	1150	1250	1400	1500
球根長 (mm)	900	1050	1200	1350	1500	1800	2100	2400	2700	3000	3300	3600
セメント (kg)	95	145	255	335	430	680	1170	1640	2485	3240	4530	5645
水 (L)	57	87	153	201	258	408	702	984	1491	1944	2718	3387
注入量 (L)	87	133	234	307	395	624	1073	1505	2280	2973	4156	5179

- 4) 根固め液の圧縮強度及び比重

根固め液はモルタルプラントから採取した供試体3個の平均値が材齢28日で圧縮強度25N/mm2とする。比重はW/C=60%の時の計算値を標準とし、標準値の-2%以上を管理値とする。
- 5) 杭周固定液の配合

杭周固定液は、杭周面摩擦力及び水平抵抗力を確保できるものとし、W/C=60%のセメントミルクとする。標準注入量は、掘削孔体積の20%とし、下表に1mあたりの標準配合を示す。杭周固定液注入区間長は、杭長-2D1（D1は杭先端部外径）を標準とする。但し、杭の体積相当分が大きく、杭挿入時のオーバーフロー量が過大となる場合は、体積相当分を考慮して適切に注入区間を減じてよい。

杭周固定液の標準配合表（1m当たり）

呼び名	300	350	400	450	500	600	700	800	900	1000	1100	1200
掘削径 (mm)	400	450	550	600	650	750	900	1000	1150	1250	1400	1500
セメント (kg)	27.4	34.7	51.8	61.6	72.3	96.3	138.7	171.2	226.4	267.5	335.6	385.2
水 (L)	16.4	20.8	31.1	37	43.4	57.8	83.2	102.7	135.9	160.5	201.3	231.1
注入量 (L)	25.1	31.8	47.5	56.5	66.4	88.4	127.2	157.1	207.7	245.4	307.9	353.4

- 6) 杭周固定液の圧縮強度

杭周固定液は、杭挿入時掘削孔からオーバーフロー液を採取した供試体3個の平均値が材齢28日で圧縮強度1N/mm2以上とする。ただし、ヤットコ長が長い場合等でオーバーフロー液が採取困難な場合は、ミキサー排出口からの原液管理とし、その圧縮強度は根固め液と同一とする。
- 7) 根固め液及び杭周固定液の強度管理

根固め液はミキサー排出口にて、杭周固定液は杭挿入時に於ける掘削孔からのオーバーフロー液又はミキサー排出口から採取する。試験回数は下表によるものとする。なお、1回の供試体の数は各3個とする。

試験の回数

杭		試験回数
試験杭		1本毎
本杭	継手のない場合	30本毎又はその端数につき1回
	継手のある場合	20本毎又はその端数につき1回

採取した試料は、「（一社）公共建築協会 公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」のプレバックドクリートの注入モルタルのフリージング率及び膨張率試験方法（ポリエチレン袋方法）によるポリエチレン袋、又はこれと同等な袋を用い、直径50mm、高さ100mm程度の円柱形に仕上げる。圧縮強度試験は、JIS A 1108（コンクリートの圧縮強度試験方法）に準拠する。

8. 施工記録

- 1) 工事件名
2) くい番号
3) 施工月日
4) くいの仕様（くい種・くい径・くい長）
5) 施工時間
6) 最終掘削深度
7) 設計くい頭位置
8) 根固め液の使用量
9) くい周固定液の使用量
10) その他（掘削電流値又は油圧値、供試体の圧縮強度等）

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 （構造関係規定に適合することを確認）

訂正	工事名称 令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図	設計 片山	建築設計 間34 マサンヨシ	三重県知事登録 第1-2154号	一級建築士 大臣登録 第195765号 片山正司	図面名 ハイエフビー（HiFB）工法 特記仕様書（参考）	縮尺 A3：A2×71% ――	図面番号 S-09
----	-------------------------------------	----------	-------------------	------------------	-----------------------------	------------------------------------	-----------------------	--------------

無溶接継手（P J：ペアリング・ジョイント） 特記仕様書 {BCJ評定-FD0393-09}

1. ペアリング・ジョイントの概要

ペアリング・ジョイントは、端部金具、内リング及び外リングから構成されている。端部金具は、端板と補強バンドからできており、端板は上杭と下杭を突き合わせたときに内リングで挟み込むことのできる突起が付いた特殊な形状をしている。内リングは、等分割されており、内側は、上杭と下杭の端板突起部を挟み込むことができる2本の突起がついている。外側は、上方に厚いテーパ状になっており、表面は3mmピッチの細やかな溝が刻まれている。この溝は、同様な溝の刻まれた外リングの内側との間にかみ合う構造となっている。外リングは、内側がテーパ状になっており、等分割された内リングの外側から拘束する役割をもっている。

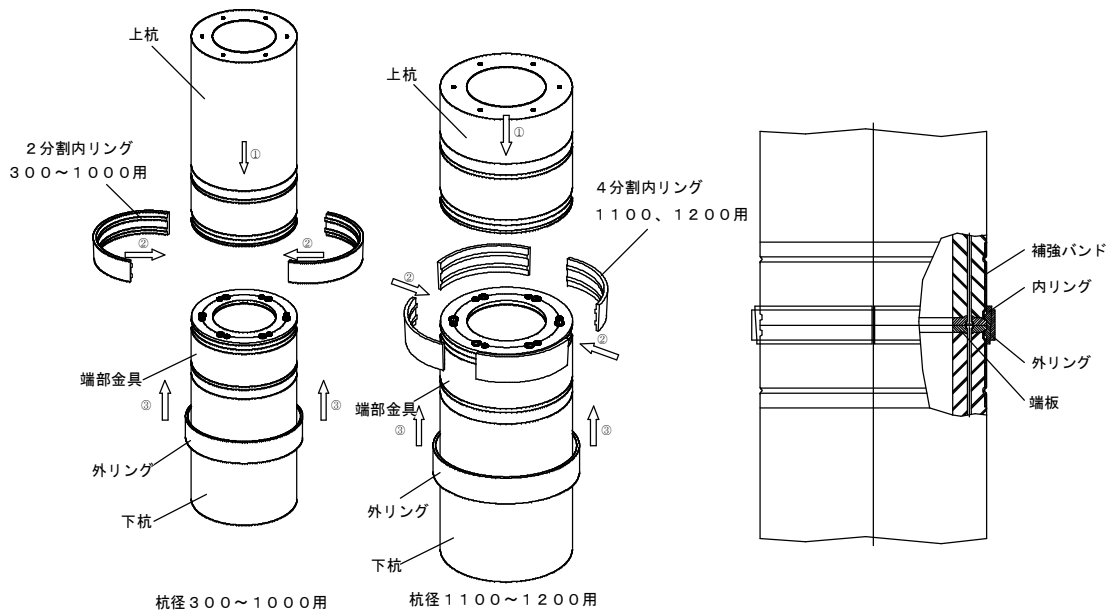


図-1 ペアリング・ジョイント概要図

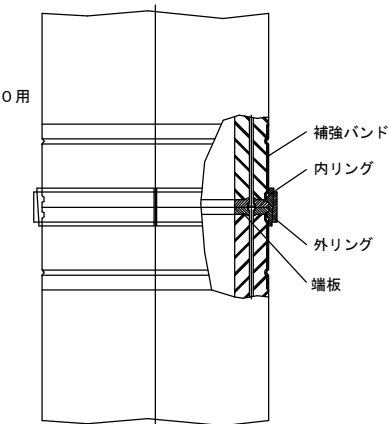


図-2 ペアリング・ジョイント標準構造図

2. 適用杭種及び適用工法

(1) 適用杭種等

本継手で接続する杭の一方は下記aとし、他方はa～dのいずれかとする。

a. PHC杭※1：A種、B種、C種

b. PRC杭※2

c. SC杭

d. 鋼管杭※3

※1 拡張PHC杭、節付PHC杭、拡張節付PHC杭を含む。

※2 拡張PRC杭、節付PRC杭、拡張節付PRC杭を含む。

※3 適用が可能な申込者は、ジャパンパイル株式会社、前田製管株式会社、日本高圧コンクリート株式会社、藤村ヒューム管株式会社、日本コンクリート工業株式会社、三谷セキサン株式会社及び株式会社トーヨーアサノに限る。

なお、杭体コンクリートの設計基準強度F_cは123 N/mm²以下とする。ただし、鋼管杭と接続するPHC杭のF_cは105 N/mm²以下とする。

また、a～cの杭体、並びに杭体コンクリートの設計基準強度は、各申込者において製造可能な範囲に限られるものとする。

(2) 適用杭径

継手部の杭径は300mm～1200mmとする。

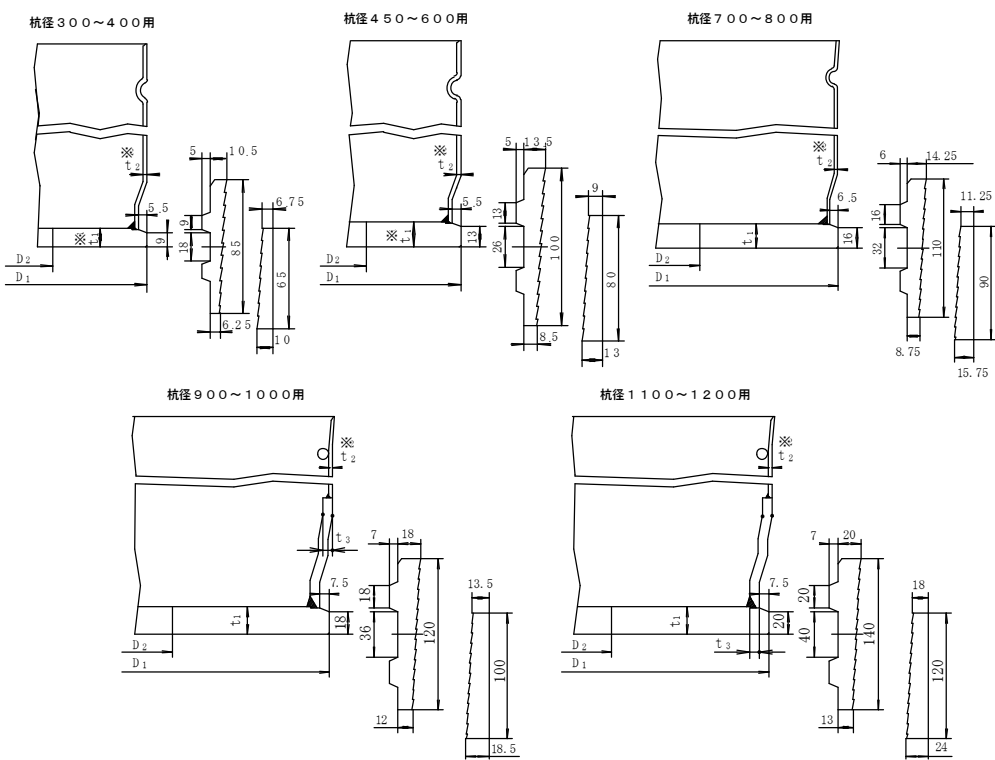
ただし、各申込者において製造可能な範囲に限られるものとする。

(3) 適用工法

a. 打込み杭工法（PHC杭、PRC杭、SC杭）（杭径300mm～600mm）

b. 埋込み杭工法（プレボーリング工法、中掘り工法）（杭径300mm～1200mm）

3. 端部金具・内リングおよび外リングの断面寸法



杭径 D	杭種	D1 mm	D2 mm	t1 mm	t2 mm	t3 mm	内リング 分割数	突出高 mm	内リング重量 kg	外リング重量 kg
300	A	299	180	※1	1.6	—	2	16.2 5	6.3 (※3)	4.4
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
350	A	349	230	※1	1.6	—	2	16.2 5	7.3 (※3)	5.1
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
400	A	399	270	※1	1.6	—	2	16.2 5	8.3 (※3)	5.8
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
450	A	449	310	※1	1.6	—	2	21.5	14.8 (※3)	10.6
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
500	A	499	340	※1	1.6	—	2	21.5	16.5 (※3)	11.7
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
600	A	599	420	※1	1.6	—	2	21.5	19.7 (※3)	13.9
	B				3.2(※2)	—				
	C				3.2(※2)	—				
700	A	699	500		19	2.3	2	24.5	26.2 (※3)	22.3
	B				3.2(※2)	—				
	C				22	3.2(※2)				
800	A	799	580		19	2.3	2	24.5	29.9 (※3)	25.4
	B				3.2(※2)	—				
	C				22	3.2(※2)				
900	A	890	660	22	3.2以上	6	2	26	46.8 (※3)	37.4
	B				4.5以上(※2)	6				
	C				4.5以上(※2)	9				
1000	A	990	740	22	3.2以上	6	2	26	52.0 (※3)	41.4
	B				4.5以上(※2)	6				
	C				6.0以上(※2)	9				
1100	A	1090	820	26	4.5以上	9	2	32.5	72.1 (※3)	72.0
	B				6.0以上(※2)	9				
	C				6.0以上(※2)	12				
1200	A	1190	900	26	4.5以上	9	2	32.5	78.7 (※3)	78.3
	B				6.0以上(※2)	9				
	C				6.0以上(※2)	12				

備考 本表以外の種類については各社仕様による。

*1は、各社仕様による。

*2は、A種に継ぐ時はA種の補強バンド厚とする。

*3は、内リング1セット分の重量とする。

図-3 ペアリング・ジョイントの断面寸法

4. ペアリング・ジョイントの施工方法

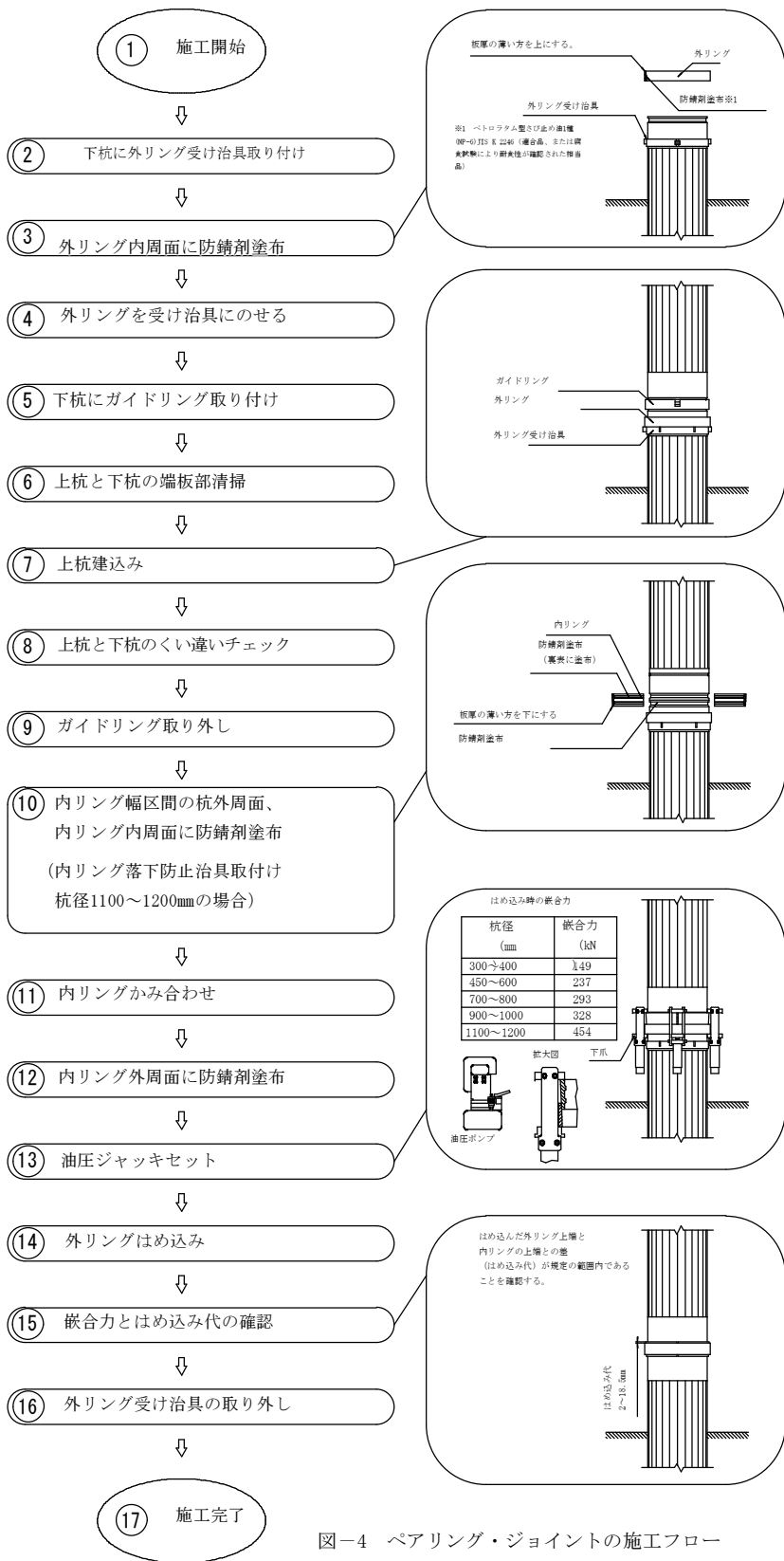


図-4 ペアリング・ジョイントの施工フロー

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片山 マサノリ

建築設計 間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正司

図面名
無溶接継手 特記仕様書(参考)

縮尺 A3: A2×71%

図面番号

S-10

4. 調査結果

4.1 ボーリング調査

ボーリング調査は、地層または土層構成や地下水位を確認するため、調査地3箇所において各2地点の計6地点実施した。

掘進は、土砂部ではノンコアボーリング、岩盤部ではオールコアボーリングを基本とし、土砂と岩盤の区別が困難な場合は、土砂部においてもオールコアボーリングとした。

調査地で確認された地質は、中生代白亜紀に形成された四万十帯的矢層群に区分される頁岩を基盤とし、新生代第四紀更新世に形成された中位段丘堆積物の礫質土層、同紀完新世に形成された浜堤堆積物の粘性土・砂質土・礫質土である。

次頁以降に各調査地の地質層序等をまとめる。

表 4.1.1 調査地の地質層序表

地質時代		地層名		記号
新生代 第四紀	完新世	浜堤堆積物	砂質土層	As
			礫質土層	Ag
			粘性土層	Ac
	更新世	中位段丘堆積物	礫質土層	Dg
中生代白亜紀		四万十帯的矢層群	頁岩	Sh

頁岩は、シルトや粘土の堆積岩である泥岩が変成作用により板状に薄くはがれる剥離面が発達しているものをいう。

● 孔内水位

ボーリング孔内で測定された水位は、無水振りにて No. 1-1 が GL+0.65m(H=1.25m)、No. 1-2 が GL+0.06m(H=1.42m)と浅部で測定された。

作業期間中の孔内泥水位は、GL+0.11m(H=2.13m)～GL+0.72m(H=1.30m)で測定された。

No. 1-2 の 8 月 2 日に測定した孔内泥水位は GL+0.11m(H=2.13m)と地表面より上部にあり、翌日の 8 月 3 日の孔内泥水位も GL+0.06m(H=1.96m)とほぼ地表面にあるため、これらは地下水位を反映したものではないと想定される。

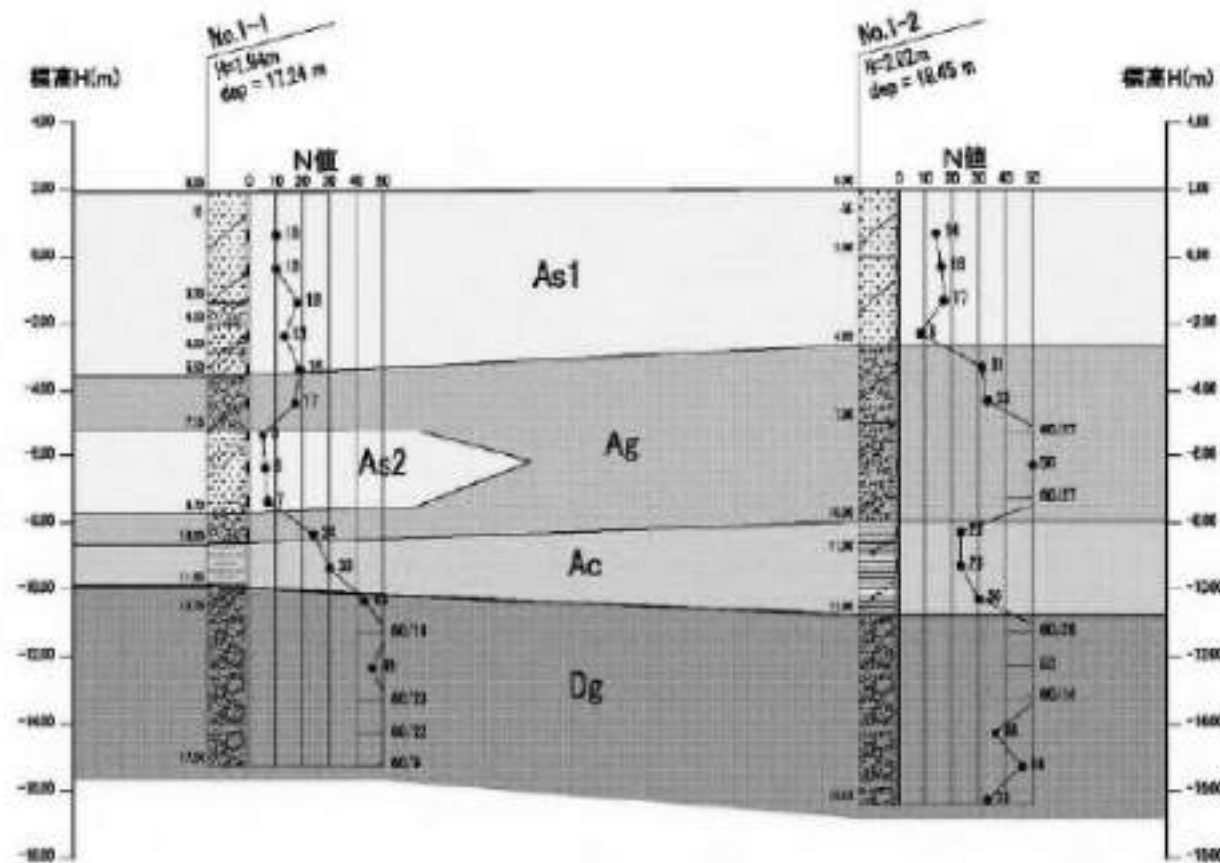
以上より、これらを除いた H=1.58m～H=1.29m 付近に地下水位が存在すると考えられる。

表 4.1.3 孔内水位測定状況(1号箇所)

地点名	孔口標高 H(m)	測定日	孔内水位		記号	備考
			GL(m)	H(m)		
No. 1-1	1.94	8月4日	+0.65	1.29	As1	無水振り
		8月5日	+0.43	1.51	As1	泥水位
		8月8日	+0.36	1.58	As1	泥水位
		8月9日	+0.48	1.46	As1	泥水位
No. 1-2	2.02	7月28日	+0.66	1.42	As1	無水振り
		7月29日	+0.58	1.44	As1	泥水位
		8月1日	+0.72	1.30	As1	泥水位
		8月2日	0.11	2.13	-	泥水位
		8月3日	+0.06	1.96	As1	泥水位

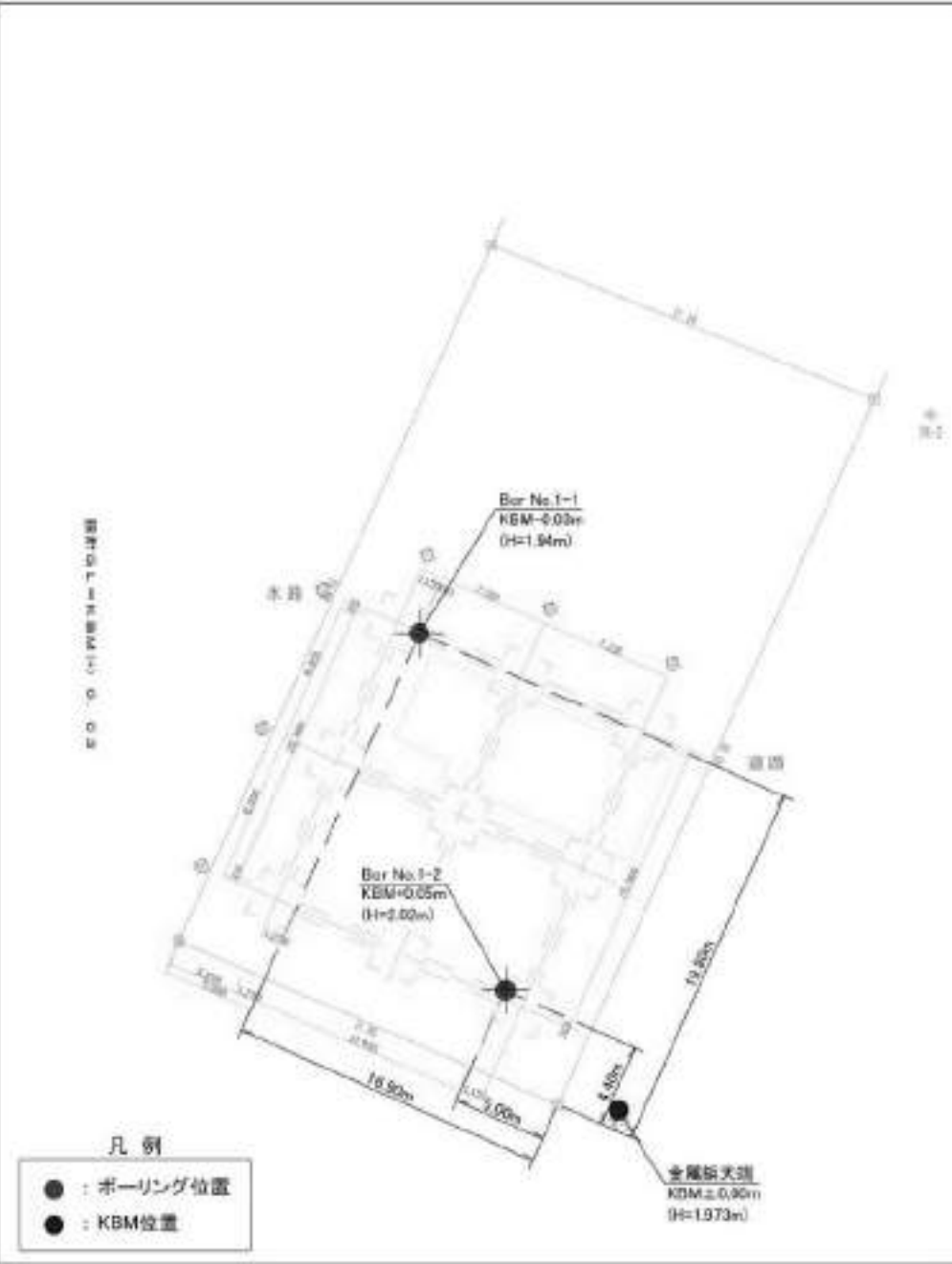
地質層序表

地質時代		地層名	記号	層厚 (m)	下底標高 H(m)	土性特徴	
新生代第四紀	完新世	浜堤堆積物	第1 砂質土層	As1	4.65～ 5.50	-3.56	細～中砂主体で、シルト分少量混在。 所々にφ2～15mm(max=20mm)の礫が点在～少量混在し、一部で砂礫状。 部分的に貝殻片少量混入。
			礫質土層	Ag	2.55～ 5.35	-8.66	礫はφ2～20mm(max=30mm)の亜円礫主体。 マトリックスは粒径不均一な砂主体。 シルト分少量～やや多く混在。 No. 1-1の中部にAs2挟在。
			第2 砂質土層	As2	2.55	-7.76	No. 1-1で確認。Ag内に挟在。 粒径やや不均一な細砂主体で、シルト分多量混在。 下層部に貝殻片少量混入。
			粘性土層	Ac	1.25～ 2.80	-10.78	硬質な粘土～シルト主体。 砂分少量混在する。 腐植物やや多く～多量混入し、部分的に炭化。
	更新世	中位段丘堆積物	礫質土層	Dg	5.39～ 5.65	-16.43	玉石混りの砂礫よりなる。 礫はφ2～30mm(max=50mm)の亜円～亜角礫主体。 マトリックスは粒径不均一な砂主体で、シルト分少量混在。 玉石はL=2～10cm程度の短柱状コアで採取され、岩種は砂岩主体。 No.1-1の上層部は玉石混入なし。



地質推定断面図(NTS)

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)



ボーリング柱状図



ボーリング柱状図



構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計
片山

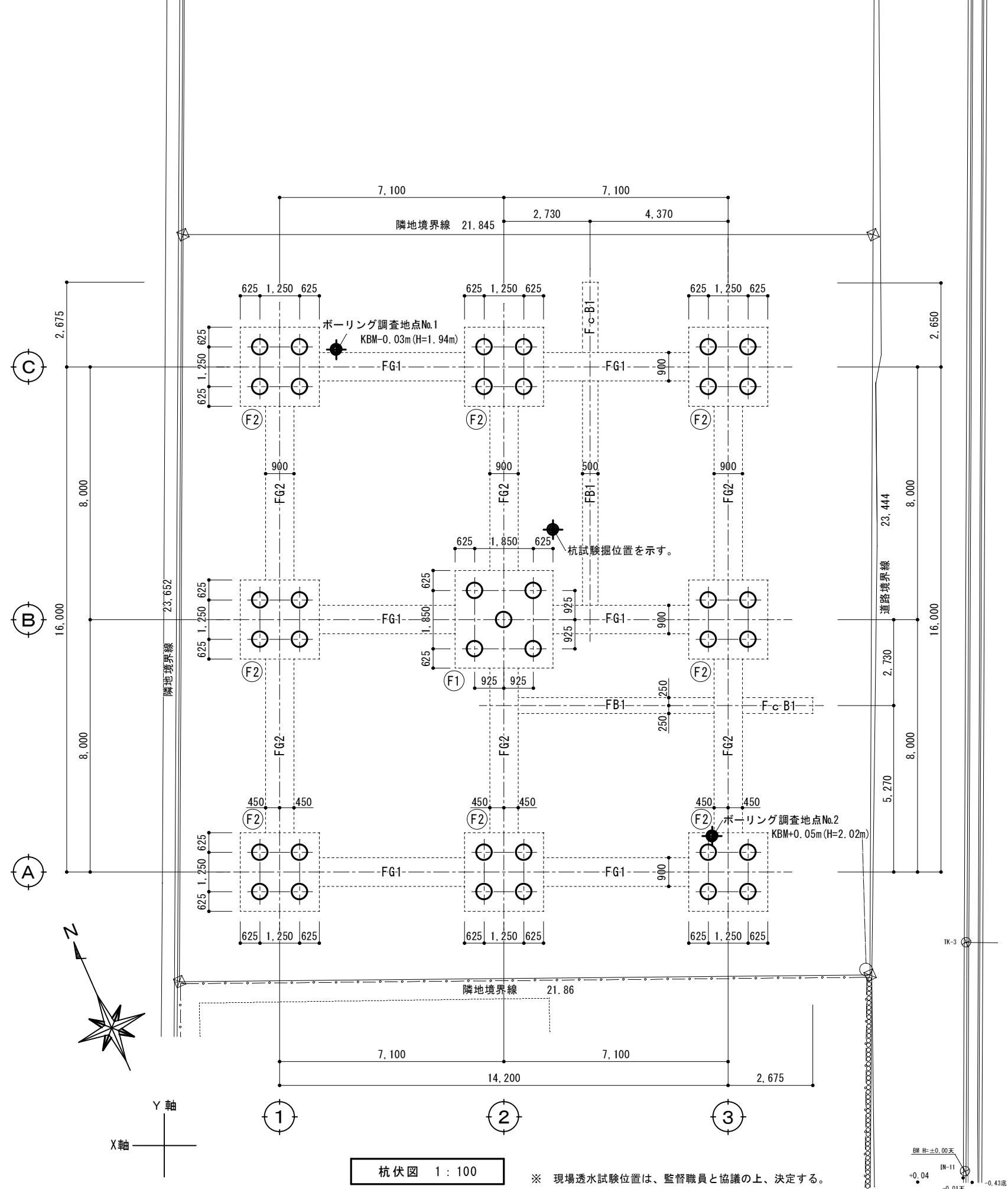
建築設計 間34
三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正司

図面名
地盤調査資料②

縮尺 A3: A2×71%

図面番号
S-12



Fc-30N D10~D16→SD295A D19以上→SD345

工法：プレボーリング拡大根固め工法
(国土交通大臣認定 平成19年10月09日 TACP-0261-0263-0494)

上杭：Hi-SC杭 (80N-SKK490) t=12.0 φ500 L= 6.0 m

下杭：CPRC杭 I種 (85N) φ500 L= 5.0 m

ΣL = 11.0 m Hi-FB (ハイフレ-)工法 ヤットコ 2.80 m

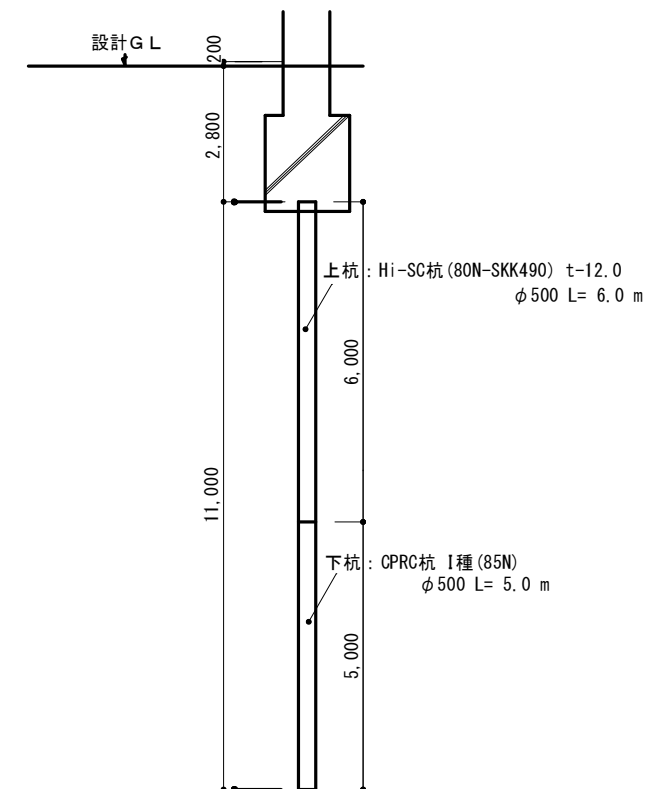
37セット

ボーリング報告書より

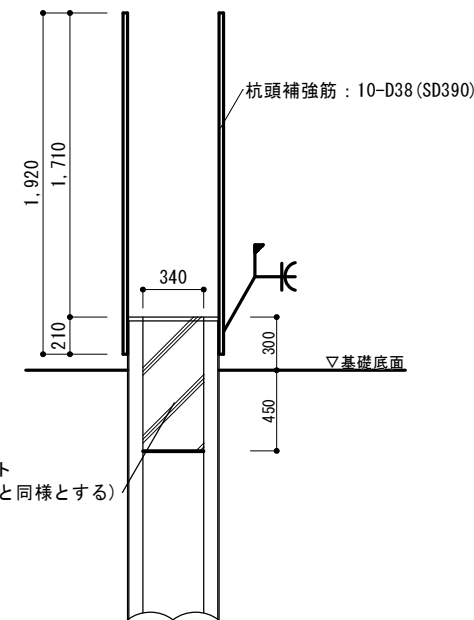
長期支持力 Ra = 1000.0 kN/本

短期支持力 Ra = 2000.0 kN/本

※試験掘位置については、施工性を考慮し協議の上、位置を定めること。



杭図 1 : 100



杭頭補強筋詳細図 1 : 30

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

※ 現場透水試験位置は、監督職員と協議の上、決定する。

訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計
片山

建築設計 間34
マシニョン
三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片山 正司

図面名
杭伏図
杭頭補強筋詳細図

縮尺
A3 : A2×71%
S=1/100
S=1/30

図面番号
S-13

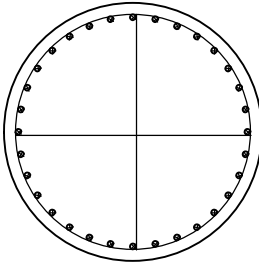
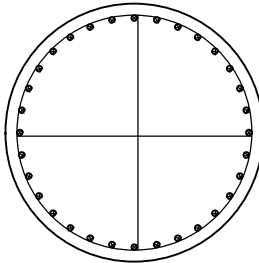
鉄筋の断面表示

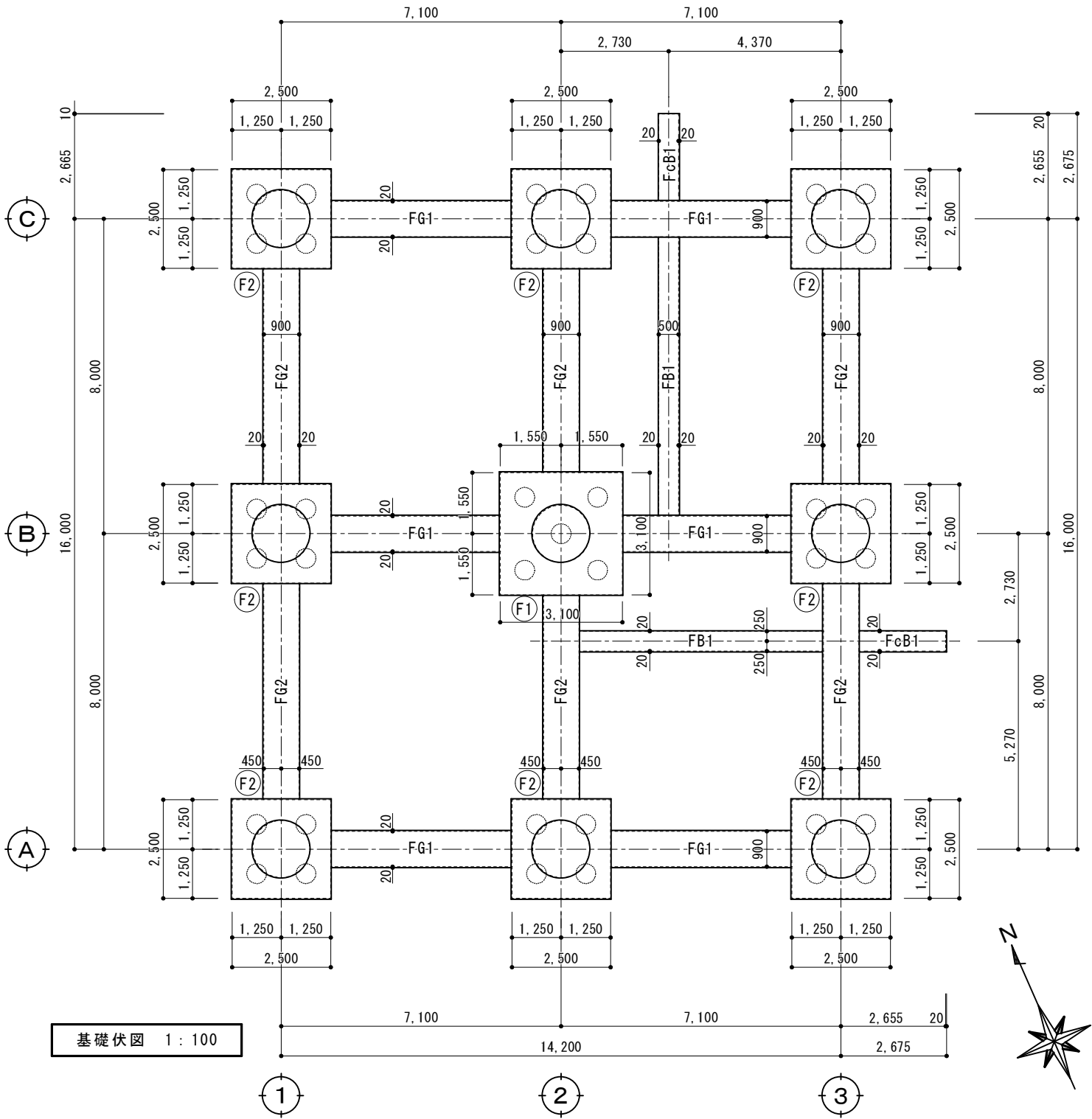
区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	✕	⌀	●	○	⊗	⊗	●

共通仕様

D10～D16	SD295	
D19～	SD345	
コンクリート設計基準強度	捨てコン	18 N/mm2
	基礎・地中梁	30 N/mm2
	土間	21 N/mm2
	柱・梁・スラブ	30 N/mm2
基礎・地中梁：増打ち厚さ20mmとする		
柱：増打ち厚さ20mmとする		

柱リスト S=1/30

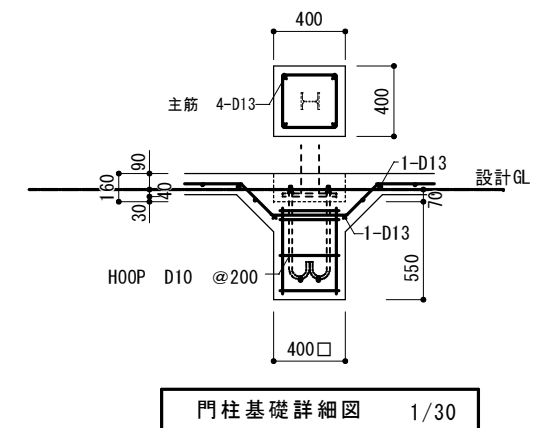
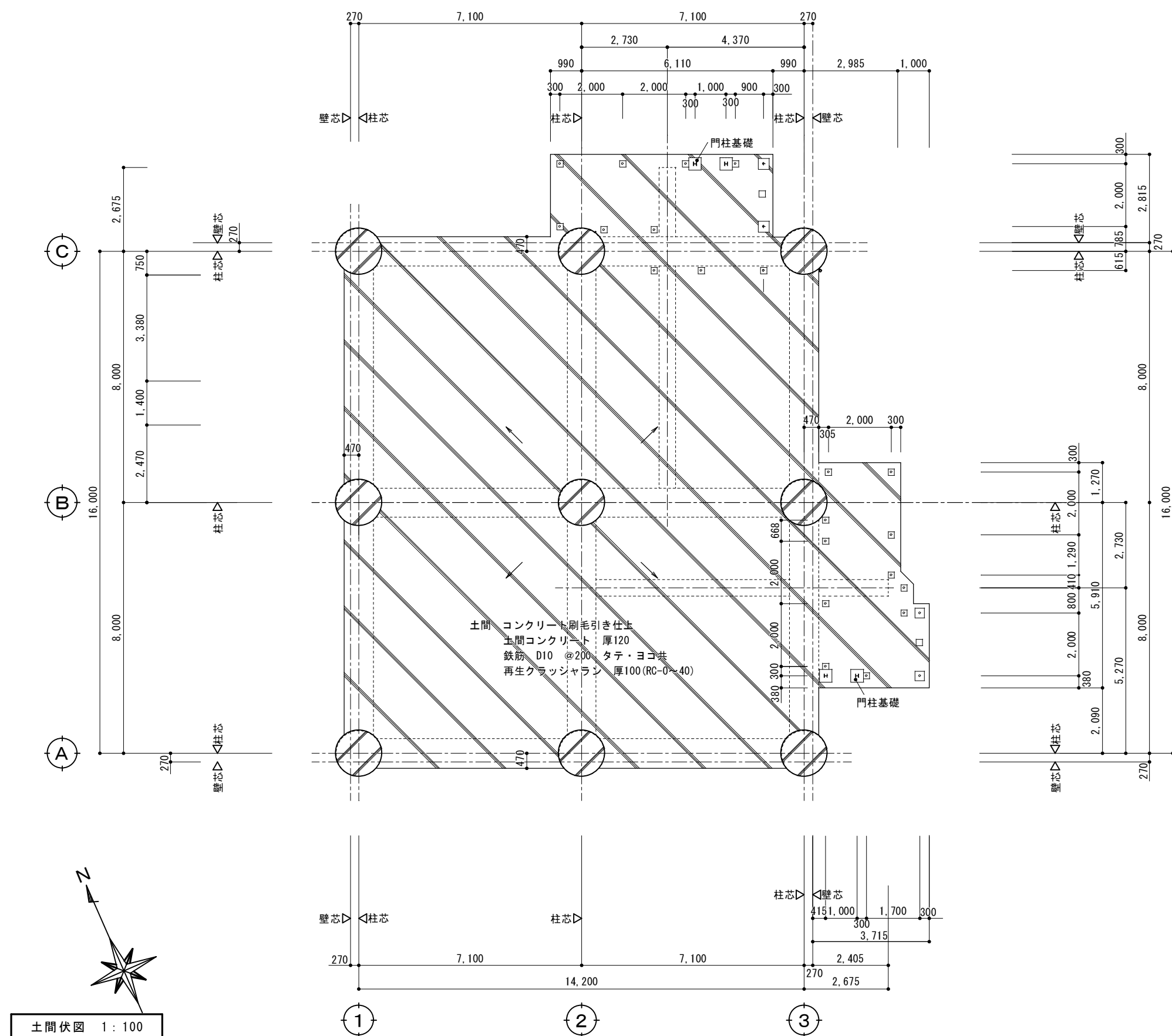
符 号	1C1	箇 所	1C1 (梁接続部分)	
箇 所	全断面	<div>1階</div> <div></div>	<div>1階</div> <div></div>	
X-Y	1,450 φ			(Hoop柱梁接合部) ⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75
主 筋	36-D29			
Hoop筋	⊕ D13 @75 丸型溶接閉鎖型フープ			
DIA筋	—			



地中梁リスト S=1/30

地中梁リスト		S=1/30		Fc-30N	D10～D16→SD295A	D19以上→SD345
梁符号	FG1	FG2	FB1	FcB1		
位 置	全断	全断	全断	全断		
	断面	900x2700	900x2700	500x1000	500x1000	
	上 筋	19-D29	19-D29	4-D25	4-D25	
	下 筋	19-D29	19-D29	4-D25	4-D25	
	腹 筋	16-D13	16-D13	4-D13	4-D13	
S T	□□D13@150	□□D13@150	D13@150	D13@150		
巾止筋	D10 @600以内	D10 @600以内	D10 @600以内	D10 @600以内		

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

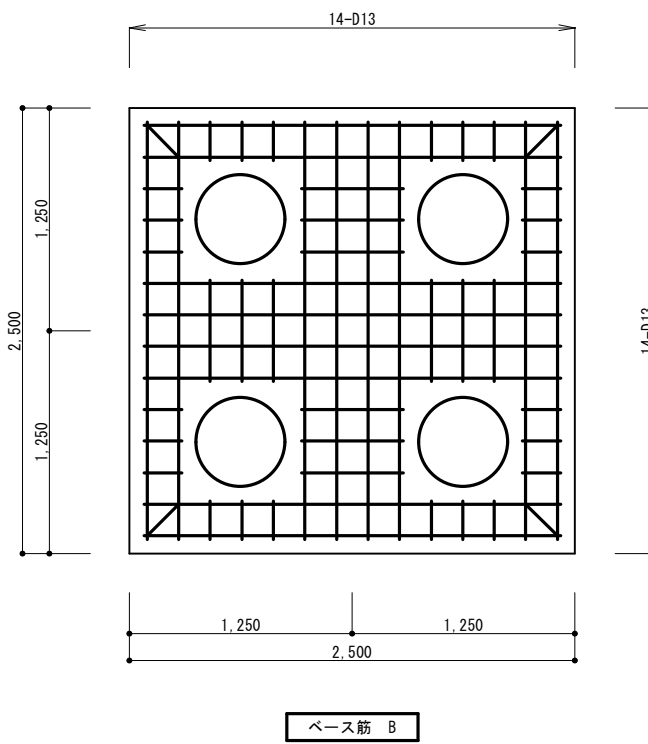
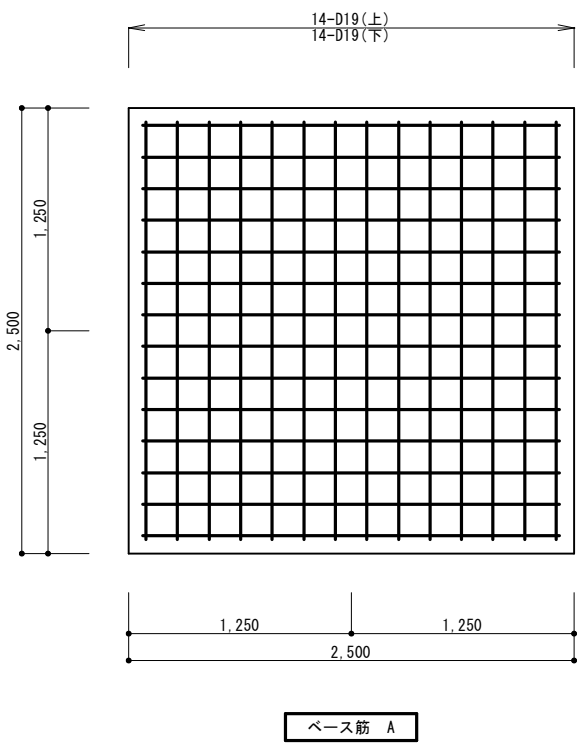
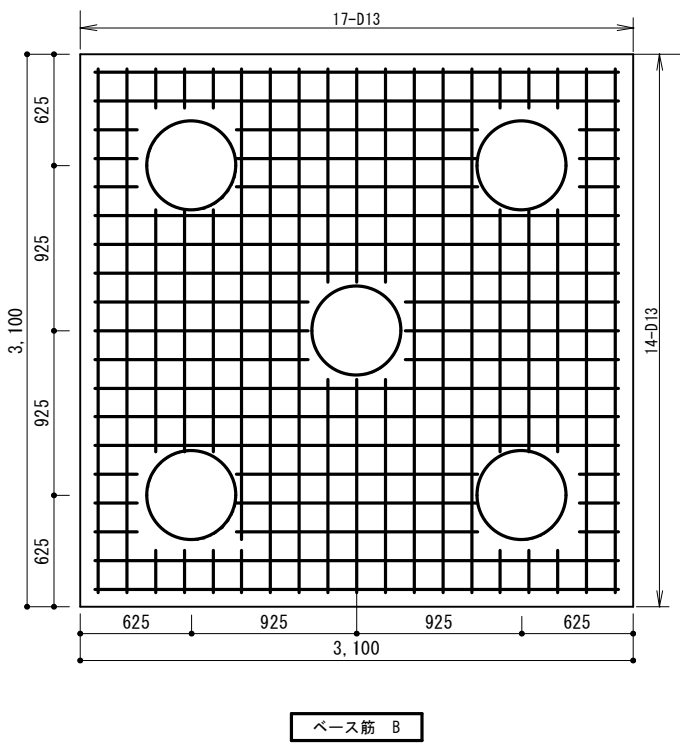
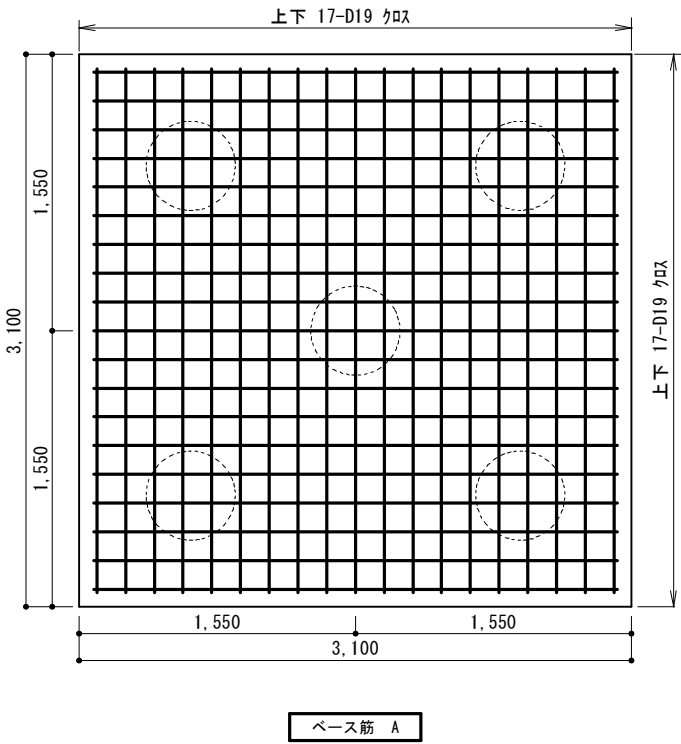
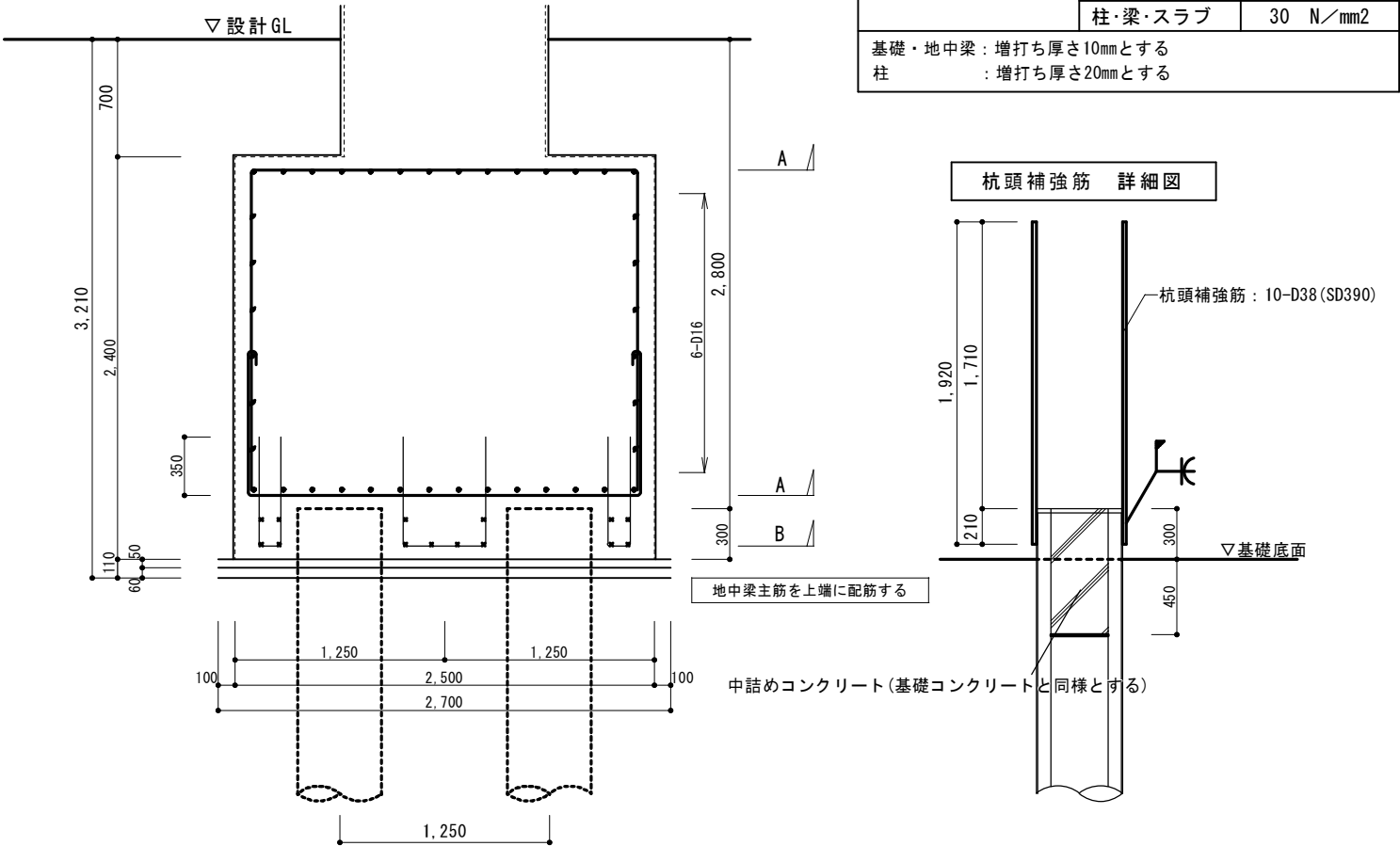
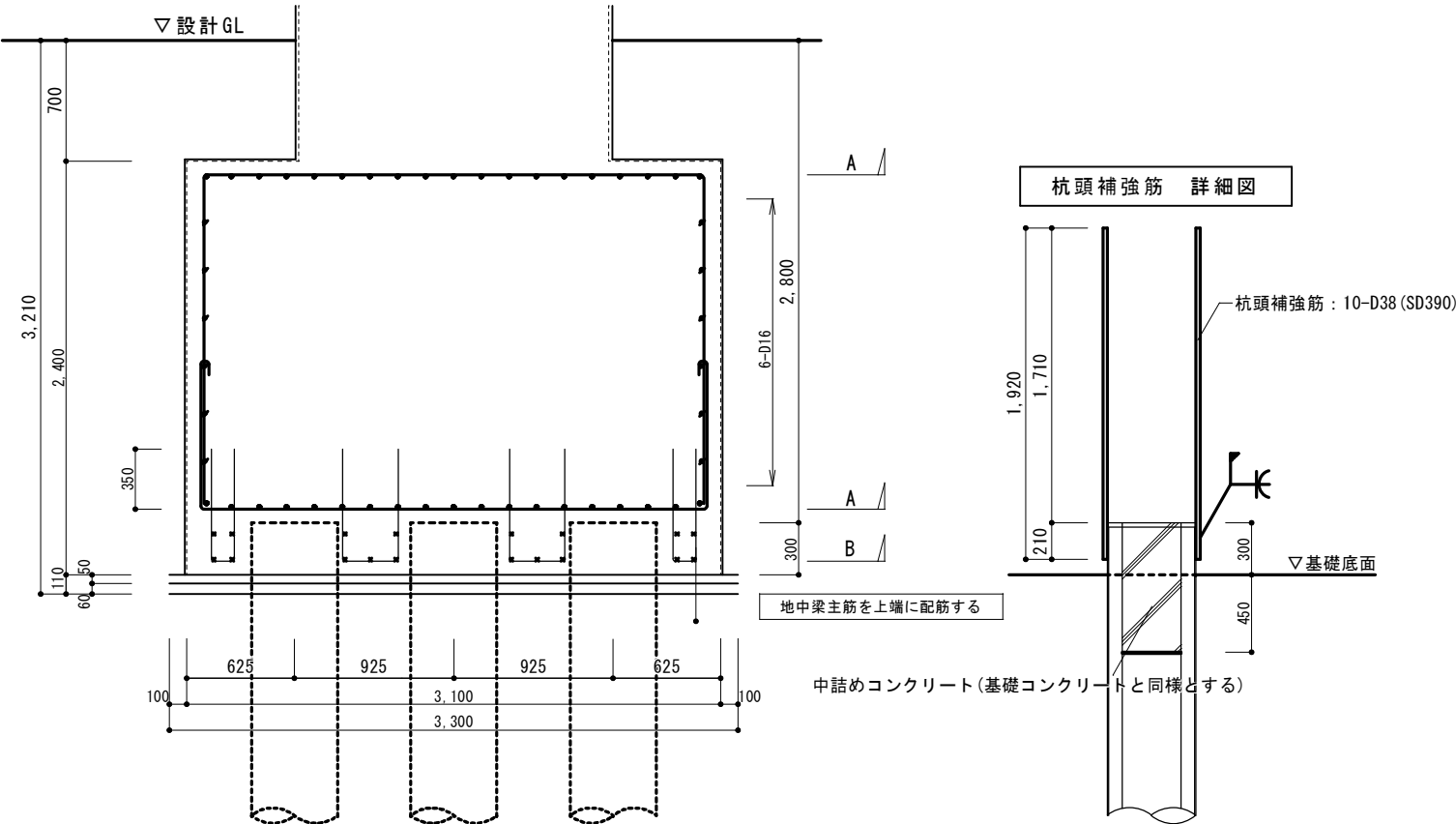


鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	×	⊙	●	○	⊙	⊗	●

共通仕様

D10～D16	SD295	
D19～	SD345	
コンクリート設計基準強度	捨てコン	18 N/mm2
	基礎・地中梁	30 N/mm2
	土間	21 N/mm2
	柱・梁・スラブ	30 N/mm2
基礎・地中梁：増打ち厚さ10mmとする		
柱：増打ち厚さ20mmとする		



構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

共通仕様

D10～D16	SD295	コンクリート設計基準強度	柱・梁・スラブ	30	N/mm ²
D19～	SD345				

鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	×	∅	●	○	⊙	⊗	●

柱リスト S=1/30

符 号	2C1
箇 所	全断面
2階	
X-Y	1,050φ
主 筋	16-D29
HOOP筋	○ 丸型溶接閉鎖型フープ D13 @100
DIA筋	—
(HOOP柱梁接合部)	丸型溶接閉鎖型フープ D13 @100

符 号	1C1
箇 所	全断面
1階	
X-Y	1,450φ
主 筋	36-D29
HOOP筋	⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75
DIA筋	—
箇 所	(梁接続部分)
1階	
(HOOP柱梁接合部)	⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75

梁リスト S=1/30

符 号	RG1	RG2		RB1	RB2	RB3
箇 所	全	全		1, 3端	中央、2端	全
R階						
断 面	450×750	450×750		300×750	300×750	200×750
上 筋	6-D29	6-D29		3-D22	4-D22	2-D16
下 筋	6-D29	6-D29		3-D22	3-D22	2-D16
腹 筋	2-D10	2-D10		2-D10	2-D10	2-D10
STP筋	D13 @150	D13 @100		D10 @200	D10 @200	D10 @200
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内		D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内
符 号	2G1	2G2	2cG1	2B1	2B2	2B3
箇 所	全	全	全	1, 3端	中央、2端	全
2階						
断 面	700×1,100	700×1,100	500×800	350×800	350×800	250×600
上 筋	12-D29	13-D29	5-D25	4-D22	5-D22	2-D19
下 筋	12-D29	13-D29	5-D25	4-D22	4-D22	2-D19
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D16 (柱へ40d以上定着する)	2-D10	2-D10	2-D10
STP筋	□-D13 @100	□-D13 @100	D13 @150	D10 @200	D10 @200	D10 @200
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内
符 号	2AG1	2AG2	2AcG1			
箇 所	全	全	全			
中間						
断 面	800×1,500	800×1,500	550×800			
上 筋	15-D29	16-D29	5-D25			
下 筋	15-D29	16-D29	5-D25			
腹 筋	10-D22 (柱へ40d以上定着する)	16-D22 (柱へ40d以上定着する)	4-D16 (柱へ40d以上定着する)			
STP筋	□-D16 @100	□-D16 @100	D13 @150			
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内			

共通

増打ち厚さ20mmとする

配筋はY方向を上端に配筋すること。

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マサンヨシ

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片 山 正 司

図面名

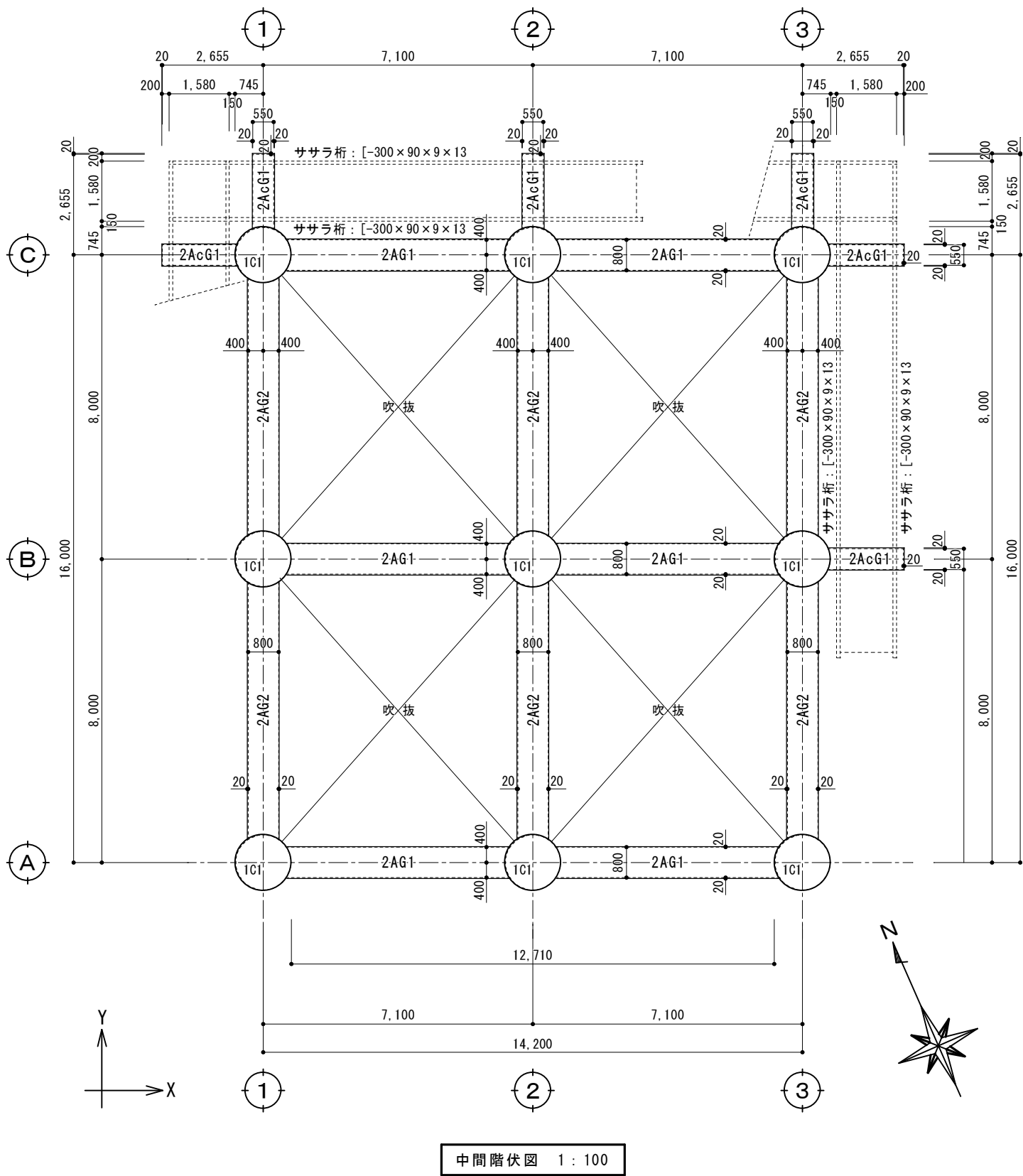
柱・梁リスト

縮 尺 A3 : A2×71%

S=1/30

図面番号

S-17



鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	φ	●	○	⊙	⊗	●

共通仕様

D10～D16	SD295	コンクリート設計基準強度	柱・梁・スラブ	30	N/mm ²
D19～	SD345				

増打ち厚さ20mmとする

配筋はY方向を上端に配筋すること。

柱リスト S=1/30

符 号	1C1	箇 所	1C1 (梁接続部分)
箇 所	全断面		
1階		1階	
X-Y	1,450 φ	(H00P柱梁接合部) ⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75	
主 筋	36-D29		
H00P筋	⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75		
DIA筋	—		

梁リスト S=1/30

符 号	2AG1	2AG2	2AcG1
箇 所	全	全	全
中間			
断 面	800×1,500	800×1,500	550×800
上 筋	15-D29	16-D29	5-D25
下 筋	15-D29	16-D29	5-D25
腹 筋	10-D22 (柱へ40d以上定着する)	16-D22 (柱へ40d以上定着する)	4-D16 (柱へ40d以上定着する)
STP筋	□-D16 @100	□-D16 @100	D13 @150
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称
令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マシン ョン
間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片 山 正 司

図面名

中 間 梁 伏 図
柱 リ ス ト
梁 リ ス ト

縮 尺 A3 : A2×71%
S=1/100
S=1/30

図面番号

S-18

鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	✕	⌀	●	○	⊙	⊙	●

共通仕様

D10～D16	SD295	コンクリート設計基準強度	柱・梁・スラブ	30	N/mm ²
D19～	SD345				

柱リスト S=1/30

符 号	1C1	箇 所	1C1 (梁接続部分)
箇 所	全断面		
1階		1階	
X-Y	1,450φ	(Hoop柱梁接合部)	⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13@75
主 筋	36-D29		
HOOP筋	⊕ 丸型溶接閉鎖型フープ D13 @75		
DIA筋	—		

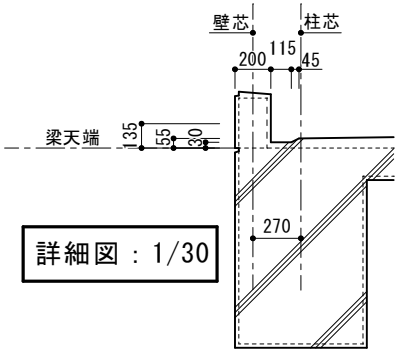
スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向			長辺方向			備 考
			端部	中央	柱列帯	端部	中央	柱列帯	
2S1	160	上端筋	D13 @150	—	—	D13 @200	—	—	
		下端筋	D10,D13 @150 (交互)	—	—	D10,D13 @200 (交互)	—	—	
2S2	160	上端筋	D13 @200	—	—	D13 @200	—	—	
		下端筋	D10,D13 @200 (交互)	—	—	D10,D13 @200 (交互)	—	—	
2CS1	160	上端筋	D13 @200	—	—	D10 @200	—	—	
		下端筋	D10 @200	—	—	D10 @200	—	—	

配筋はY方向を上端に配筋すること。

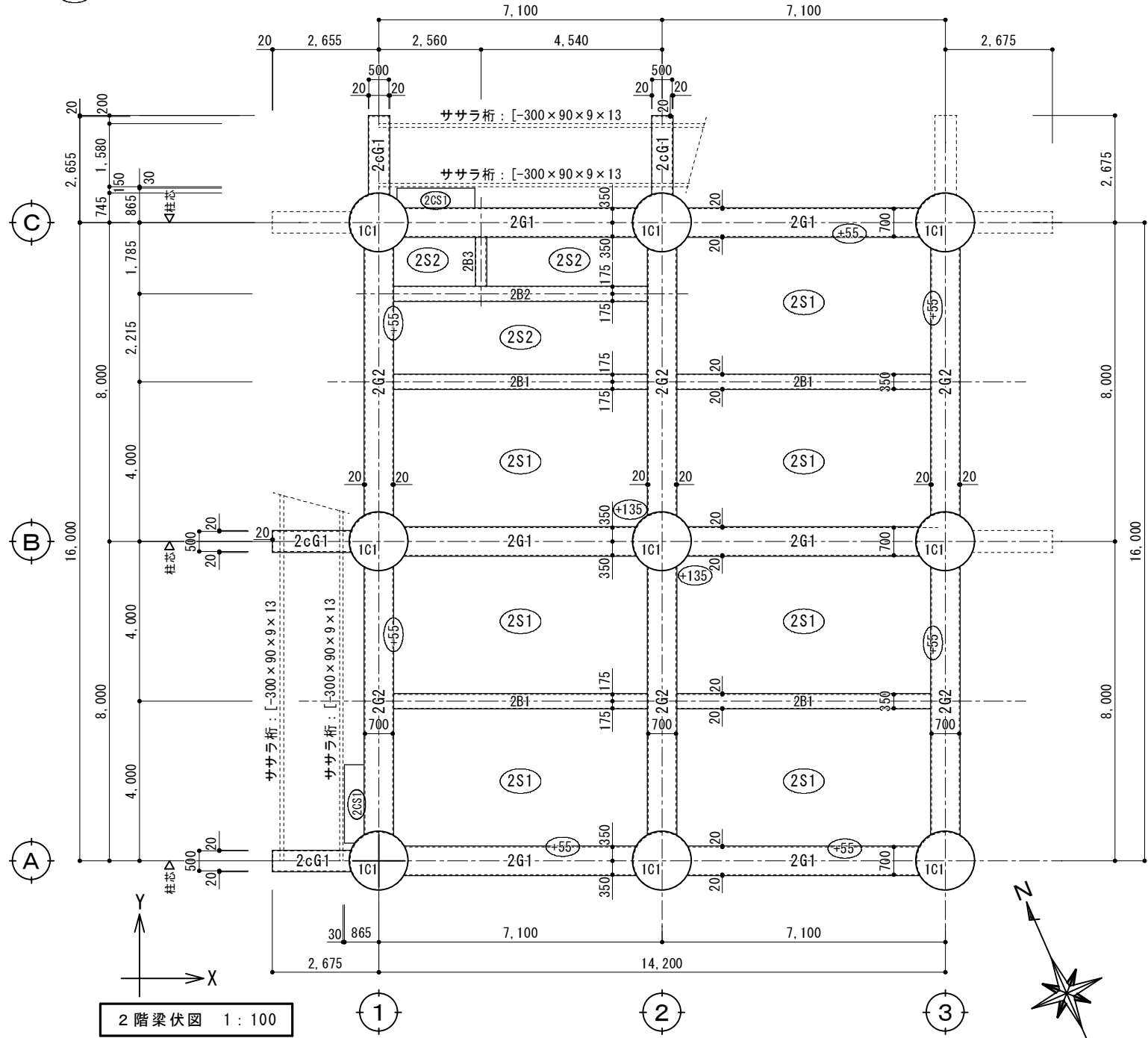
増打ち厚さ20mmとする

詳細図：1/30

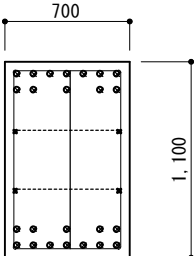
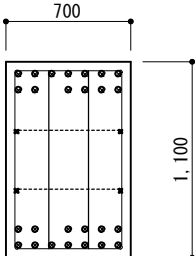
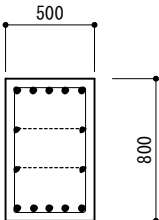


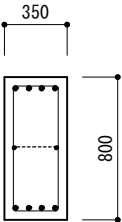
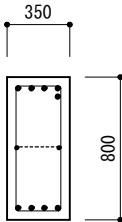
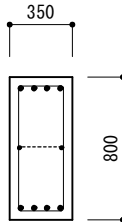
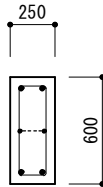
特記

- ・(+)※内レベルは梁天端からの増打ちの高さを示す



梁リスト S=1/30

符 号	2G1	2G2	2cG1
箇 所	全	全	全
2階			
断 面	700×1,100	700×1,100	500×800
上 筋	12-D29	13-D29	5-D25
下 筋	12-D29	13-D29	5-D25
腹 筋	4-D13	4-D13	4-D16 (柱へ40d以上定着する)
STP筋	□ -D13 @100	▨ -D13 @100	D13 @150
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内

符 号	2B1		2B2	2B3
箇 所	1, 3端	中央、2端	全	全
2階				
断 面	350×800		350×800	250×600
上 筋	4-D22	5-D22	4-D22	2-D19
下 筋	4-D22	4-D22	4-D22	2-D19
腹 筋	2-D10		2-D10	2-D10
STP筋	D10 @200		D10 @200	D10 @200
巾止筋	D10 @1000以内		D10 @1000以内	D10 @1000以内

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マサンヨシ

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片 山 正 司

図面名

2 階 梁 伏 図
柱 リ ス ト
梁 リ ス ト

縮 尺

A3 : A2×71%
S=1/100
S=1/30

図面番号

S-19

鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	✕	⌀	●	○	⊙	⊗	●

共通仕様

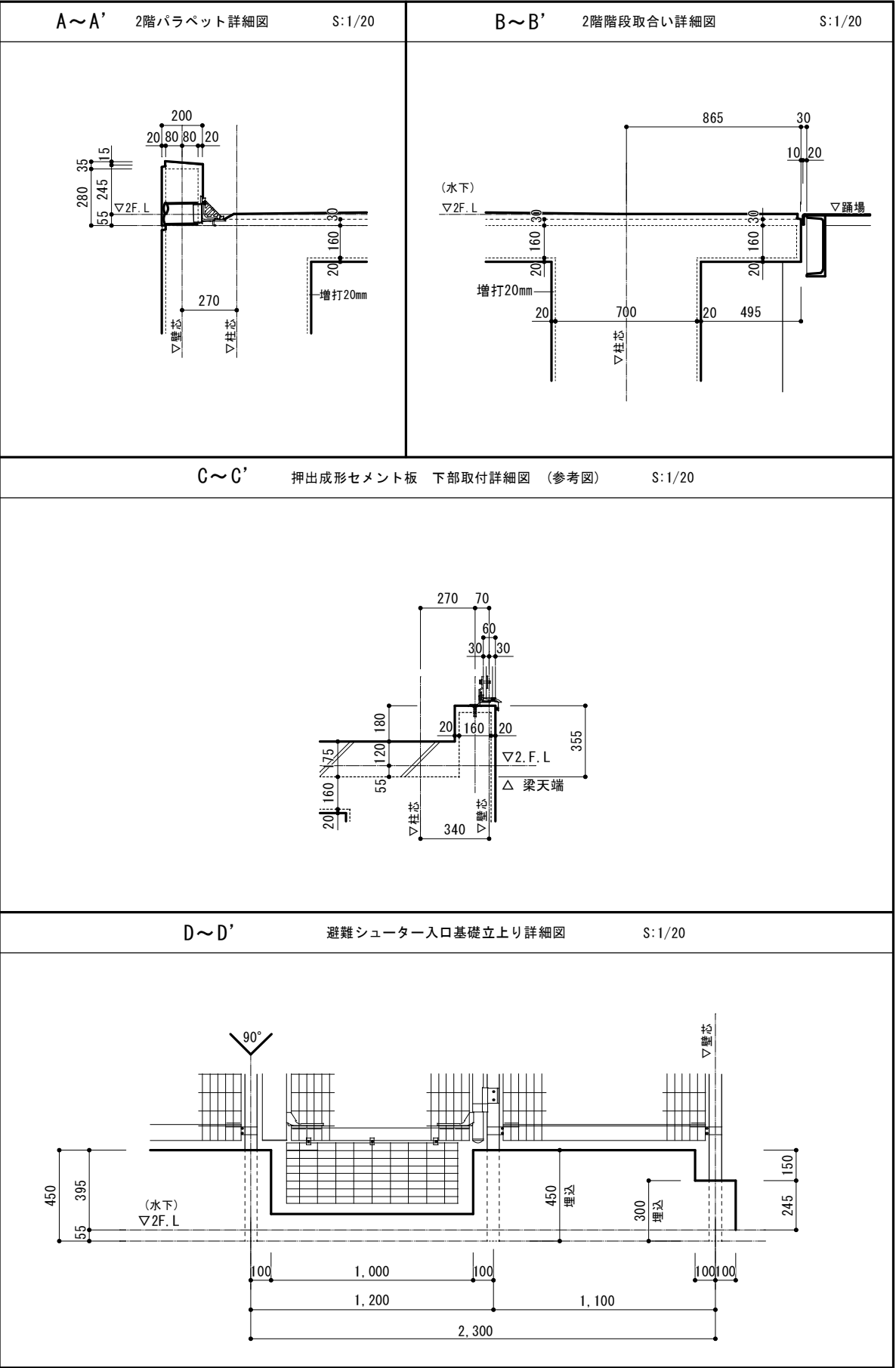
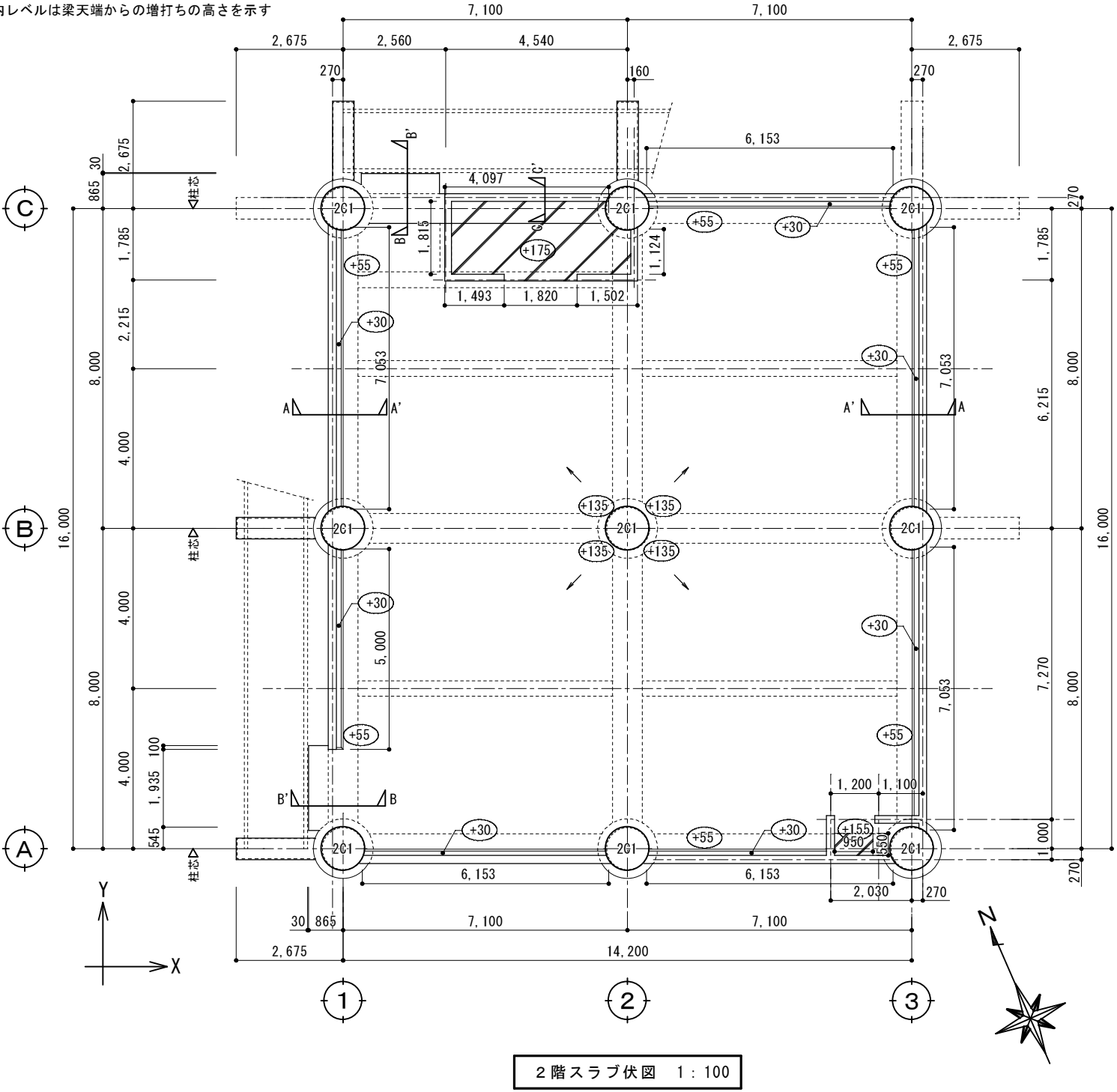
D10～D16	SD295	コンクリート設計基準強度	柱・梁・スラブ	30	N/mm ²
D19～	SD345				

増打ち厚さ20mmとする

配筋はY方向を上端に配筋すること。

特 記

・(+)※内レベルは梁天端からの増打ちの高さを示す



構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マンション

間34

三重県知事登録

第1-2154号

一級建築士 大臣登録

第195765号

片 山

正 司

図面名

2 階スラブ伏図
各 詳 細 図

縮 尺

A3 : A2 × 71%
S=1/100
S=1/30

図面番号

S-20

鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建 築		●	✕	⌀	●	○	⊙	⊗	●

共通仕様

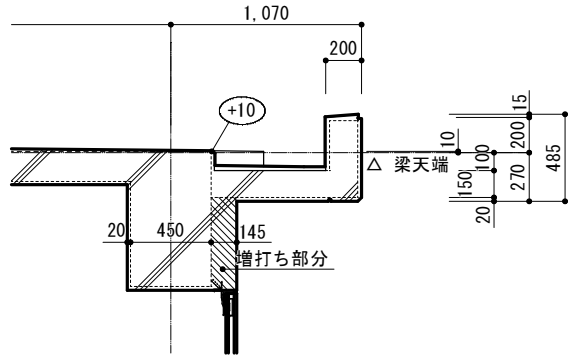
D10～D16	SD295	コンクリート設計基準強度	柱・梁・スラブ	30	N/mm ²
D19～	SD345				

増打ち厚さ20mmとする

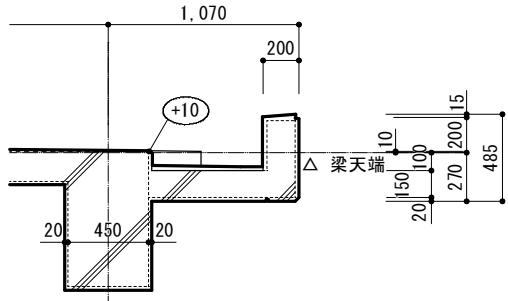
配筋はY方向を上端に配筋すること。

スラブリスト

符号	厚さ	位置	短辺方向			長辺方向			備 考
			端部	中央	柱列帯	端部	中央	柱列帯	
RS1	160	上端筋	D13 @200	――	――	D13 @200	――	――	
		下端筋	D10,D13 @200 (交互)	――	――	D10,D13 @200 (交互)	――	――	
RCS1	150	上端筋	D13 @200	――	――	D10 @200	――	――	
		下端筋	D10 @200	――	――	D10 @200	――	――	



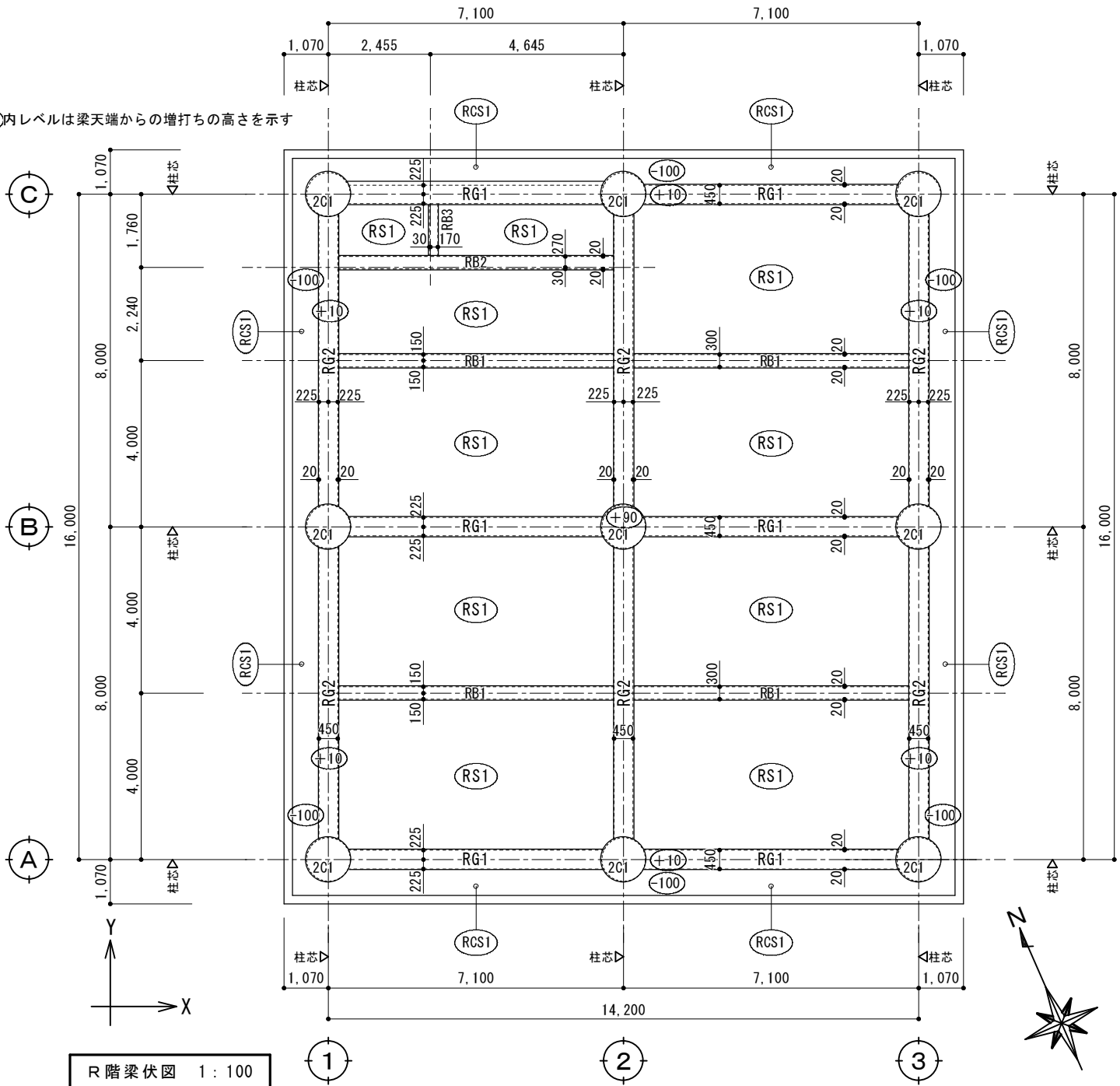
底詳細図 1 : 30



底詳細図 1 : 30

特記

・(※)内レベルは梁天端からの増打ちの高さを示す



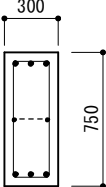
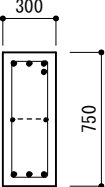
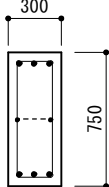
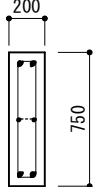
R階梁伏図 1 : 100

柱リスト S=1/30

符 号	2C1
箇 所	全断面
2階	
X-Y	1,050φ
主 筋	16-D29
H00P筋	丸型溶接閉鎖型フープ D13 @100
DIA筋	――
(H00P柱梁接合部)	丸型溶接閉鎖型フープ D13 @100

梁リスト S=1/30

符 号	RG1	RG2
箇 所	全	全
R階		
断 面	450×750	450×750
上 筋	6-D29	6-D29
下 筋	6-D29	6-D29
腹 筋	2-D10	2-D10
STP筋	D13 @150	D13 @100
巾止筋	D10 @1000以内	D10 @1000以内

符 号	RB1		RB2	RB3
箇 所	1, 3端	中央、2端	全	全
R階				
	断 面 300 × 750		300 × 750	200 × 750
	上 筋 3-D22	4-D22	3-D22	2-D16
	下 筋 3-D22	3-D22	3-D22	2-D16
	腹 筋 2-D10	2-D10	2-D10	2-D10
STP筋 D10 @200	D10 @200	D10 @200	D10 @200	
巾止筋 D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内	D10 @1000以内	

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マサンヨン

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士

大臣登録

第195765号

片 山 正 司

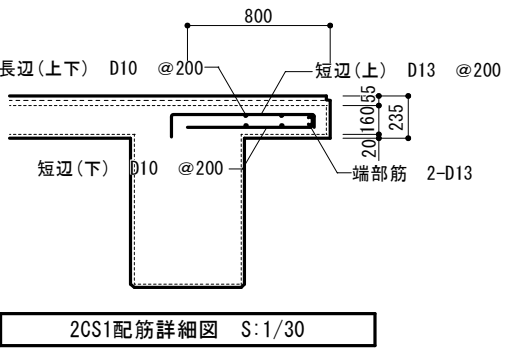
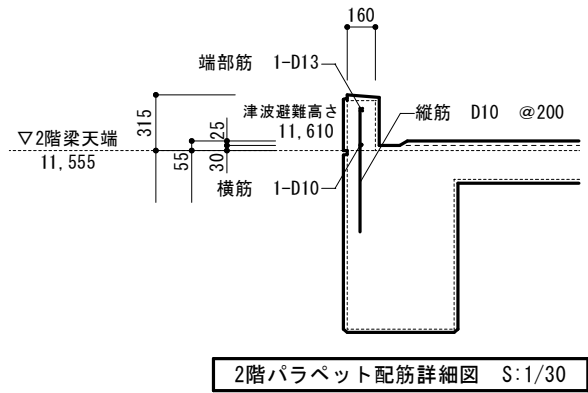
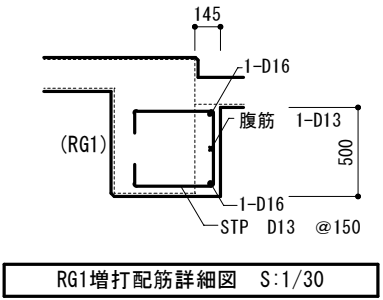
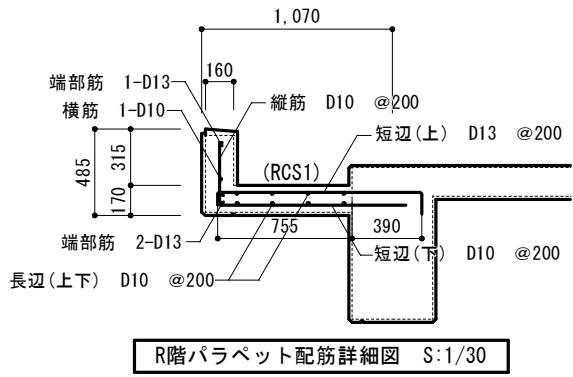
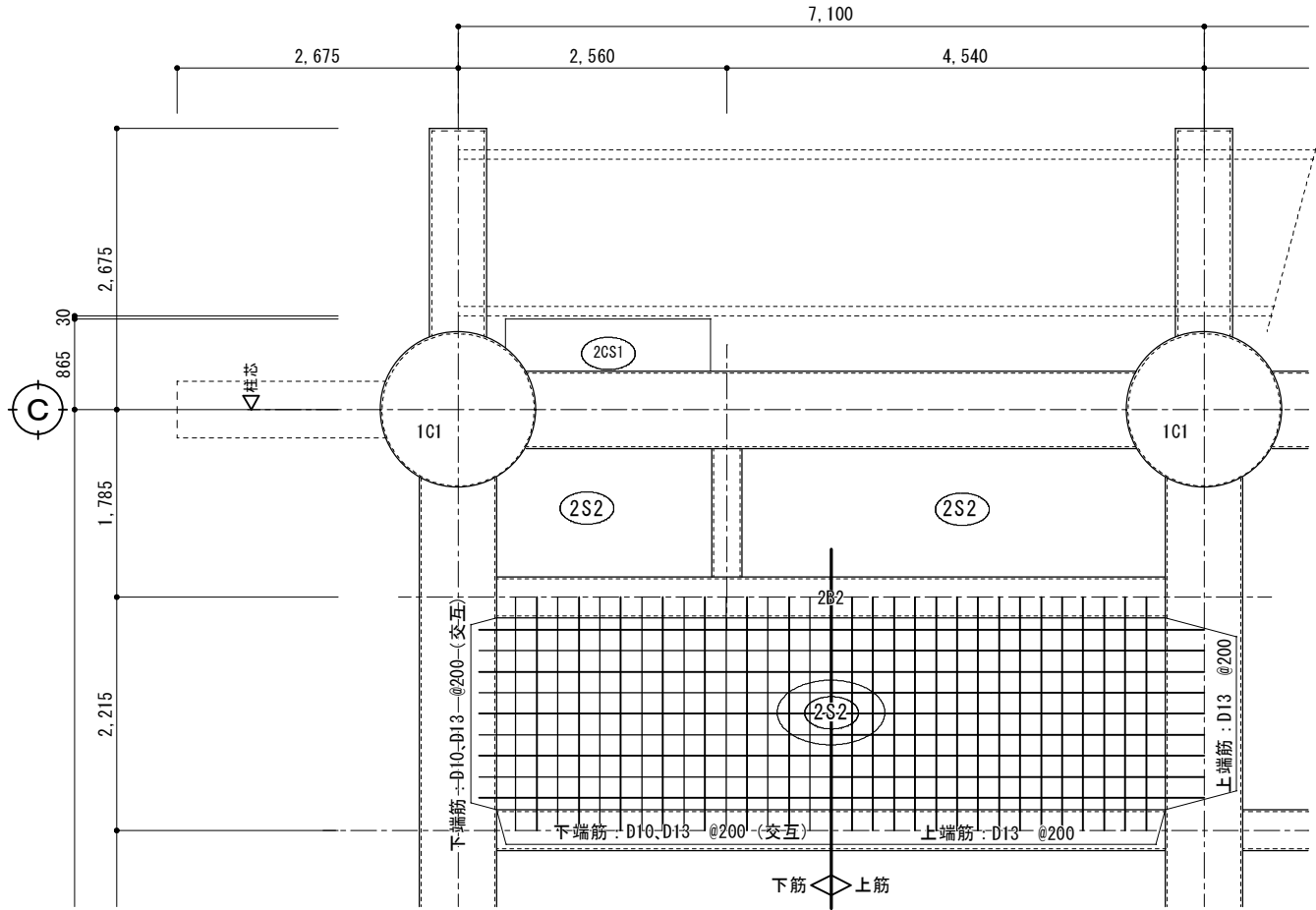
図面名

R 階 梁 伏 図
柱 リ ス ト
梁 リ ス ト

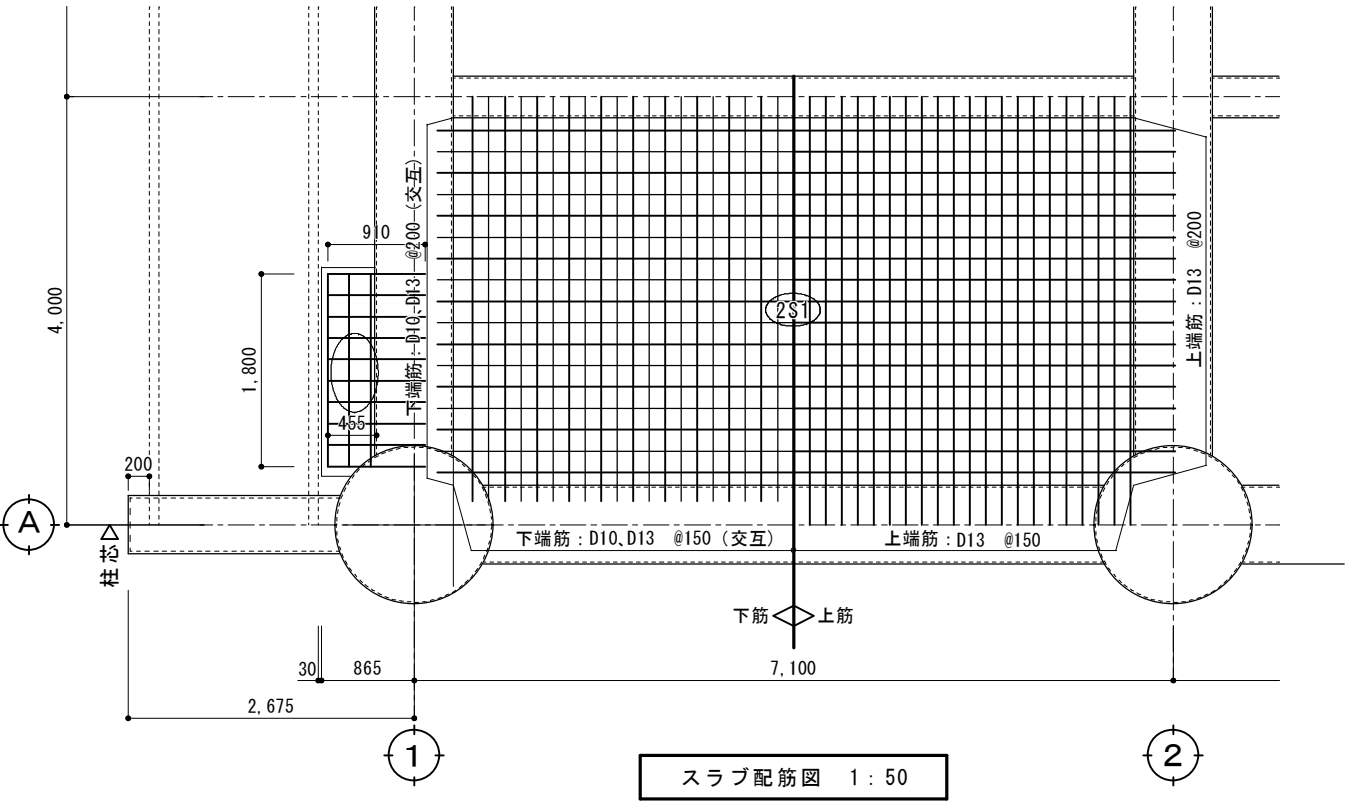
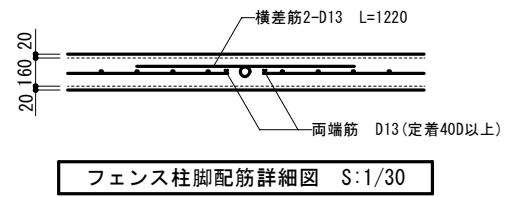
縮 尺 A3 : A2×71%
S=1/100
S=1/30

図面番号

S-21



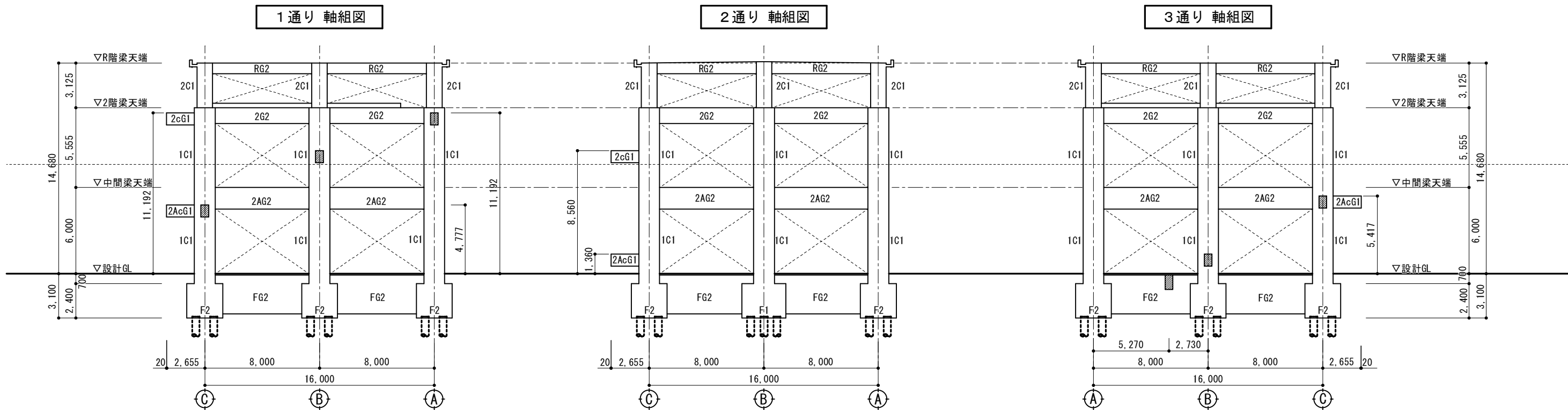
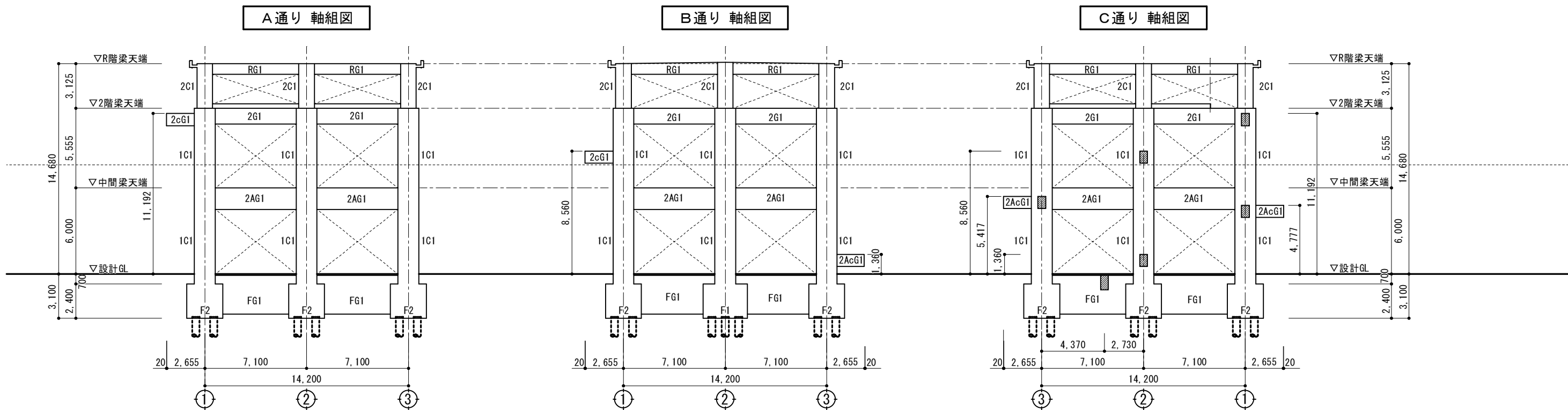
倉庫基礎立上りについても同配筋とする。



スラブリスト

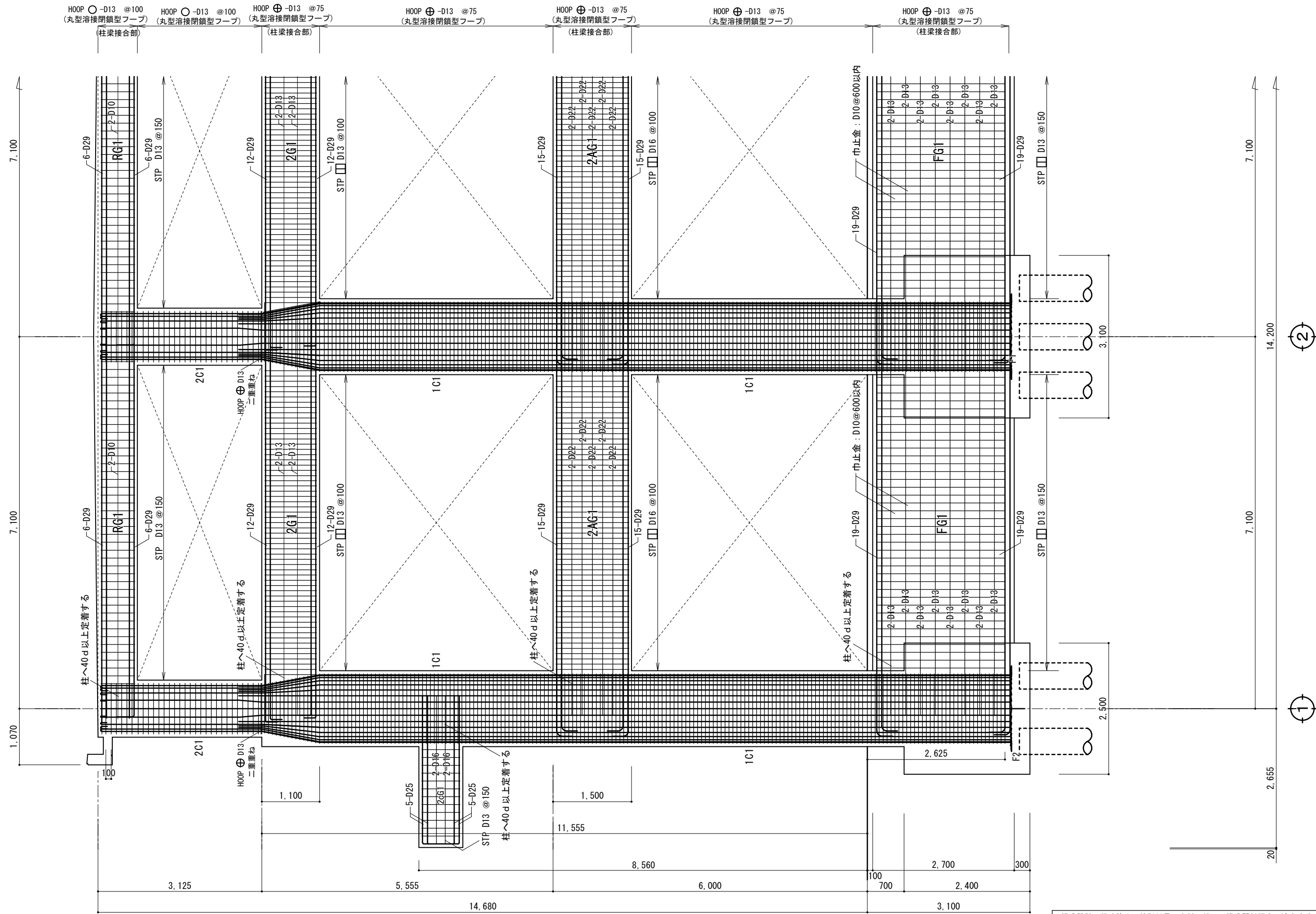
符号	厚さ	位置	短辺方向			長辺方向			備考
			端部	中央	柱列帯	端部	中央	柱列帯	
RS1	160	上端筋	D13 @200	――	――	D13 @200	――	――	
		下端筋	D10、D13 @200 (交互)	――	――	D10、D13 @200 (交互)	――	――	
RCS1	150	上端筋	D13 @200	――	――	D10 @200	――	――	
		下端筋	D10 @200	――	――	D10 @200	――	――	
2S1	160	上端筋	D13 @150	――	――	D13 @200	――	――	
		下端筋	D10、D13 @150 (交互)	――	――	D10、D13 @200 (交互)	――	――	
2S2	160	上端筋	D13 @200	――	――	D13 @200	――	――	
		下端筋	D10、D13 @200 (交互)	――	――	D10、D13 @200 (交互)	――	――	
2CS1	160	上端筋	D13 @200	――	――	D10 @200	――	――	
		下端筋	D10 @200	――	――	D10 @200	――	――	

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

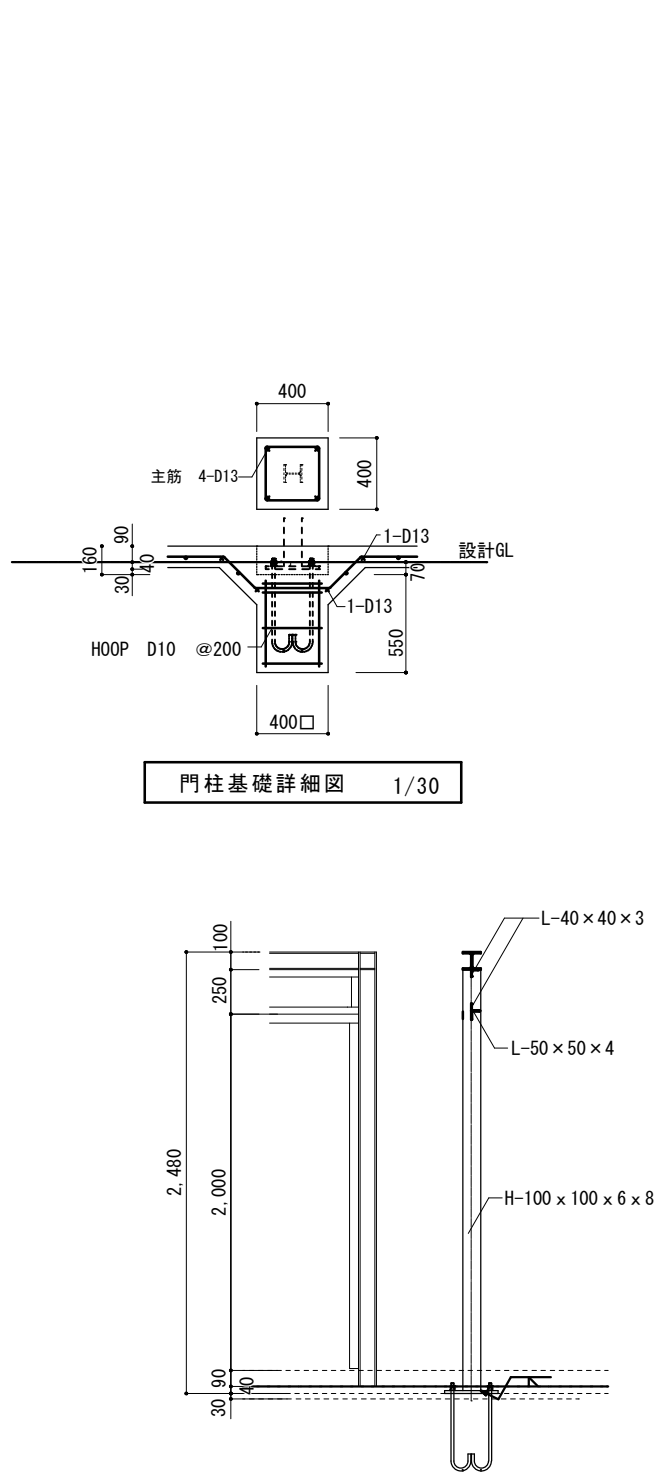


構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

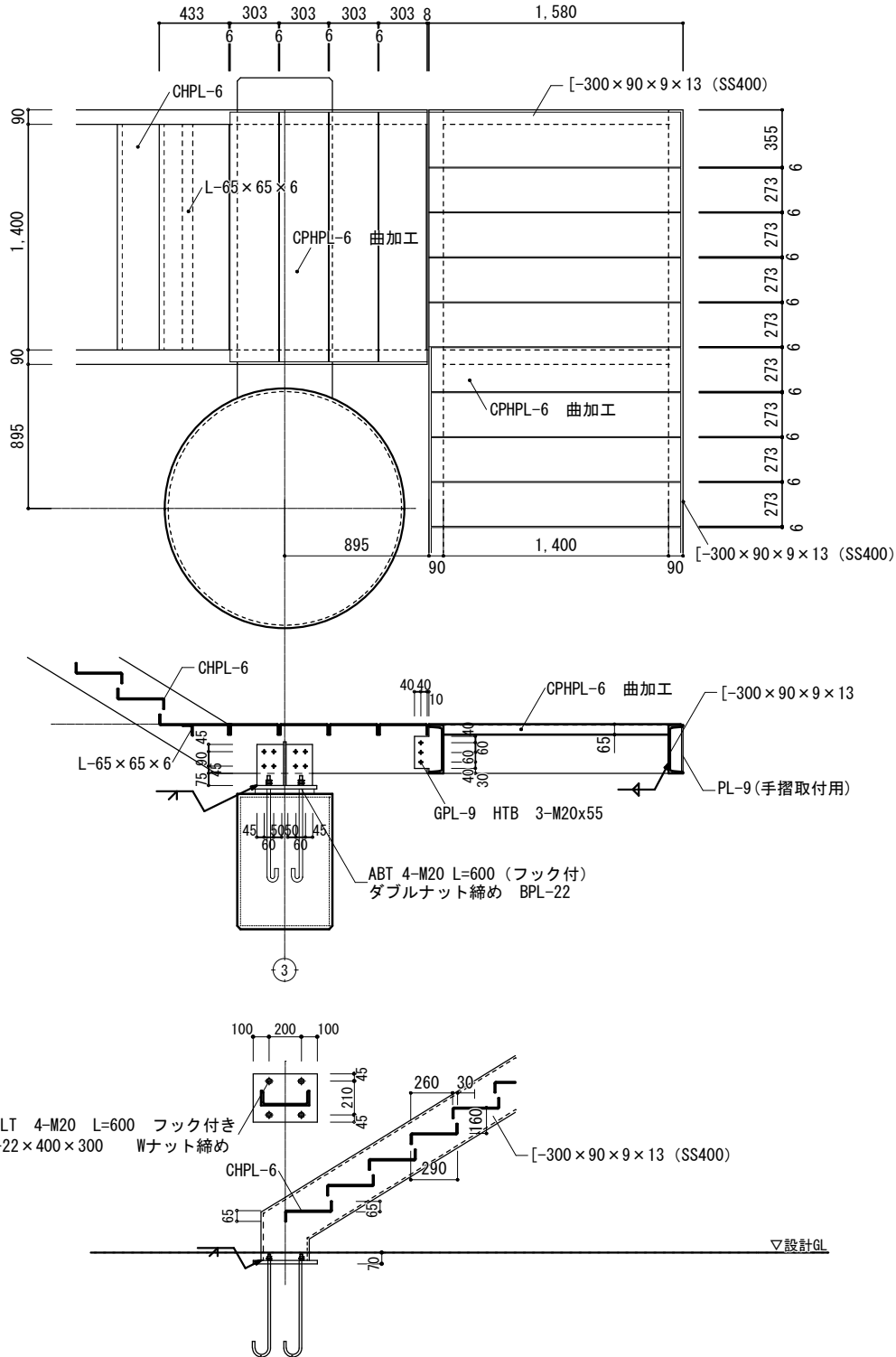
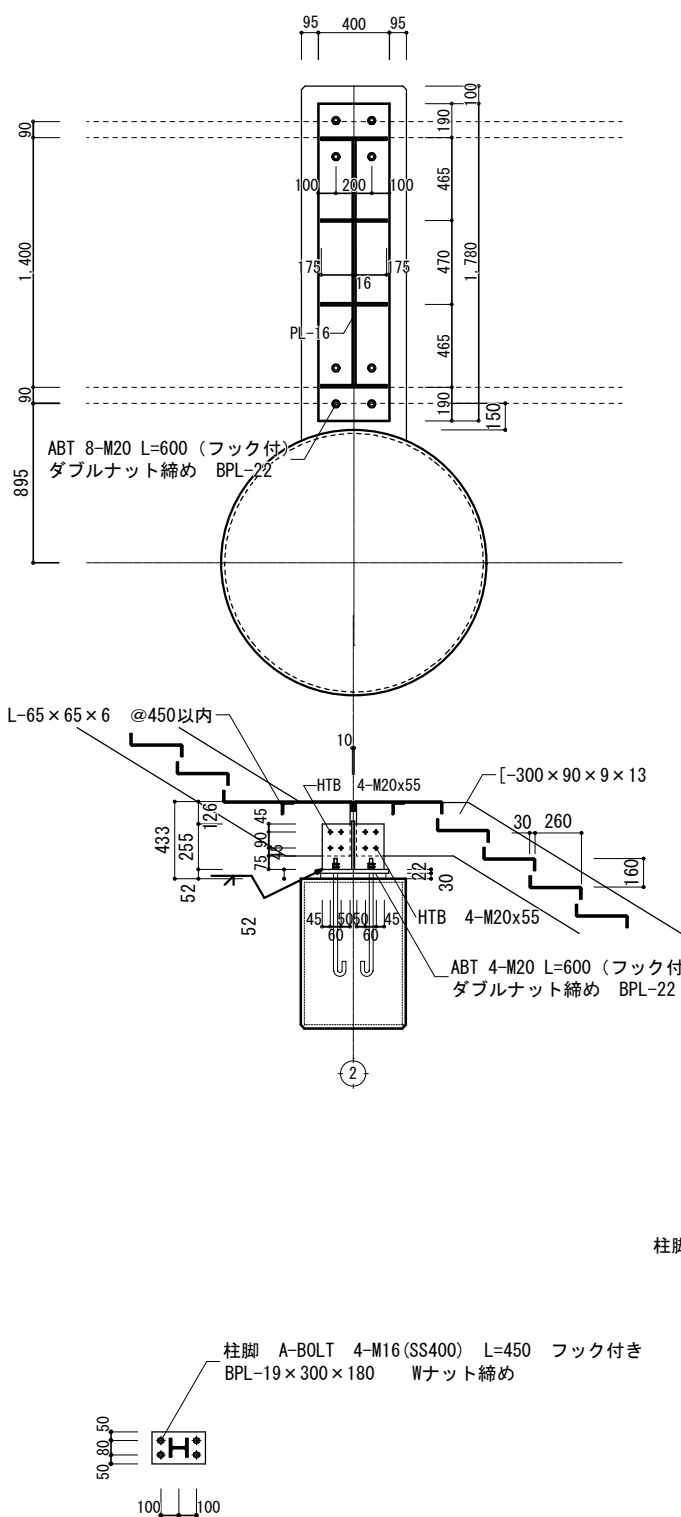
訂正	工事名称 令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図	設計 片山	建築設計 間34 マシンヨン	三重県知事登録 第1-2154号	一級建築士 大臣登録 第195765号 片山 正司	図面名 軸組図	縮尺 A3 : A2×71% S=1/200	図面番号 S-23
----	-------------------------------------	----------	-------------------	------------------	------------------------------	------------	------------------------------	--------------



構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)



門柱基礎詳細図 1/30



符 号	寸 法	材 質	接 合	フランジ	ウェブ	備 考
階段ササラ桁	[-300×90×9×13	SS400	ピン接合		G. PL-9 HTB 4-M20 (G. PL-9 HTB 3-M20)	
			(ササラベース)	柱脚 : A-BOLT 4-M20 L=600 (SS400) フック付き BPL-22×400×300 Wナット締め		BPL SN490C
			(階段ベース)	柱脚 : A-BOLT 8-M20 L=600 (SS400) フック付き BPL-22×400×1780 Wナット締め		BPL SN490C
床版(階段・踊場)	CHPL-6	SS400	溶接			
門柱	H-100×100×6×8	SS400	溶接	柱脚 : A-BOLT 4-M16 (SS400) L=450 フック付き BPL-19×300×180 Wナット締め		BPL SN490C
○ 階段手摺取付	[-200×80×7.5×11	SS400	溶接			
特殊高力ボルト	HTB F8T					
補強プレート・GPL	PL-9、PL-12、PL-16	SN400B	溶接			
表面処理方法	溶融亜鉛めっき HDZT77	門柱、支柱、プレートを含む全ての鋼材				

構造設計一級建築士 第7028号 中村 雄 (構造関係規定に適合することを確認)

訂正

工事名称

令和5・6年度 国府地区①津波避難施設新築工事 設計図

設計

片 山

建築設計

マサンヨン

間34

三重県知事登録 第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号
片 山 正 司

図面名

鉄 骨 詳 細 図







縮 尺 A3 : A2×71%

S=1/30

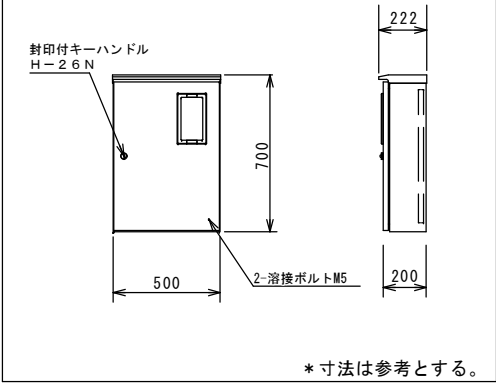
図面番号

S-25

凡 例

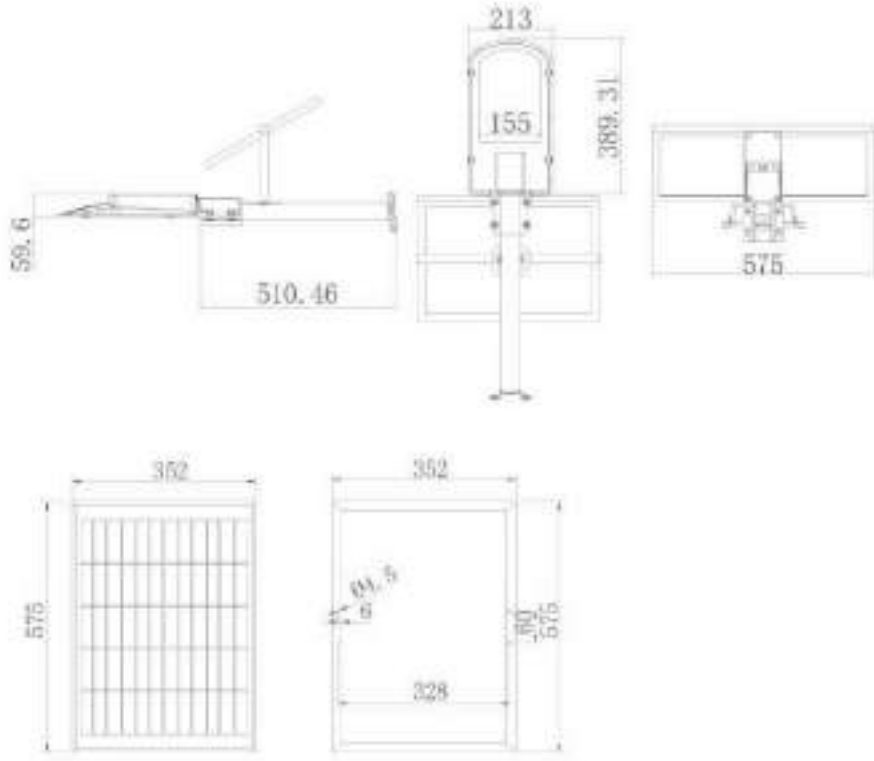
記 号	名 称
	L-1 引き込み開閉器盤
	配管・配線 立上り、立下り
	接地工事
	ベースライト防水型
	ソーラー照明：SML-3512(楕シゲン) 相当
	接地ダブルコンセント

SUS製

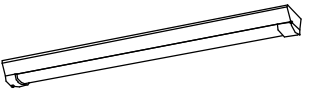


L-1 寸法図(参考)

ソーラー照明：5V30W・RS3012（参考品番）



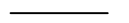
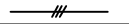

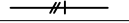
(A) 直付形 防湿型・防雨型 W150

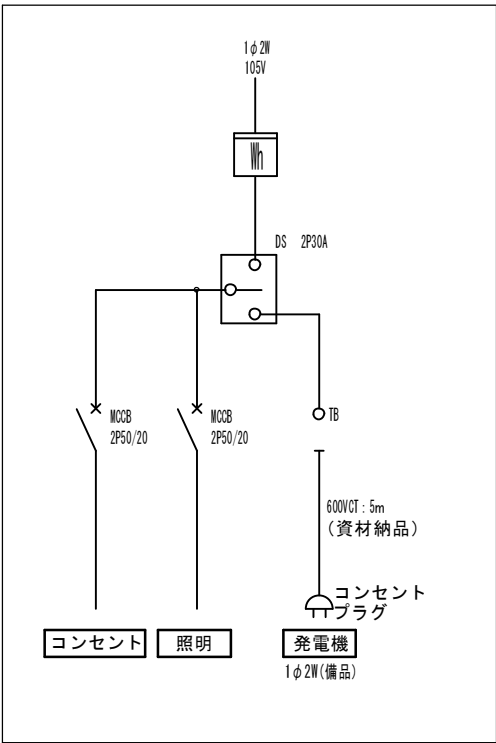


一般タイプ、3200lmタイプ
消費電力20.6W、定格出力型、電圧100～242V
本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー・ポリカーボネート（乳白）＋アクリルコーティング
光源寿命40000時間（光束維持率85%）
IP23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

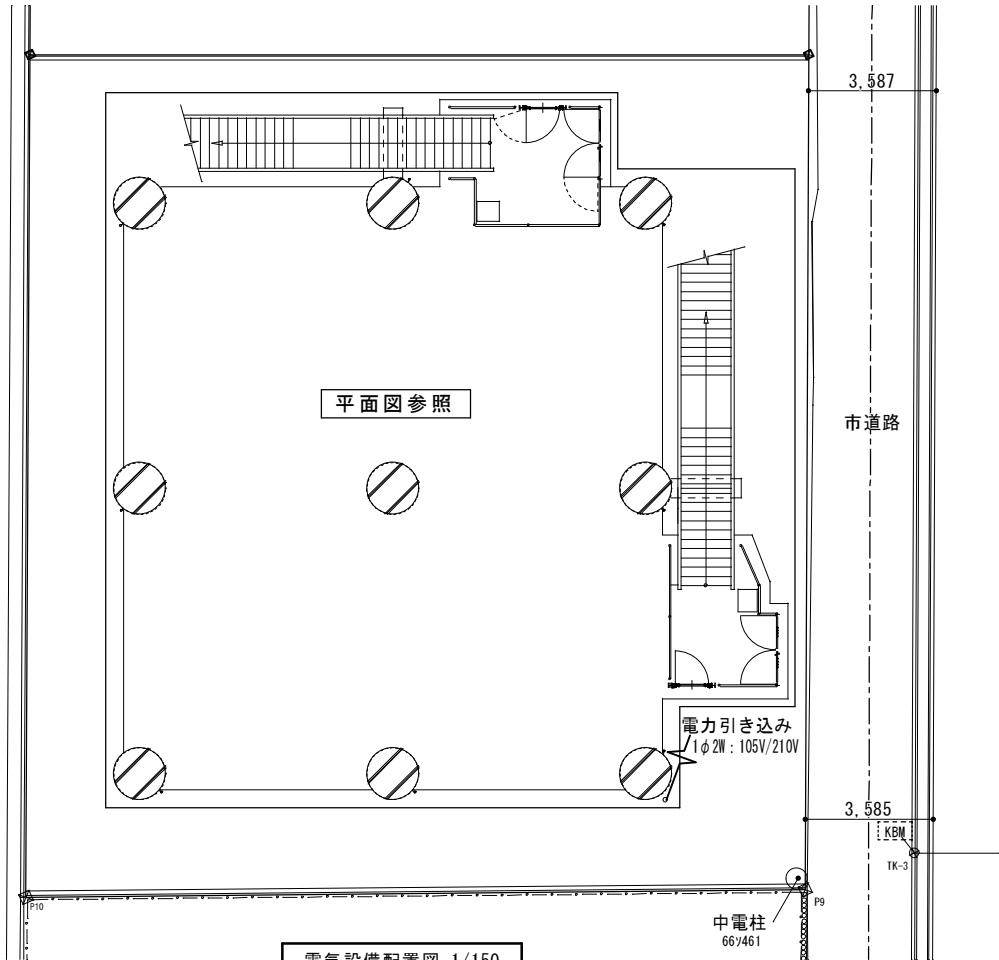
XLW433AENZLE9

（注記）

（１）図中特記なき配管配線は下記による。	（２）配線器具、プレートはワイド型とする。
 VVF1.6-2C(IE16)	
 VVF1.6-3C(IE16)	
 VVF1.6-2C x 2(IE16)	（３）ランプ色は打合せにより決定する。
 VVF2.0-3C(IE22)	
但し、二重天井内はケーブル配線とする。	



L-1 単線結線図



電気設備配置図 I/150

(A)

直付形 防湿型・防雨型 W150

一般タイプ、3200lmタイプ
消費電力20.6W、定格出力型、電圧100~242V
本体：ステンレス（高反射白色粉体塗装）
防湿型・防雨型ライトバー：ポリカーボネート（乳白）+アクリルコーティング
光源寿命4000時間（光束維持率85%）
1P23防湿型、昼白色（5000K）、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

XLW433AENZLE9

(注記)

(1) 図中特記なき配管配線は下記による。

VVF1.6-2C(VE16)

VVF1.6-3C(VE16)

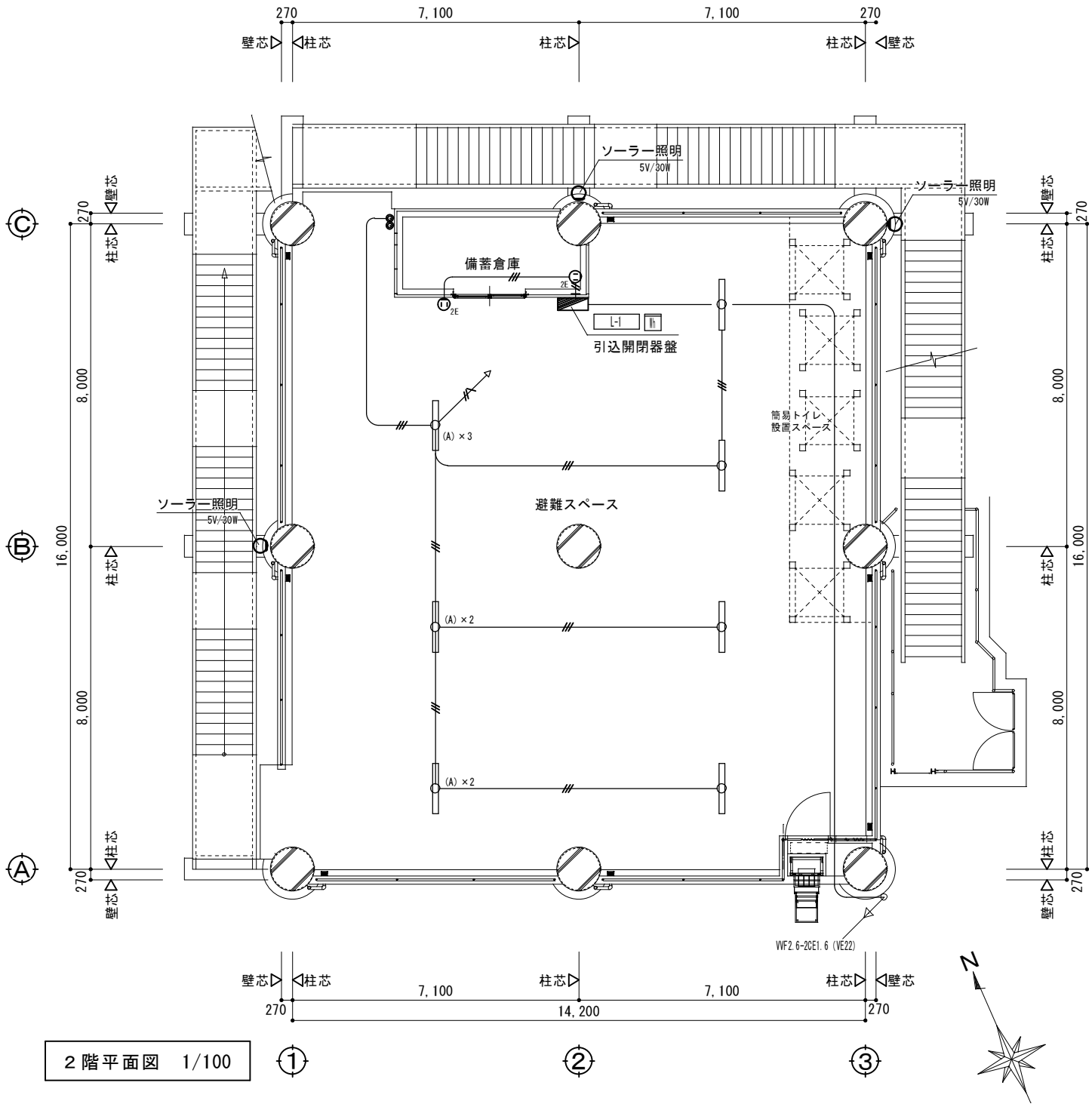
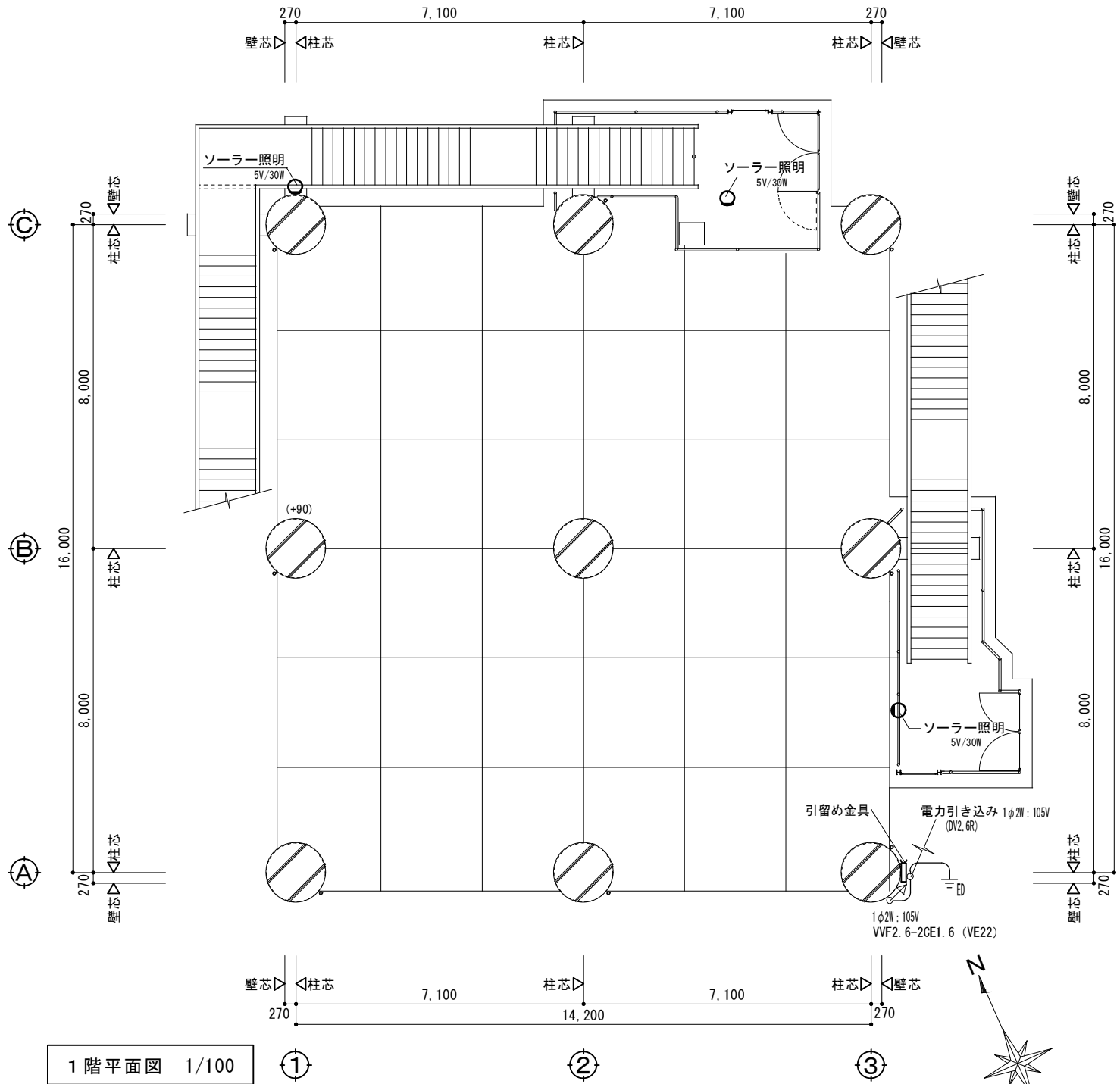
VVF1.6-2C×2(VE16)

VVF2.0-3C(VE22)

但し、二重天井内はケーブル配線とする。

(2) 配線器具、プレートはワイド型とする。

(3) ランプ色は打合せにより決定する。



工事名称

国府地区①津波避難施設新築工事

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所

三重県志摩市阿児町国府地区

2. 建物概要

国：国有財産法延面積（㎡）

建：建築基準法延面積（㎡）

建物名称	構造及び階数	国：延面積	建：延面積	消防法施行令の適用	耐震区分	備考
津波避難タワー	RC造・2F	-	-	別表第1(15)項		

3. 工事種目

（○印の付いたものが対象）

工事種目	建物外	建物内	屋外	屋外	屋外	屋外	屋外
・空調設備							
・換気設備							
・排煙設備							
・自動制御設備							
・衛生器具設備							
・給水設備							
○排水設備		○					
・給湯設備							
・消火設備							
・厨房設備							
・ガス設備							
・浄化槽設備							

4. 指定部分

・無・有

対象部分

5. 設備概要

（○印を付けたものは、本工事あるいは既設設備の概要を示すもので、仕様を規定するものではない。）

方式及び種別

	設備概要																																																																																																																
・空調方式	・○○○方式																																																																																																																
・主要熱源機器	・冷水機	・パッケージ型空調機																																																																																																															
・自動制御方式	・電気式	・電子式	・デジタル式																																																																																																														
・給水方式	・水道直結方式	・高置タンク方式	・圧力タンク方式																																																																																																														
	・ポンプ直送方式	・増圧給水直結方式																																																																																																															
○排水方式	建物内汚水、雑排水（・合流式・分流水） ポンプ排水・有（・汚水・雑排水・湧水）・無 建物外放流先雨水（○既設側溝・ 雑排水（・直放流下水管・ ・消火設備の種別	・屋内消火栓設備	・スプリンクラー設備	・泡消火設備																																																																																																													
	・連結放水設備	・連結送水管	・不活性ガス消火設備（・ ・ガスの種類	・都市ガス（種別・発熱量 MJ/m ³ (N)、供給事業者名 ・液化石油ガス（・ポンベ・バルクタンク・ 工事区分表（図面に特記なき場合は工事区分表による）	<table><thead><tr><th>項目</th><th>機械設備</th><th>建築</th><th>電気設備</th></tr></thead><tbody><tr><td>開口部</td><td>鉄骨部材のはり貫通部</td><td>穴開け（補強を含む）</td><td>○</td></tr><tr><td>部</td><td>鉄骨鉄筋コンクリート部材のはり貫通部</td><td>補強スリール</td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>R C部材のはりの貫通部</td><td>補強スリール</td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>R C部材の床・壁の貫通部</td><td>補強スリール</td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>床デッキプレートの貫通部</td><td>補強切り込み</td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>開口部の穴埋め補修</td><td>ボードの切込み及び補強共</td><td>○</td></tr><tr><td>基礎等</td><td>屋上設置の設備機器の基礎</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>大形設備機器の基礎</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>防水層に影響する基礎</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>上記以外の機器の基礎</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>架台、アンカーボルト</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>外部取付ガリ</td><td>ダクトチャンバーの接続用フランジを含む</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>換気扇の取付枠</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>床下水槽のマンホールふた</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>湯沸室等流し台</td><td>排水トラップ共</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>湯沸室等の排気フード</td><td>ステンレス製天蓋</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>床・天井点検口</td><td></td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>防油堤</td><td>建物内、油サービスタンクの防油堤</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>電</td><td>機器付風の制御壁以降の二次側配管配線（接地共）</td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>配</td><td>機器付風の制御壁への電源供給配管配線</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>配</td><td>自動制御壁と動力盤との電源供給の渡り配管配線</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>配</td><td>自動制御壁と動力盤との操作回路の渡り配管配線</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>配</td><td>機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線（接地共）</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>線</td><td>煙感知器から自動制御壁を経て防煙ダンパーに至る配管配線</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>小使室用節水装置の制御壁以降の二次側の配管配線</td><td></td><td>○</td></tr><tr><td>改修工事</td><td>コンクリート壁、床など</td><td>はつり 飛補修 仕上げ補修 撤去（ボード類のみ） 撤去（下地開口補強を含む） 復旧</td><td>○ ○ ○ ○ ○</td></tr></tbody></table>	項目	機械設備	建築	電気設備	開口部	鉄骨部材のはり貫通部	穴開け（補強を含む）	○	部	鉄骨鉄筋コンクリート部材のはり貫通部	補強スリール	○		R C部材のはりの貫通部	補強スリール	○		R C部材の床・壁の貫通部	補強スリール	○		床デッキプレートの貫通部	補強切り込み	○		開口部の穴埋め補修	ボードの切込み及び補強共	○	基礎等	屋上設置の設備機器の基礎		○		大形設備機器の基礎		○		防水層に影響する基礎		○		上記以外の機器の基礎		○		架台、アンカーボルト		○	外部取付ガリ	ダクトチャンバーの接続用フランジを含む		○	換気扇の取付枠		○		床下水槽のマンホールふた			○	湯沸室等流し台	排水トラップ共		○	湯沸室等の排気フード	ステンレス製天蓋		○	床・天井点検口			○	防油堤	建物内、油サービスタンクの防油堤		○	電	機器付風の制御壁以降の二次側配管配線（接地共）	○		配	機器付風の制御壁への電源供給配管配線		○	配	自動制御壁と動力盤との電源供給の渡り配管配線		○	配	自動制御壁と動力盤との操作回路の渡り配管配線		○	配	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線（接地共）		○	線	煙感知器から自動制御壁を経て防煙ダンパーに至る配管配線		○		小使室用節水装置の制御壁以降の二次側の配管配線		○	改修工事	コンクリート壁、床など	はつり 飛補修 仕上げ補修 撤去（ボード類のみ） 撤去（下地開口補強を含む） 復旧	○ ○ ○ ○ ○
項目	機械設備	建築	電気設備																																																																																																														
開口部	鉄骨部材のはり貫通部	穴開け（補強を含む）	○																																																																																																														
部	鉄骨鉄筋コンクリート部材のはり貫通部	補強スリール	○																																																																																																														
	R C部材のはりの貫通部	補強スリール	○																																																																																																														
	R C部材の床・壁の貫通部	補強スリール	○																																																																																																														
	床デッキプレートの貫通部	補強切り込み	○																																																																																																														
	開口部の穴埋め補修	ボードの切込み及び補強共	○																																																																																																														
基礎等	屋上設置の設備機器の基礎		○																																																																																																														
	大形設備機器の基礎		○																																																																																																														
	防水層に影響する基礎		○																																																																																																														
	上記以外の機器の基礎		○																																																																																																														
	架台、アンカーボルト		○																																																																																																														
外部取付ガリ	ダクトチャンバーの接続用フランジを含む		○																																																																																																														
換気扇の取付枠		○																																																																																																															
床下水槽のマンホールふた			○																																																																																																														
湯沸室等流し台	排水トラップ共		○																																																																																																														
湯沸室等の排気フード	ステンレス製天蓋		○																																																																																																														
床・天井点検口			○																																																																																																														
防油堤	建物内、油サービスタンクの防油堤		○																																																																																																														
電	機器付風の制御壁以降の二次側配管配線（接地共）	○																																																																																																															
配	機器付風の制御壁への電源供給配管配線		○																																																																																																														
配	自動制御壁と動力盤との電源供給の渡り配管配線		○																																																																																																														
配	自動制御壁と動力盤との操作回路の渡り配管配線		○																																																																																																														
配	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線（接地共）		○																																																																																																														
線	煙感知器から自動制御壁を経て防煙ダンパーに至る配管配線		○																																																																																																														
	小使室用節水装置の制御壁以降の二次側の配管配線		○																																																																																																														
改修工事	コンクリート壁、床など	はつり 飛補修 仕上げ補修 撤去（ボード類のみ） 撤去（下地開口補強を含む） 復旧	○ ○ ○ ○ ○																																																																																																														

Ⅱ 工事仕様

1. 共通仕様

（1）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁審判部制定の標準仕様書等によるものとし、●印のついたものを適用する。

・公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）（以下「標準仕様書」という。）

・公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成31年版）（以下「改修標準仕様書」という。）

・公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成31年版）（以下「標準図」という。）

（2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。

2. 特記仕様

（1）章は●印の付いたものを適用し、項目及び特記事項は○印の付いたものを適用する。

（2）特記事項のうち選択する事項は、●印の付いたものを適用する。

（3）受注者は、南海トラフ地震防災対策推進地域における工事にあつては、南海トラフ地震に関連する情報（臨時）が気象庁から出された場合には、工事中断の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全処置を講じなければならない。

上記事項が発生した場合は、契約書第26条（臨機の措置）の規定による。

章項目

特記事項

●一般共通事項

1. 発生材の処理等

金属類は引渡しを要するものとする。
・特別管理産業廃棄物（・
・構外搬出適切処理・別途工事
・石綿含有品（・配管用成形保温材・フランジ用ガスケット（・配管・ダクト））
・構外搬出適切処理・別途工事
・再生資源化を図るもの（・塩ビライニング鋼管・臭化リチウム）
・構外搬出適切処理・別途工事
上記以外のものの処理は構外搬出適切処理とする。
本工事は、特定建設資材を用いた建築物に係る解体工事又はその施工に特定建設資材を使用する新築工事等であつて、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年5月31日法律第104号）」又は都道府県が条例で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号）に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。
工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督職員と協議するものとする。
また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に変更した費用を書面にて監督職員に報告する。
（書式は「建設副産物情報交換システム」で作成したものとする）

（1）分別解体の方法

工程	作業内容	分別解体の方法
・新築	建設設備工事	・有
・増築	・有	・有
・修繕	・無	・有
・模様替		・有

（2）特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	再資源化等をする施設名称	所在地
・コンクリート		
・コンクリート及び鉄から成る建設資材		
・木材		
・アスファルト・コンクリート		

届出に係る事項の説明時に上記と異なる施設（同様の再資源化等を行う施設に限る。）を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができると。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

○構内敷きならし

・本工事は、建設発生土情報交換システム（以下「システム」という。）の登録対象工事であり、受注者は、工事の実施に当たっては土量、土質、土工期等に変更が有った場合、速やかに当該システムのデータ更新を行うものとする。尚、これにより難い場合には、監督職員と協議しなければならない。
構外搬出（片道運搬距離 約 km）
D10区間（・有・無）

（1）本工事において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）」に基づく、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成31年2月閣議決定）」に定める特定調達品目分野「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。

（2）建築物内部に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の1から4を満たすものとする。
1 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
2 接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
3 接着剤は、可塑性（フタル酸ジエーテル及びフタル酸ジエーテルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性を除く）が追加されていない材料を使用する。
4 1の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
（3）設計図面に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の1又は2に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の3又は4に該当する材料を指す。
1 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
2 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
3 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
4 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料

（1）本工事に使用する材料・機材等は、設計図面に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
（2）別表－1に機材等名が記載された製造業者等は次の1から6すべての事項を満たす証明となる資料を提出し監督職員の承諾を受ける。ただし、次の1から6すべての事項を評価された事を示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は、証明となる資料等の提出を省略することができる。
1 品質及び性能に関する試験データを整備していること。
2 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。
3 安定的な供給が可能であること。
4 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。
5 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。
6 販売、保守等の営業体制を整えていること。

6. 足場その他

・別契約の関係受注者（下請け工事の場合は元請け）が設置したものは無償で使用できる。
・本工事で設置する。
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
改修標準仕様書第1編2.2.1より足場の種別は以下による。
・内部足場（・A種・B種・C種・D種・E種・F種）
・外部足場（・A種・B種・C種・D種・E種・F種）

○根切り土の中の良質土（コンクリート管以外の管は山砂の類）

章項目

特記事項

○一般共通事項

1. 既設との取合い

本工事施工に伴う既設設備の軽微な加工改造は、本工事とする。

事前調査

調査項目：施工状況確認
調査範囲：図示
調査方法：既存資料調査及び現場確認

仮設間仕切

仮設間仕切は、改修標準仕様書第1編2.2.3による。種別（・A種・B種・C種）
既存部分の養生は、改修標準仕様書第1編3章による。

養生

改修標準仕様書第3編2.2.7「既設ダクトの再利用」による。
改修標準仕様書第3編2.2.8「ダクト清掃」を・行う・行わない
放射線透過検査等による埋設物の調査は（・要・不要）とする。
範囲は監督職員の指示による。なお、検査費は別途とする。

非破壊検査

（1）各種配管の試験は、新設配管に適用する。
（2）新設配管は、既設配管との接続前に試験を行う。

試験

改修標準仕様書第2編5.1.3「あと施工アンカー」による。
下記の試験を行う場合には、範囲は監督職員と協議による。
・アンカー引抜試験（・性能確認試験・施工後確認試験）

あと施工アンカー

撤去する配管（断熱材被覆鋼管を含む）、ダクト等の保温は分離する。
撤去する配管、ダクト等の支持金物、吊りボルト等は本工事に撤去する。
石綿含有分析調査

撤去工事

石綿撤去方法

・本工事（・図示による）
・別途工事

10. 冷媒（フロン類）の回収

喫煙用冷凍空調機器の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編2.4.3により、次の書類の写しを監督職員に提出する。
・冷媒充填・回収証明書
・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）
撤去する前にフロンを屋外側ユニットに集める作業（ポンプダウン）を行う。
パッケージ型空調機と熱交換器の移設等により、冷媒の回収・再充填が必要となる場合においては、上記に準じて冷媒の大気中への放出を防止する措置を講ずること。

章項目

特記事項

●排水設備

①配管材料

(1) 屋内 排水管（及び屋外第一階まで）

・排水用塩ビライニング鋼管
・コーティング鋼管
・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（R F－V P）
・硬質ポリ塩化ビニル管（V P）
・配管用炭素鋼管（白）
・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（R F－V P）
○硬質ポリ塩化ビニル管（V P）
・配管用炭素鋼管（白）
・コーティング鋼管

雨水管

ポンプアップ排水管

(2) 屋外 樹間

○硬質ポリ塩化ビニル管（○V P・V U）
・排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管（R E P－V U）
・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管（R S－V U）
・コンクリート管（・外圧管1種のB形・
リサイクルビニル管の適用範囲（R F－V P）：屋内の無圧の排水配管用（R E P－V U）：無圧排水用途の硬質塩化ビニル管（R S－V U）：埋設部で無圧の一般流体輸送配管用

(1) 洗面器及び手洗器に直結する排水管は器具トラップより1サイズアップとする。
(2) 給湯室台所流し等の床上部分の配管は、ビニル管（R F－V P）でもよい。
(3) 大便器、小便器、洗面器及び掃除流しとの接続管は、ビニル管（R F－V P）とする。
・要（・本工事・別途工事）○不要
図示の位置に取り付ける。

2. 洗面器等の排水管

③放流納付金

4. 満水試験継手

1. 施工図等

本工事で作成する施工図等のうち、次の原因及びその複写図（1部）を監督職員に提出する。ただし、製作図等て原因として提出ができないものは、原因に代わるものとしてよい。
なお、施工図等の著作権に係る当該建築物に属する使用権は、発注者に移譲する。
機器製作図一式、制御システム図一式
試験成績書一式、機器・配管固定の施工図一式

9. 機械の承諾図

機械設備工事機械承諾図様式集（平成28年版）によるほか、監督職員の指示による。
・本工事と下記項目の計画書及び測定報告書を出す。・別途とする。
調整項目（測定箇所等は監督職員の指示による。）
・風量調整・水量調整・室内外空気の温度の測定
・室内気流及びびんあいの測定・騒音の測定
・飲料水の水質の測定・初期運転状態の記録

10. 総合調整

換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。
・60Hz・50Hz
(1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。
(2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失等は、原則として表示された数値以下とする。
耐震措置の計算及び施工方法は次によるほか、建築設備耐震設計・施工指針2014年版（独立行政法人建築研究所監修）による。
(1) 機器の据付け及び取付け
設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量）に、地域係数〔・1.0・1.2〕及び次に示す設計用標準水平地震度を乗じたものとする。
設計用標準水平地震度

部位	機器種別	・特定の施設	・一般の施設
上層階	機器	2.0	1.5
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2.0	2.0
	水槽類	2.0	1.5
	機器	1.5	1.0
中間階	防振支持の機器	1.5	1.5
	水槽類	1.5	1.0
	機器	1.0	0.6
地階・1階	防振支持の機器	1.0	1.0
	水槽類	1.5	1.0

上層階とは2～6階建の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階、10～12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの。
重要機器は次のものを示す。
・給水機器（・排水機器（・
・換気機器・空調機器・熱源機器・防災設備
・監視制御設備・危険物貯蔵装置・火を使用する設備
・避難経路上に設置する機器
(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とした値とする。
機器システム図及び重要な定期点検項目等を記載した・アクリル樹脂製・市販パネルの案内板を設備機械室に設ける。但し、案内板の大きさは、約㎡とする。
(1) ステンレス鋼管の接合は、下記による。
・呼び径65 S u以下（・S A S 3 2 2を満足した継手・
(2) 建築物等内部配管の変位吸収方法は標準図（建築物等内部の変位吸収配管要領）による。
・（a）・（b）・（c）
(3) 溶接部の非破壊検査

・不要・要（・
(1) 地中埋設機

・要（図示による）
(2) 埋設表示テープ

・要（排水管を除く）
・不要
特記のない井の耐圧は、J I S又はJ V 5 Kとする。
油系に使用する井の耐圧は、10 K（マレアル併等）とする。
水道直結部に使用する井の耐圧は、J I S又はJ V 10 Kとする。
ステンレス鋼管に取り付ける呼び径65以上の弁は、ステンレス製とする。
図示の位置に取り付ける。
・ベローズ形・スリール形
図示の位置に取り付ける。
21. 防振吊り金物及び防振支持金物
標準仕様書第2編3章1節によるほか次による。ただし各工事種目で別に指定されたものは除く。
・多湿箇所
・共同内
ダクト：配管：
23. 塗装
・保温無し屋内露出の配管及びダクトは塗装を行う。（ただし、機械室内及び屋上は除く）
24. はつり
既存のコンクリート床、壁等の配管貫通部の穴開けは、図面に特記のない場合はダイヤモンドカッターによる。穴開けを行う際は、電磁誘導等の機器で鉄筋探索を行う。
（・書きの室名は直天井を示し、その他は二重天井を示す。
電線及びE Mケーブルの規格は標準仕様書第4編1.5.1表4.1.1.1による。
電線類は、E Mケーブルを使用する。（機器、盤類を除いてもよい）
屋外配管は圧鋼電線管（Z 30）とする。
屋外設置のマンホール類には用途名を入れる。

○改修関係事項

1. 既設との取合い

本工事施工に伴う既設設備の軽微な加工改造は、本工事とする。

事前調査

調査項目：施工状況確認
調査範囲：図示
調査方法：既存資料調査及び現場確認

仮設間仕切

仮設間仕切は、改修標準仕様書第1編2.2.3による。種別（・A種・B種・C種）
既存部分の養生は、改修標準仕様書第1編3章による。

養生

改修標準仕様書第3編2.2.7「既設ダクトの再利用」による。
改修標準仕様書第3編2.2.8「ダクト清掃」を・行う・行わない
放射線透過検査等による埋設物の調査は（・要・不要）とする。
範囲は監督職員の指示による。なお、検査費は別途とする。

非破壊検査

（1）各種配管の試験は、新設配管に適用する。
（2）新設配管は、既設配管との接続前に試験を行う。

試験

改修標準仕様書第2編5.1.3「あと施工アンカー」による。
下記の試験を行う場合には、範囲は監督職員と協議による。
・アンカー引抜試験（・性能確認試験・施工後確認試験）

あと施工アンカー

撤去する配管（断熱材被覆鋼管を含む）、ダクト等の保温は分離する。
撤去する配管、ダクト等の支持金物、吊りボルト等は本工事に撤去する。
石綿含有分析調査

撤去工事

石綿撤去方法

・本工事（・図示による）
・別途工事

10. 冷媒（フロン類）の回収

喫煙用冷凍空調機器の撤去に伴う冷媒の回収方法は、改修標準仕様書第3編2.4.3により、次の書類の写しを監督職員に提出する。
・冷媒充填・回収証明書
・特定家庭用機器廃棄物管理票（家電リサイクル券）
撤去する前にフロンを屋外側ユニットに集める作業（ポンプダウン）を行う。
パッケージ型空調機と熱交換器の移設等により、冷媒の回収・再充填が必要となる場合においては、上記に準じて冷媒の大気中への放出を防止する措置を講ずること。

訂正

工事名称

令和5・6年度国府地区①津波避難施設新築工事設計図

設計

片山

建築設計間34

三重県知事登録第1-2154号

一級建築士 大臣登録 第195765号

片山正司

図面名

特記仕様書（機械設備の部）


縮尺

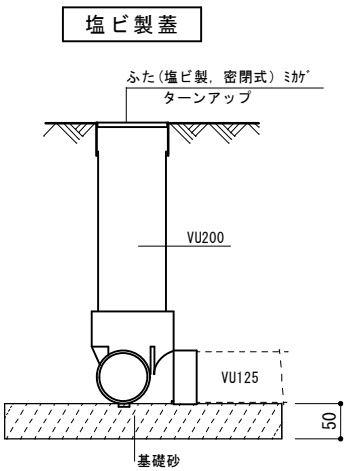
A3：A2×71%

図面番号

M-01

図 示 記 号	
記 号	名 称
—	排 水 管

樹 仕 様				
種 別	記 号	樹 寸 法	蓋 寸 法	備 考
小口径雨水樹	R-2	125φ	密 閉 型 200φ	記号 



汚水樹リスト		樹天端レベル＝設計GL±0（仮設定）				
番号	記号	名称	形状	蓋種別	備考	管底深さ（GL-）
1	R-2	雨水樹	ST	塩ビ蓋	起点	-150
2	R-2	雨水樹	90Y	塩ビ蓋		-250
3	R-2	雨水樹	90L	塩ビ蓋		-320
4	R-2	雨水樹	90L	塩ビ蓋	起点	-150
5	R-2	雨水樹	90WY	塩ビ蓋		-320
6	R-2	雨水樹	90WY	塩ビ蓋	起点	-150
7	R-2	雨水樹	90WY	塩ビ蓋		-230
8	R-2	雨水樹	90WY	塩ビ蓋		-270
9	R-2	雨水樹	90WY	塩ビ蓋		-350

* 樹天端レベルの設定については、監督職員と協議の上、決定する事。

